

LIFE



山梨大学 学生生活案内 2026

GUIDANCE



山梨大学憲章

平成17年10月1日 制定

山梨大学は、個人の尊厳を重んじ、真理の追究と学問の自由を大切にし、多様な文化や価値観を積極的に受け入れます。

また、社会の要求に応えつつ、広い知識と深い専門性を追求し、地域の中核となり、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人材を養成する場となることを表明します。

この憲章に基づいて、山梨大学の役員・職員・学生は、志を同じくするすべての人々と協力し、以下の目標の達成を目指します。

【未来世代にも配慮した教育研究】

山梨大学は、現代世代だけでなく、未来世代の福祉と環境にも配慮した視点に基づいて、教育研究を行います。

【諸学の融合の推進】

山梨大学は、専門領域を超えて協力し合い、諸学の柔軟な融合による新しい学問分野を創設し、さまざまな課題の解決に努めます。

【世界的研究拠点の形成】

山梨大学は、国際的視野を持って、問題の発見と解決に取り組み、世界の人材が集う研究拠点を構築し、学術及び科学技術の発展に貢献します。

【国際社会で活躍する人材の養成】

山梨大学は、市民としての倫理性と自律性を身に付け、専門性をもって、国際社会で活躍できる人材の養成に努めます。

【地域から世界へ】

山梨大学は、地域社会が抱える課題を取り上げ、その解決に地域と協同してあたり、得られた成果を世界に向けて発信します。

【現実社会への還元】

山梨大学は、教育研究の成果が社会に応用され、役立つよう、社会に積極的に還元することに努めます。

【絶えざる改革】

山梨大学は、自ら点検・評価を行うとともに、社会からの声を広く求め、絶えざる改革を推進します。



国立大学法人
山梨大学

CONTENTS

キャンパス案内・キャンパス基礎知識

1

- ◇ 大学年間スケジュール ◇ キャンパス案内図・教室一覧
- ◇ 学生窓口案内・証明書発行 ◇ 学生生活基礎知識

I 学生生活留意事項

1. 学生への学内通知と連絡方法、2. 家族等からの学生への連絡、
3. 氏名・本籍・現住所等の登録・変更、4. 休学・復学・退学、5. 懲戒及び除籍、
6. 授業料の納入、7. 学生の表彰、8. 拾得物・遺失物

II 本学で使用する記号

1. 学部・課程・学科等の記号、2. 大学院の記号、3. 学籍番号

III 学生年間行事

- ◇ 学生歌

課外活動支援

27

I 甲府キャンパス

II 医学部キャンパス

1. スポーツ施設とその利用方法、2. 学生団体・サークル等の紹介、
3. 学生団体・サークル活動に関する届出事項及び留意事項、
4. レクリエーション用具等の貸出

経済的支援・福利厚生施設

37

I 経済的支援

1. 高等教育の修学支援新制度(授業料等減免と給付型奨学金)
2. 奨学金、3. 授業料の免除等、4. 入学科の免除等、
5. 学術研究奨励金制度、6. アルバイトの斡旋、7. 学生保険の案内

II 福利厚生施設

1. 学生会館、2. 学生寄宿舎、
3. 厚生会館(山梨大学生活協同組合) <甲府キャンパス>
4. 福利厚生棟 <医学部キャンパス>、
5. シミックプラザ <医学部キャンパス>

学生相談・学生生活の安全

49

I 学生相談の案内

- 学生相談組織の紹介、○ 保健管理センター、○ 学生相談室、
- 人権侵害についての相談員、○ クラス担当教員等、
- 外国人留学生のための相談、○ カウンセリング・サポート室、
- アクセシビリティ・コミュニケーション支援室、

II 学生生活の安全

1. 交通事故の防止、2. 犯罪などからの防衛、3. 飲酒、4. 災害の防止

進路支援・国際交流

63

I 進路支援

1. 進路支援事業、2. 進路支援体制、3. キャリアセンターの利用案内、
4. 進路資料室(看護学科)の利用案内、5. アルバイトの掲示について
6. 障害のあるものの支援について

II 国際交流

1. 交流協定の締結状況、2. 海外留学、
3. 外国人留学生の受け入れ、4. 国際化推進センター

環境宣言・構内規制・情報倫理

73

I 山梨大学環境宣言

II 構内規制

1. 構内交通規制、2. 構内禁煙

III 情報セキュリティポリシーの順守

学内附属施設等・学内共同教育研究施設

85

教員名簿

115





LIFE GUIDANCE

2026



キャンパス案内 キャンパス基礎知識

- ◎大学年間スケジュール
- ◎キャンパス案内図・教室一覧
- ◎学生窓口案内・証明書発行
- ◎学生生活基礎知識

キャンパス案内・キャンパス基礎知識 目次

◇ 大学年間スケジュール	3
◇ キャンパス案内図・教室一覧	
○甲府西キャンパス	4
○甲府東キャンパス	6
○医学部キャンパス	8
◇ 学生窓口案内	
I 窓口電話番号一覧	10
II 窓口業務案内・証明書発行	
1. 全学生を対象とする窓口	11
2. 所属別学生窓口	12
3. 教室使用に関する窓口	14
4. 各種証明書の発行窓口	15
◇ 学生生活基礎知識	
I 学生生活留意事項	
1. 学生への学内通知と連絡方法について	16
2. 家族等からの学生への連絡について	17
3. 氏名・本籍・現住所等の登録・変更	17
4. 休学・復学・退学	17
5. 懲戒及び除籍	18
6. 授業料の納入	19
7. 学生の表彰	20
8. 拾得物・遺失物	20
II 本学で使用する記号	
1. 学部・課程・学科等の記号	21
2. 大学院の記号	22
3. 学籍番号	23
III 学生年間行事	24
学生歌 ○夢に向かって	25
○明日の翼ひろげ	26

大学年間スケジュール



前期	
4月1日	前期開始
4月上旬	入学式 ガイダンス等 定期健康診断
4月上旬～7月下旬	前期 授業期間
4月上旬～6月上旬	第1クォーター授業期間
6月上旬～8月上旬	第2クォーター授業期間
8月上旬～9月下旬	夏季休業
9月下旬	秋季卒業式・修了式
9月30日	前期終了

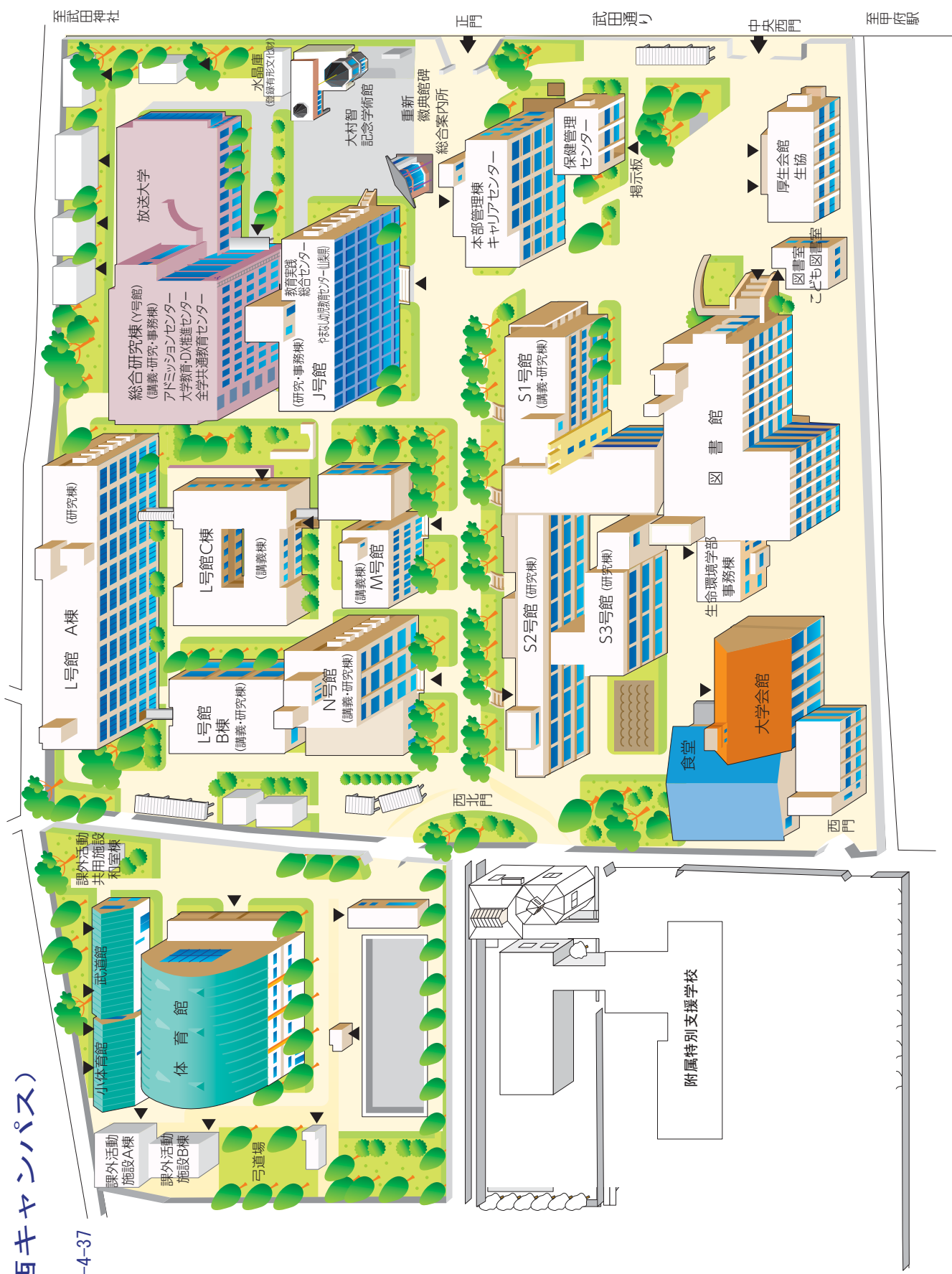
後期	
10月1日	開学記念日 後期開始
10月上旬	秋季入学式（大学院）
10月上旬～1月下旬	後期 授業期間
10月上旬～11月下旬	第3クォーター授業期間
11月下旬～2月上旬	第4クォーター授業期間
10月下旬～11月上旬	大学祭
12月下旬～1月上旬	冬季休業
2月上旬～3月31日	春季休業
3月下旬	卒業式・修了式
3月31日	後期修了

- 年間スケジュールの**日程・期日は年度ごとに異なります**。毎年度本学のホームページ「在学生の方・修学案内・年間スケジュール」(<https://www.yamanashi.ac.jp/campuslife/78>)に掲載されますので、年度ごとに確認してください。

キャンパス案内図

(甲府西キャンパス)

〒400-8510
甲府市武田4-4-37



甲府西キャンパス 教室一覽

建物名称	階	教室名	建物名称	階	教室名
J号館	3階	J-321	N号館	1階	N-11 N-12
				2階	N-21 N-24
1階	LC-11 LC-12 LC-13 LC-14	3階		N-32 N-33	
	LC-15 LC-16 LC-17	4階		N-41 N-42	
L号館C棟	2階	LC-21 LC-22 LC-23 LC-24	1階	S1-11 S1-12 S1-13 S1-14	
		LC-25 LC-26 LC-27	2階	S1-21 S1-22	
M号館	1階	M-11 M-12	総合研究棟 (Y号館)	1階	Y-11 Y-12 Y-13 Y-14 Y-15
				3階	Y-31 Y-32 Y-33

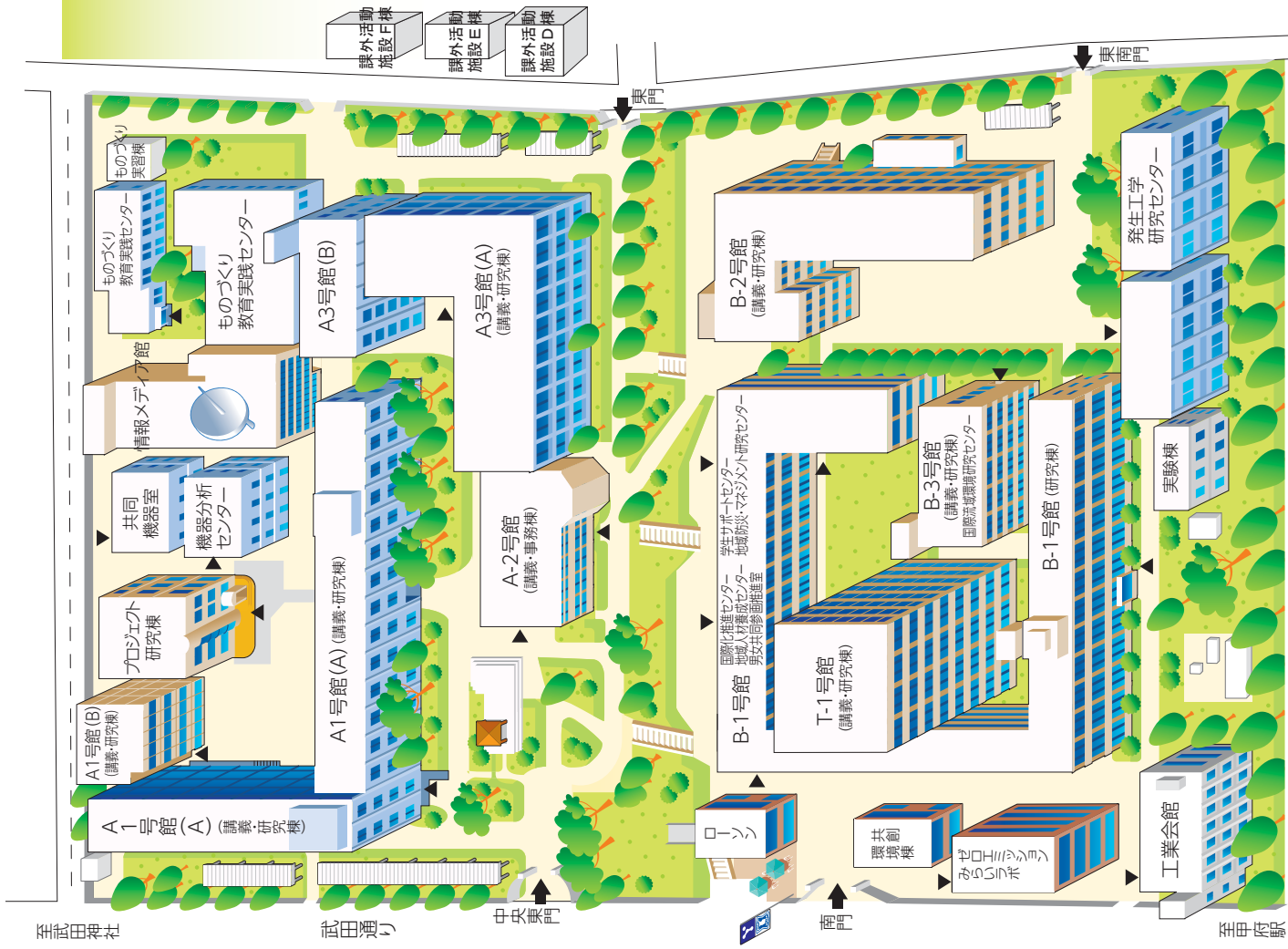
至成田神社

武田通り

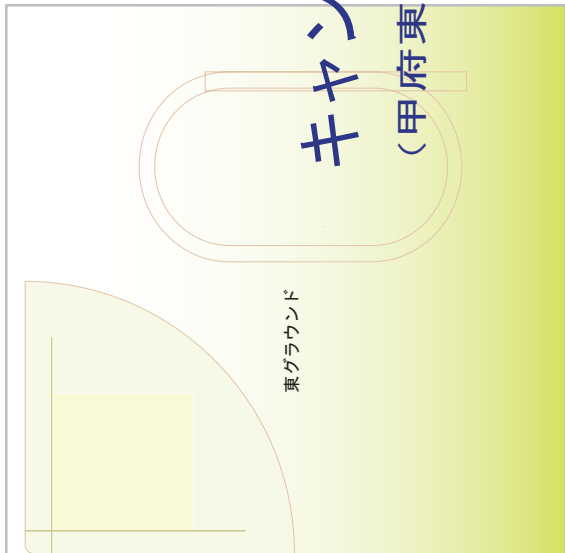
中央南門

南門

至甲府駅



課外活動施設F棟
課外活動施設E棟
課外活動施設D棟



東グラウンド

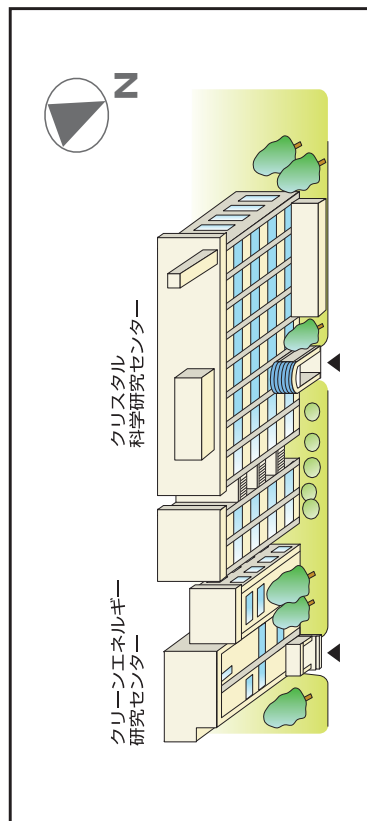
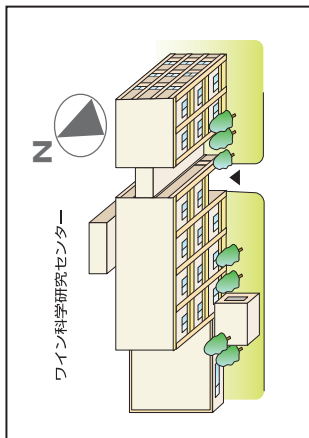
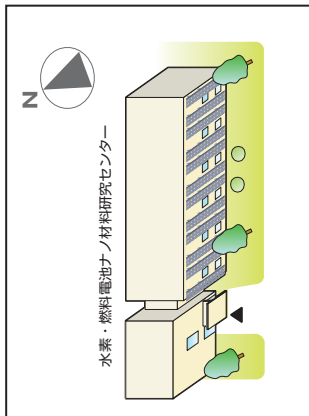
鷹師グラウンド

キャンパス案内図

(甲府東キャンパス)



甲府キャンパス以外の場所にある本学の施設



甲府東キャンパス 教室一覧

建物名称	階	教室名	建物名称	階	教室名
A-1号館	1階	A1-11	B-3号館	2階	B3-21 B3-22
	3階	A1-31		1階	T1-11 T1-12
	4階	A1-41		2階	T1-21 T1-22
A-2号館	1階	A2-11 A2-12 (アクティブラーニング室)	T-1号館	3階	T1-31 T1-32
	2階	A2-21		第1実習室 第2実習室	
B-2号館	1階	B2-11	情報メディア館	2階	第3実習室
	2階	B2-21		第4実習室	
	3階	B2-31	工業会館	3階	工業会館3階会議室 (アクティブラーニング室)
	4階	B2-41 (アクティブラーニング室)		3階	

医学部キャンパス 教室一覧

建物名称	階	教 室 名
講 義 棟	1 階	講義室 (1103)・(1104)・(1105) チュートリアル室①~⑯
	2 階	物理学実習室 (1203) 講義室 (1205) 化学実習室 (1204) チュートリアル室⑯・⑰ 学生自習室 (1202) 自学自習室① (1218)
	3 階	生物実習室 (1302)
実 習 棟	1 階	解剖実習室 (1153)
	2 階	実習室1 (生理・薬理・生化) (1251) 実習室2 (組織・病理) (1257)
	3 階	実習室3 (生物・微生物・生化) (1357)
看護学科 教育研究棟	1 階	講義室 (8107)・(8109) 演習室1 (8110) 演習室2 (8111) 演習室3 (8112) 演習室4 (8113) 演習室5 (8114) 演習室6 (8115) 演習室7 (8116) 演習室8 (8117) 演習室9 (8118)
	2 階	講義室 (8203)・(8204) 情報処理室 (8202) 生命情報実験室 I (8207) 生命情報実験室 II (8211)
	3 階	実習講義室 (8309) 基礎・成人看護学実習室 (8302) 健康科学実験室 (8310)
	4 階	母性・小児看護学実習室 (8402) 栄養調理実習室 (8409) 人間工学実習室 (8410) 人間科学自習室 (8412)
	5 階	地域・老人看護学実習室 (8502) 社会調査実習室 (8510) 行動科学実習室 (8511)・(8512)・(8513) 臨床看護学実習室 (8518) 演習室10 (8514) 演習室11 (8515) 演習室12 (8516)
臨床講義棟		大講義室 (4101) 小講義室 (4102)

I 窓口電話番号一覧

全学生対象窓口

教務企画課	甲府西 キャンパス	総合研究棟 2 階 (Y 号館)	055 (220) 8043
学生支援課			055 (220) 8052
入 試 課			055 (220) 8046
進路支援室		大学本部棟 1 階	055 (220) 8739
グローバル推進課	甲府東 キャンパス	B-1 号館 2 階	055 (220) 8047

所属学部等別学生窓口

教育学域支援課 教務グループ	甲府西 キャンパス	J 号館 1 階	055 (220) 8729
生命環境学域支援課 教務グループ		生命環境学部 事務棟 1 階	055 (220) 8807
工学域支援課 教務グループ	甲府東 キャンパス	A-2 号館 2 階	055 (220) 8714
医学域事務部学務課	医学部 キャンパス	医学部 管理棟 1 階	学生G 055 (273) 9346 教務G 055 (273) 9341

授業料納入窓口

会計課授業料納入窓口	甲府西 キャンパス	大学本部棟 2 階	055 (220) 8025
医学域事務部経理管理課 授業料納入窓口	医学部 キャンパス	医学部 管理棟 1 階	055 (273) 9239

学生相談に関する問い合わせ先

保 健 管 理 セ ン ター		保健管理センター	055 (220) 8081
学 生 相 談 室 人権侵害についての相談	甲府キャンパス	総合研究棟 2 階	055 (220) 8051
	医学部キャンパス	医学部管理棟 1 階	055 (273) 9346
キャリアセンター (キャリアアドバイザー)		大学本部棟 1 階	055 (220) 8319
カウンセリング・サポート室		B1 号館 3 階	055 (220) 8565
アクセシビリティ・コミュニケーション支援室		B 1 号館 2 階	055 (220) 8706
			055 (220) 8467

Ⅱ 窓口業務案内・証明書発行

1. 全学生を対象とする窓口

利用時間 8:30~17:15

学生支援課

- 学生相談に関する事
- 課外活動に関する事
- 福利厚生施設の利用に関する事
- 入学料・授業料の免除に関する事
- 奨学金に関する事
- 事故・事件等に関する事
- 学生寄宿舎に関する事
- 学生保険に関する事
- 学割証の発行
- スポーツ用具等の貸出
- 遺失物・拾得物に関する事

教務企画課

- 全学共通教育科目に関する事
- 全学共通教育科目を担当する非常勤講師に関する事
- 学生証の再発行に関する事
- 退学・休学・復学・再入学等に関する事
- 在学に関する証明書の発行
- 氏名・本籍・現住所等の登録・変更

進路支援室・キャリアセンター

- 進路・就職情報の収集・提供
- 就職関係ガイダンス等の実施
- キャリアアドバイザーによる相談
- キャリア教育の企画・推進

ここに掲載されている窓口は、
甲府キャンパスにあり、
すべての学部生・大学院生等
のための窓口です。



ただし、医学部キャンパス在学学生は、
医学域事務部学務課窓口を利用してください。

入試課

- 大学院入学試験に関する事
- 編入学試験に関する事

グローバル推進課

- 留学生の入国管理手続きに関する事
- 留学生の修学及び生活等に関する相談
- 留学生の奨学金に関する事
- 留学生の宿舎に関する事
- 本学からの海外留学等に関する事

2. 所属別学生窓口

利用時間 8:30~17:15

- 教育学部生
- 教育学研究科大学院生

教育学域支援課・教務グループ
附属教育実践総合センター・教職支援室

(甲府西キャンパス・J号館、L号館(A))

【教務グループ】

- 履修指導に関すること
- 履修申告に関すること
- 成績に関すること
- 履修成績関係の証明書に関すること
- 教育職員免許状に関すること
- 教育実習に関すること
- 介護等体験実習に関すること
- 退学・休学・復学・再入学等に関すること

【教職支援室】

- 教職への就職支援に関すること
- ※教員を目指す学生さんは学部にかかわらず利用可能です



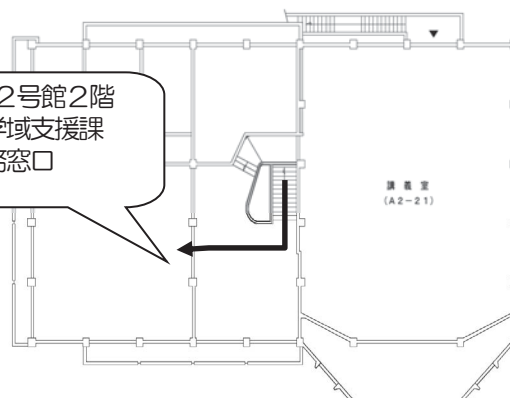
- 工学部生
- 医工農学総合教育部大学院生 (工学系)

工学域支援課・教務グループ

(甲府東キャンパス・A-2号館)

- 履修指導に関すること
- 履修申告に関すること
- 成績に関すること
- (内容によっては、当課で対応ができないことがありますので、ご承知おきください)
- 成績に関すること
- 履修成績関係の証明書に関すること
- 教育職員免許状に関すること
- インターンシップに関すること
- 退学・休学・復学・再入学等に関すること

A-2号館2階
工学域支援課
教務窓口

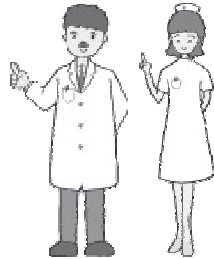
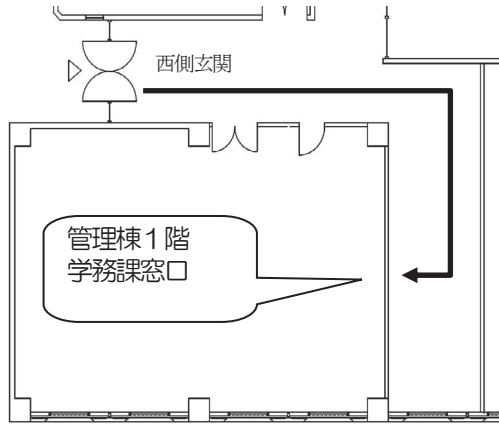


- 医学部生
- 医工農学総合教育部大学院生（医学系）

医学域事務部学務課

（医学部キャンパス・管理棟）

- 【教務グループ】
- 履修指導に関すること
 - 履修申告に関すること
 - 成績に関すること
 - 履修成績関係の証明書に関すること
 - 医師・保健師・看護師・助産師の
国家試験に関すること
 - 臨床実習に関すること
 - 看護実習に関すること
 - 退学・休学・復学・再入学等に関すること
- 【学生グループ】
- スモールクラスに関すること
 - 学生支援課、進路相談室、グローバル推進課
の所掌業務で医学部学生に関すること



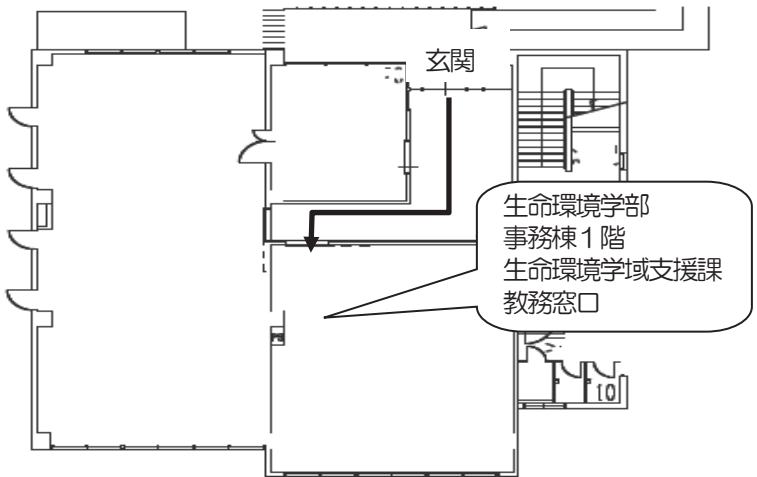
キャンパス案内
・基礎知識

- 生命環境学部生
- 医工農学総合教育部大学院生
（生命系）

生命環境学域支援課・教務グループ

（甲府西キャンパス・生命環境学部事務棟）

- 履修指導に関すること
- 履修申告に関すること
- 成績に関すること
- 履修成績関係の証明書に関すること
- インターンシップに関すること
- 退学・休学・復学・再入学等に関すること



3. 教室使用に関する窓口

利用時間 8:30~17:15

以下の教室の使用に関することは、該当の各窓口を確認願います。

窓 口	教 室 名 称
教育学域支援課 教務グループ	L号館C棟、M号館、N号館の教室
工学域支援課 教務グループ	A-1号館、A-2号館、B-2号館、 B-3号館、T-1号館の教室
医学域事務部学務課	医学部の教室
生命環境学域支援課 教務グループ	S1号館の教室
教学支援部教務企画課	総合研究棟の教室

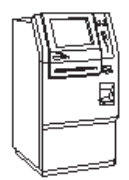
- ※ 甲府キャンパスの教室を使用したい場合は、希望日の3日前（土日祝日を除く）までに申請が必要です。
- ※ 音を出す課外活動は、L号館C棟を使用してください。
- ※ 使用可能時間は、授業期間の平日18:00~20:00です。

4. 各種証明書の発行窓口

- 各種証明書は、証明書発行機と証明書発行サービスで発行できます。
- 通学証明書は、教務企画課2番窓口で申請してください。（利用時間 8：30～17：15）

■証明書発行機による発行

学内に設置されている証明書発行機より、学生証を利用して発行が可能です（無料）。



設置場所

- 甲府キャンパス：A-2号館1階ロビー（利用時間 平日8：00～18：00）
- 総合研究棟1階ロビー（利用時間 平日8：00～18：00）
- 医学部キャンパス：管理棟1階医学域事務部学務課カウンター前（利用時間 平日7：40～19：00）

発行できる証明書

- ・在学証明書（和文）
- ・成績証明書（和文）
- ・卒業（修了）見込証明書（卒業（修了）年次の学生のみ）（和文）
- ・教育職員免許状取得見込証明書（卒業（修了）年次の該当学生のみ）（和文）
- ・健康診断証明書（卒業（修了）年次の学生のみ）（和文）
- ・学割証

◎ 上記以外の証明書および英文証明書は、証明書発行機では取得できません。下記の証明書発行サービスから申請してください。

■証明書発行サービスによる発行

証明書発行機で取得できない証明書は、証明書発行サービスから申請してください。

「証明書発行サービス」は、必要な証明書の発行をオンラインで申請後、コンビニ印刷、郵送、大学窓口で受け取りができるサービスです。また、証明書オンライン送付では企業などの提出先に電子データ（PDF）として申請者が直接送付することができます。

在学生用ログインサイトはこちら

詳細は大学ホームページをご確認ください。
<https://www.yamanashiac.jp/campuslife/37468>

①発行申請

証明書の種類・受取方法に関わらず、オンラインでの申請が必要です。

②証明書の受け取り

- コンビニのマルチコピー機
- 郵送（郵送料およびシステム利用料が必要です）
- 大学窓口
- 証明書オンライン送付

◎ 現在大学院等に在学している学生で、卒業した学部等に関する証明書については、「卒業生等」としてお申込みください（新規登録手続きおよび発行手数料等が必要です）。

I 学生生活留意事項

入学から卒業まで、これは知っておこう！



1. 学生への学内通知と連絡方法について

学生へのお知らせや休講・時間割変更・授業料等の減免・奨学金等の情報は、主にキャンパスネットワークサービス（CNS）により通知しますので、必ず**毎日確認するよう**心がけてください。これらの情報を見ていなかったために、学籍や成績、経済的なことなどに関して不利益が生じた場合は、すべて自己の責任となりますので、十分注意してください。

なお、CNSはスマートフォンのアプリ、もしくはインターネットに接続されたパソコン等から利用できます。スマートフォンのアプリは、iOS版とAndroid版があり、以下のQRコードもしくはURLからアプリをダウンロードしてご利用ください。また、CNSは、自分のパソコン等だけでなく、甲府キャンパスでは情報処理教室や学内オープン端末から、医学部キャンパスでは講義棟・基礎教育研究棟・臨床講義棟の各ロビー等に設置されたパソコンから利用できます。

山梨大学 Campus Networking Service (CNS) 公式アプリ：

iPhone 版公式アプリ：

<https://apps.apple.com/jp/app/cns/id6754067344>



< iPhone 版 >

Android 版公式アプリ：

https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.ac.yamanashi.cns2&pcampaignid=web_share



< Android 版 >

【安否確認サービス】

本学では、大地震等の自然災害発生時における学生及び教職員の安否確認を行う手段として、携帯電話等のメールアドレスに安否確認メール等を送信する「安否確認サービス」を導入しています。事前に登録された携帯電話等のメールアドレスへ本学から安否確認や緊急連絡のためのメールを送信します。

※気象警報・特別警報及び公共交通機関閉鎖に伴う授業の取扱いについての連絡にも利用します。

※携帯電話等のメールアドレスの登録状況をCNSで必ず確認してください。

※設定変更はパソコン用画面のみ可能となっています。

2. 家族等からの学生への連絡について

- (1) 学生への個人的な連絡（電話の取次、郵便物の受け渡し等）への対応は、原則として一切行いません。ただし、家族であることが確認でき、緊急と判断できる場合は別とします。
- (2) 学生の住所・電話番号等の照会については、親族であっても、その確認が難しい場合又はその理由によっては応じられないこともあります。
また、本学の学生が他の学生の住所・電話番号等を照会することはできません。（特別な事情であると認められる場合を除く。）

3. 氏名・本籍・現住所等の登録・変更

窓口

甲府キャンパス：教務企画課
医学部キャンパス：医学域事務部学務課

氏名・本籍・現住所等に変更があった場合、速やかに変更手続きを行ってください。特に氏名については、卒業時の学位記（卒業証書）及びすべての証明書等に使用されますので、就職や教員免許状などの資格取得の際に大きな障害となることがあります。

また、現住所等が正しい連絡先を登録されていない場合は、災害時の安否確認を含む本学からの重要な連絡・通知が届きませんので、必ず変更手続きを行ってください。

【変更方法】

1. 学生本人の現住所、電話番号、携帯電話番号、携帯メールアドレス等の変更
CNSの「連絡先情報変更/Change Contact Information」、または各キャンパスの窓口で変更してください。
2. 上記1以外の学生本人の氏名等、保護者等・緊急連絡先の現住所等の変更
以下の山梨大学 Web サイト掲載の変更フォーム、または各キャンパスの窓口で変更してください。

○キャンパスライフ>修学支援>氏名・本籍・現住所等の登録・変更
<https://www.yamanashiac.jp/campuslife/3965#m3>



4. 休学・復学・退学

窓口

甲府キャンパス：教務企画課、各学域支援課教務グループ
医学部キャンパス：医学域事務部学務課

(1) 休学

病気その他の事由によりやむを得ず2ヶ月以上修学を継続できない場合には、「休学願」を提出し、休学することができます。（休学については、学則に記載されていますのでお読みください。）甲府キャンパス学生（医学部1年生を除く）は休学しようとする日の20日前まで、医学部キャンパス学生・医学部1年生は休学しようとする日の1ヶ月前までに「休学願」を提出してください。

なお、休学する期間によっては、授業料納入にも関係しますので、事前に窓口において相談するなど、「休学願」の提出にあたっては十分注意してください。

(2) 復学

承認された休学期間が終了する場合は、「復学願」を提出する必要があります。甲府キャン

ス学生（医学部 1 年生を除く）は復学しようとする日の 20 日前まで、医学部キャンパス学生・医学部 1 年生は復学しようとする日の 1 ヶ月前までに「復学願」を提出してください。

なお、遅延した場合、復学しようとする学期の履修申告が受けられない場合がありますので、十分注意してください。

(3) 退 学

やむを得ない事由により退学しようとする場合は、「退学願」を提出する必要があります。甲府キャンパス学生（医学部 1 年生を除く）は退学しようとする日の 20 日前まで、医学部キャンパス学生・医学部 1 年生は退学しようとする日の 1 ヶ月前までに「退学願」を提出してください。

なお、退学する時期によっては授業料納入にも関係しますので、事前に窓口において相談するなど「退学願」の提出にあたっては十分注意してください。

奨学金の貸与・給付期間中に身分の異動（休学、復学、退学、留学、転学部等）がある場合は、上記の手続とは異なりますので学生支援課または医学域事務部学務課に申し出てください。

5. 懲戒及び除籍

問合せ先

甲府キャンパス：教務企画課・学生支援課

医学部キャンパス：医学域事務部学務課

(1) 懲戒について

「学則に違反し又は学生としての本分に反する行為があった場合」は、「退学」、「停学」又は「訓告」の懲戒処分となります。

なお、「停学」は、一定期間登校を停止する処分です。

停学期間内においては、「試験等の受験」及び「次年度（次学期）の履修申告」はできません。

停学期間は、卒業に必要な修業年数に含まれません。つまり、停学となった場合、停学期間の長短にかかわらず、また、卒業に必要な単位を修得している場合であっても、通常の年限（4 年間・医学科は 6 年間）では卒業できません。

○懲戒の対象となる事例

傷害、窃盗等の犯罪行為、ハラスメント等の人権を侵害する行為、又は試験等における不正行為、交通事故・交通違反などにおいて重大な過失があった場合
(自転車、バイク及び車の運転には十分注意してください。)

奨学金の貸与・給付期間中に懲戒処分を受けた場合、奨学金が「停止」または「廃止」、「返還」となることがあります。奨学金を利用する場合は、特に懲戒処分となるような行為がないよう十分に注意してください。

(2) 除籍について

次のいずれかの事由に該当するときは、除籍となります。

- (ア) 所定の在学年限内に所定の単位を修得できない場合
- (イ) 休学期間を超えてなお復学できない場合
- (ウ) 入学料の免除が不許可となった者並びに半額免除又は徴収猶予された者が、所定の期日までに入学料を納入しない場合
- (エ) 授業料の納入を怠り、督促してもなお納入しない場合
- (オ) 長期にわたり行方不明である場合

6. 授業料の納入

窓口

甲府キャンパス：本部棟 会計課授業料納入窓口（055-220-8025）

医学部キャンパス：管理棟 医学域事務部経理管理課授業料納入窓口（055-273-9239）

① 納入時期	前期分=4月 後期分=10月
② 納入方法	口座引落・・・学生本人名義の預金口座から引落とし (やむを得ない場合のみ、会計課又は医学域管理課窓口で現金で納入) 受付時間 8:30~12:00、13:00~16:00 (ただし、土・日・祝日を除く)
③ 通知方法	4月と10月にキャンパスネットワークサービス(CNS)で通知
<p>※ 授業料は、前期・後期の半期ごとに、それぞれ定められた期間内に納入しなければなりません。定められた期間内に納入されなかった場合には、大学から督促状を発送します。</p> <p>※ 引落とし口座の登録は、「授業料引落とし依頼書(山梨中央銀行用)」、「自動払込利用申込書(ゆうちょ銀行用)」、「預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書(その他の金融機関用)」のいずれか一つを会計課、又は医学域管理課窓口へ提出する必要があります。</p>	

7. 学生の表彰

問合せ先

甲府キャンパス：学生支援課
医学部キャンパス：医学域事務部学務課

本学では、下記の基準により、全学における学生表彰を行っています。
自薦・他薦を問いませんので、該当事項がある場合は、上記問い合わせ先に相談してください。
なお、学部での学生表彰もありますので、必要に応じて所属学部教務窓口にお問い合わせください。

(表彰基準)

学生の表彰は、次の各号に該当する個人又は団体について行います。

(1) 学業

学業において、特に優秀な成績を修め、かつ本学学生の模範となると認められた場合

(2) 学術研究活動関係

ア 関東地区規模以上の学会等において賞を受けた場合

イ その他、アに準じた功績等で高い評価を受けた場合

(3) 課外活動関係

ア 国際規模の競技会、コンクール、展覧会、公演会等（以下「競技会等」という。）
に出場、出展又は出演した場合

イ 全国規模の競技会等（参加大学又は学部等を限定する競技会等を除く。）に出場し、
入賞した場合

ウ 関東（関東甲信越）規模の競技会等（参加大学又は学部等を限定する競技会等を除く。）
において、優秀な成績を収めた場合

エ 参加大学又は学部等を限定する競技会等において、以下の成績を収めた場合

① 東日本医科学生総合体育大会及び全日本医科学生体育大会において、入賞（1～3位）
した場合

② 関東甲信越大学体育大会において、優勝した場合

③ その他、これに準ずる競技会等において、優勝した場合

オ その他ア～エに準ずる競技会等において、特に優秀な成績を収めた場合

(4) 社会活動関係

ア 社会活動に関し、公共団体等から表彰を受けた場合

イ 人命救助、犯罪防止、災害予防、ボランティア活動等に貢献し、社会的に
高い評価を受けた場合

ウ 課外活動のうち、地域社会及び大学に貢献したと思われる活動があった場合

(5) その他、前4号に掲げる場合以外において、その行為が社会的に高く評価される等、本学学生
の模範となりうると認められた場合

8. 拾得物・遺失物

窓口

甲府キャンパス：学生支援課、各学域支援課教務グループ
医学部キャンパス：医学域事務部学務課

(1) 拾得物について

学内で、落とし物を拾った・忘れ物を見つけた場合は、学生支援課、各学域支援課教務グループ若しくは医学域学務課窓口へ届けてください。

(2) 遺失物について

学生支援課、各学域支援課教務グループ若しくは医学域事務部学務課に届けられた拾得物は、各窓口にある「遺失物陳列棚」に一定期間陳列しますので、そこに自分の物があった場合は窓口へ申し出てください。

ただし、金銭・財布・カードなどについては陳列しませんので、落とした場合は、窓口へ直接申し出てください。

Ⅱ 本学で使用する記号

1. 学部・課程・学科等の記号

学部	記号	課程	コース・プログラム	記号
教育学部	E	学校教育課程	幼児教育コース	O1
			障害児教育コース	O2
			言語教育コース	O3
			生活社会教育コース	O4
			科学教育コース	O5
			芸術身体教育コース	O6
			やまなし小学校教育コース	O7

学部	記号	学科	記号
医学部	D	医学科	SM
		看護学科	SN

学部	記号	学科	コース・クラス名	記号
工学部	T	工学科	クリーンエネルギー化学コース(化学系クラス)	CL
			応用化学コース(化学系クラス)	AC
			土木環境工学コース(土木環境系クラス)	CE
			コンピュータ理工学コース(情報系クラス)	CS
			機械工学コース(機械電気系クラス)	ME
			メカトロニクスコース(機械電気系クラス)	JM
			電気電子工学コース(機械電気系クラス)	EE
			総合工学クラス	GE

学部	記号	学科	記号
生命環境学部	L	生命工学科	BT
		地域食物科学科	FS
		(ワイン科学特別コース)	(FSW)
		環境科学科	EV
		地域社会システム学科	SS
		(観光政策科学特別コース)	(SST)

2. 大学院の記号

研究科	記号	課程	専攻	記号
教育学研究科	M	教職大学院の課程	教育実践創成専攻	EP

教育部	記号	課程	専攻等	コース	記号
医工農学総合教育部	G	修士課程	生命医科学専攻		SM
			看護学専攻		SN
			工学専攻	機械工学コース	TM
				電気電子工学コース	TE
				コンピュータ理工学コース	TK
				メカトロニクス工学コース	TJ
				土木環境工学コース	TC
				応用化学コース	TA
				先端材料理工学コース	TZ
				流域環境科学特別教育プログラム	TR
				グリーン社会・変換工学特別教育プログラム	TG
			生命環境学専攻	バイオサイエンスコース	LB
				食物・ワイン科学コース	LF
	地域環境マネジメントコース	LR			
	G	博士課程	医学専攻		DDM
			ヒューマンヘルスケア学専攻		DDN
			工学専攻	システム統合工学コース	DTS
				エネルギー物質科学コース	DTE
				環境社会システム学コース	DTK
			統合応用生命科学専攻	生命農学コース	DIA
生命医科学コース				DIM	
生命工学コース	DIB				

3. 学 籍 番 号

(1) 教育学部学生の学籍番号

(例)	学部記号	入学年度 (西暦下2桁)	コース記号	コース・プログラム別 五十音順番号
E**01001	E	**	01	001

(2) 医学部学生の学籍番号

(例)	学部記号	入学年度 (西暦下2桁)	学科記号	学科別 五十音順番号
D**SM001	D	**	SM	001

(3) 工学部学生の学籍番号

(例)	学部記号	入学年度 (西暦下2桁)	五十音順番号
T**00001	T	**	00001

(4) 生命環境学部学生の学籍番号

(例)	学部記号	入学年度 (西暦下2桁)	学科・コース 記号	学科・コース別 五十音順番号
L**BT001	L	**	BT	001

(5) 大学院学生の学籍番号

(例)	研究科・教育部 記号	入学年度 (西暦下2桁)	専攻・コース 記号	専攻・コース別 五十音順番号
M**EP001	M	**	EP	001
G**SM001	G	**	SM	001

(6) 研究生・科目等履修生・特別研究学生・特別聴講学生の学籍番号

(例)	所属学部	課程	記号	種別	記号(英字)
E**RRO01	教育学部		E	研 究 生	RR
T**RRO01	医学部		D		RR
G**RSM01	工学部		T		RR
G**RDA01	生命環境学部		L		RR
M**LLO01	教育学研究科		M		RR
G**3L001	大学院医工農学総合教育部	修士課程	G		R□□
G**4L001	//	4年博士課程	G	R□□□	
E**LX001	//	3年博士課程	G	R□□□	
	教育学部		E	科目等履修生	LL
	工学部		T		LL
	生命環境学部		L		LL
	教育学研究科		M		LL
	大学院医工農学総合教育部	修士課程	G		LL
	//	4年博士課程	G		4L
	//	3年博士課程	G	3L	
	教育学部		E	特別研究学生	RX
	工学部		T		RX
	生命環境学部		L		RX
	教育学研究科		M		RX
	大学院医工農学総合教育部		G	RX	
	教育学部		E	特別聴講学生	LX
	工学部		T		LX
	生命環境学部		L		LX
	教育学研究科		M		LX
	大学院医工農学総合教育部		G		LX
	国際化推進センター		I		LX

□は所属学科等の記号

Ⅲ 学生年間行事

甲府キャンパスの学生行事

- (1) 新入生交歓会《4月》
各学科（講座）単位で教員、在学生、新入生が交流を深めることを目的として行われます。
- (2) 新入生オリエンテーション《4月中旬～5月中旬》
新入生等を対象に、各学域や学科等の単位で行われます。教職員と相互理解を深めたり、修学や進路等について意見交換し、またあたらしい友人関係が得られたりします。
- (3) 関東甲信越大学体育大会《8月》
関東甲信越（東京地区を除く）の国立大学 10 校、公立大学2校の学生が参加し、行われる学生総合体育大会です。このうちの3若しくは4大学が開催当番校となり、開催されます。
- (4) 大学祭（梨甲祭）《10月下旬～11月上旬》
学生団体の大学祭実行委員会により行われる行事です。構内を一般に公開し、日頃の研究及び活動の発表や、仮装パレードをはじめとする様々なイベント等が行われます。

医学部キャンパスの学生行事

- (1) 医学部新入生歓迎会《4月上旬》
医学部及び医学部キャンパスを紹介することを目的に医学部学生会が開催します。医学部キャンパスのサークル紹介や懇親会等も行われます。
- (2) 大学祭（梨医祭）《10月下旬》
学内を一般に公開し、医学展及び看護展を中心に展示・発表や各種イベントが行われ、地域住民との交流を深めています。
- (3) 東日本医科学生総合体育大会（東医体）《8月上旬～中旬（冬季競技を除く）》
東日本の国公立医科大学の友情を深めるため、医科学生が自主的に運営する体育大会です。本学部も昭和 56 年度（第 24 回）大会から参加しています。また、東医体と西医体（西日本の大会）の各種目の上位代表大学で競い合う、全日本医科学生体育大会も開催されています。

山梨大学学生歌

夢に向かって

作詞：稲岡 俊一

作曲：上田 理沙

キャンパス案内
・基礎知識



1. あお い キャンパス おおぞらに おも いのままに えが く ゆめ つら
2. のべ に きせつのはな がさき しぜ んのなかに めぐ まれて れき
3. ときの な がれは たえまなく まな びのみちは はて しなく ちが



なる やまの その むこう せか いにつな がる ころざ し わか
しも ふかい この とちに あら たな えい こゝ きずき ゆ く たが
らに みちた まな ざしで みら いを みつめて すすみ ゆ く しゃか



さに かが やく | せい えいが、つど う われ らの やまなしだ い が く
いに ちか った |
いに やく だつ |

<p>3 時の流れは 絶え間なく 学びの道は 果てしなく 力に満ちた まなざしで 未来をみつめて 進み行く 社会に役立つ 精鋭が 集う我等の 山梨大学</p>	<p>2 野辺に季節の 花が咲き 自然の中に 恵まれて 歴史も深い この土地に 新たな栄光 築き行く 互いに誓った 精鋭が 集う我等の 山梨大学</p>	<p>1 あおいキャンパス 大空に 思いのままに えがく夢 連なる山の その向こう 世界につながる ころざし 若さにかがやく 精鋭が 集う我等の 山梨大学</p>
---	--	---

山梨大学学生歌「明日の翼ひろげ」

作詞：岩崎 巖
作曲：藤原嘉文

1 あじすのつかはらさをひろげりかい
2 じぶんののつかはらさをひろげりかい
3 しきののつかはらさをひろげりかい

ぜきののなみにかちをたさうとがそろうよあつや
まののみにかにでさうたがそろうよなもえ

いみるみあけいただあひてはき } わかいこ

ころよ おおぞらかけよう

Oh! My young days in my heart

my young days in Ya ma na shi

my young days in my heart Uhi-ver-si

ty of Ya ma na shi

1. 明日の翼ひろげ 風の笛に立とうよ 2. 自分の殻を破り 生きる道を探そうよ 3. 四季の色がめぐる山の国で歌おうよ
 熱い未来 だいて 若い心よ 悩み明けた朝は 若い心よ 燃える声は ひびき 若い心よ
 大空 翔けよう 大空 翔けよう 大空 翔けよう

※ Oh! My young days in my heart
 ※ Oh! My young days in yamanashi
 ※ Oh! My young days in my heart
 University of Yamanashi



LIFE GUIDANCE

2026



課外活動支援 甲府キャンパス・医学部キャンパス

- ◎スポーツ施設とその利用方法
- ◎学生団体・サークル等の紹介
- ◎学生団体・サークル活動に関する届出事項等
- ◎レクリエーション用具等の貸出

課外活動支援 目次

I 甲府キャンパス

1. スポーツ施設とその利用方法 29
2. 学生団体・サークル等の紹介 30
3. 学生団体・サークル活動に関する届出事項及び留意事項 31
4. レクリエーション用具等の貸出 32

II 医学部キャンパス

1. スポーツ施設とその利用方法 33
2. 学生団体・サークル等の紹介 34
3. 学生団体・サークル活動に関する届出事項及び留意事項 35
4. レクリエーション用具等の貸出 35

I 甲府キャンパス

窓口 学生支援課（甲府キャンパス）

1. スポーツ施設とその利用方法

- 利用にあたっては、窓口で「体育施設使用願」の提出が必要です。
- 授業及びサークル活動の優先使用となりますが、空いている場合は、グループ又は任意の団体等で利用できます。



体 育 館	競技設備等	バレーボールコート（2面）、バドミントンコート（6面） バスケットボールコート（2面）
	付帯設備等	更衣室、シャワー室、トイレ、観客席
小体育館	競技設備等	卓球場、空手道場
	付帯設備	トイレ
武 道 場	競技設備等	柔道場、剣道場
	付帯設備	更衣室、シャワー室
弓 道 場	競技設備等	6人立ち弓場、的場
プ ー ル	競技設備等	50m×15m（7コース）
	付帯設備	更衣室、シャワー室、トイレ
グラウンド	競技設備等	スポーツ用多目的グラウンド（陸上、ラグビー、サッカー、野球、その他）
	付帯設備	シャワー室、更衣室、トイレ
テニスコート	競技設備等	人工芝コート（10面）
	付帯設備	駐車場、器具庫
鷹師運動場	競技設備等	フットサルコート
	付帯設備	器具庫、更衣室、トイレ

2. 学生団体・サークル等の紹介

☆ 文化系サークル

音楽系	管弦楽団、吹奏楽団、合唱団、ギタークラブ、ピアノサークル、軽音楽部、フリーミュージック、WineRed（作曲・DTM）、ジャズ研究会、BouncY（DJ）
芸術・文化系	美術部、写真部、華道部、裏千家茶道部、表千家茶道部、g^2（ゲーム等創作活動）
研究会・その他	天文部、競技プログラミング部、競技百人一首、NICE（国際交流）、Change!!!（国際協力）、ラノヘ部（読書）、TCGサークル（カードゲーム）、TRPG研究会（テーブルトークRPG）、ゲーム研究会、囲碁・将棋研究会、アマチュア無線部、甲府南RAC（ボランティア）、Ampopo（国際交流・バスケットボール）

☆ スポーツ系サークル

（ は、関東甲信越大学体育大会出場サークル）

球技	【野球】 <u>硬式野球部</u> 、 <u>準硬式野球部</u> 、2.O.F.B 風林火山（軟式野球） 【テニス】 <u>硬式テニス部</u> 、 <u>ソフトテニス部</u> 、S.S.HeyHey 【バスケットボール】 <u>男子・女子バスケットボール部</u> 、Buzzer Beater 【バレーボール】 <u>男子・女子バレーボール部</u> 、TUESDAYS 【サッカー】 <u>男子・女子蹴球部</u> 、脚men's（フットサル） 【バドミントン】 <u>バドミントン部</u> 、F.S.Miracle、燃えミン <u>卓球部</u> 、アメリカンフットボール部、アイスホッケー部、撞球部（ビリヤード）
競技	<u>陸上競技部</u> 、 <u>水泳部</u> 、 <u>馬術部</u> 、 <u>アルティメット</u>
武道	<u>剣道部</u> 、 <u>柔道部</u> 、 <u>空手道部</u> 、 <u>弓道部</u> 、 <u>躰道部</u>
アウトドア	山岳部、野外活動部、野外教育サークル
ダンス	ダンス部
その他	学生フォーミュラ部、ワッパの会（自転車）

☆ 学生団体

甲府キャンパス学友会	甲府キャンパス学生団体・サークル等の代表組織
甲府キャンパス大学祭実行委員会	甲府キャンパス大学祭の企画・運営

3. 学生団体・サークル活動に関する届出事項及び留意事項

(1) 公認等に関する届出事項

団体・サークル等の公認を受けたい場合(新規希望時提出)	「団体・サークル公認希望届」等
団体・サークル等の公認を継続する場合(毎年度提出)	「団体・サークル公認継続希望届」等

(2) 日常的な活動等に関する届出事項

団体・サークル等が大学の施設等を使用する場合	「施設使用願」
発表会・演奏会・対外試合・交流会等を開催する場合	「開催届」
合宿・遠征・登山等を行う場合	「合宿・遠征届」・「登山届」

(3) 団体・サークルの活動に関するルール等について

学生団体・サークルの活動に関して、下記の要項等が定められていますので、該当事項がある場合は、それぞれに設定されている手順に従って申請等してください。

記

① 学生団体・サークルの公認等全般について

○ 「甲府キャンパス課外活動団体の公認手続等に係る申合せ」
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公認について、「申請手続・公認要件・公認継続・公認取消」等が定められています。 ・ 各種変更や学外活動時の届出についても定められています。 ・ 公認団体の支援についても定められています。

② 部室の貸与について

○ 「甲府キャンパス学生団体・サークル等への部室等の貸与に関する要項」
<ul style="list-style-type: none"> ・ 部室貸与について、「申請資格・申請手続・貸与継続・貸与解除」等が定められています。 ・ 「部室等新規貸与願」は、空きがある場合はお知らせします。 ・ 「部室等継続貸与願」は、毎年1～2月に提出してください。 (提出がない場合は貸与取消)

③ 学生団体の行う会費等の徴収について

○ 「入学手続（学務関係手続）における甲府キャンパス学生団体の会費等の徴収に関する要項」
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新入生から会費等を徴収できる学生団体及び申請資格等が定められています。 ・ 申請する場合は、「会費等徴収申請書」を、徴収日の6ヶ月前までに提出

④ 新入生へのサークル等の勧誘活動について

○ 「新入生に対するサークル等の勧誘活動に関する要項」
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新入生の勧誘活動の開始日・勧誘方法等が定められています。

4. レクリエーション用具等の貸出

○利用にあたっては、窓口で手続きが必要です。
 ○利用品目により「貸出・返却」の場所が異なります。
 （利用申請の際に貸出・返却場所の指示があります。）



(1) 球技用具

球技名	貸出品目	利用手続
バドミントン	ネット・ラケット	使用日の3日前までに 「物品借用願」を提出
テニス	ラケット	
バレーボール	ネット	
バスケットボール	ボール	

(2) アウトドア用品

貸出品目	規格等	利用手続
キャンプ用テント	3・5人用	使用日の3日前までに 「使用申込書」を提出
キャンプ用寝袋	夏用・冬用・3シーズン用	

(3) その他

貸出品目		利用手続
(大型物品)	長机、パイプイス、イベント用テント	使用日の3日前までに 「物品借用願」を提出
(機器類)	マイク、スクリーン、ハンドマイク、ドラムコード、プロジェクター、トランシーバー、ストップウォッチ	

Ⅱ 医学部キャンパス

窓口

医学域事務部学務課（医学部キャンパス）



1. スポーツ施設とその利用方法

- 利用にあたっては、窓口で簡単な手続きが必要です。
- 授業及びサークル活動の優先使用となりますが、空いている場合は、個人又は任意の団体等で利用できます。

施設名

競技設備等

体育館	バレーボールコート 2面 バスケットボールコート 2面 バドミントンコート 6面
陸上競技場	400mトラック (フィールド内) ラグビー場/サッカー場 1面
野球場	野球場 1面
テニスコート	クレー 5面 オムニ 4面 (うち2面使用可)
武道場	柔道場 剣道場等
弓道場	6人立54m ² 、的場23m ²

2. 学生団体・サークル等の紹介

☆ 文化系サークル

交響楽団	軽音楽部	美術部	茶道部
囲碁・将棋部	梨っこ	東洋医学研究会	海外医学交流研究会
Yamanashi Child University	星を観る会	サニースマイル	IFMSA-Exchange
From ZERO YAMANASHI	非電子遊戯会	ぬいぐるみ病院	救急医療サークル 富士救
SCORA山梨			

☆ スポーツ系サークル

準硬式野球部	サッカー部	男子バレーボール部	男子バスケットボール部
硬式テニス部	卓球部	女子バレーボール部	女子バスケットボール部
軟式テニス部	ハンドボール部	ゴルフ部	バドミントン部
水泳部	ラグビー部	山岳部	弓道部
ウインドサーフィン部	剣道部	医学部馬術部	フットサル部
空手道部	漕艇部（ボート部）	スキー部	K-POPカバーダンス
アイスホッケー部	陸上競技部	ダンス部	

☆ 学生団体

医学部学生会	医学部学生の代表組織、年間を通して活動
--------	---------------------

3. 学生団体・サークル活動に関する届出事項及び留意事項

(1) 結成等に関する届出事項

団体・サークル等を結成する場合	「団体設立届」
団体・サークル等の活動を継続する場合	「団体継続届」 毎年5月中旬頃まで
団体・サークル等を解散した場合	「団体解散届」

(2) 日常的な活動等に関する届出事項

団体・サークル等で大学の施設等を使用する場合	「施設・設備使用願」
合宿・集会・催物・その他行事を行う場合、 学外の 行事・大会に参加する場合	「団体・サークル活動届」, 「開催届」
登山を行う場合	「登山届」

(3) 福利厚生施設の利用について

団体・サークル等の活動のため福利厚生施設を使用する場合は、規程の使用区分に応じて、使用開始3日前までに「施設・設備使用願」を提出してください。

(注) 当該施設の使用規則を厳守してください。

火災・盗難防止や室内清掃には充分留意してください。

4. レクリエーション用具等の貸出

- 利用にあたっては、窓口で簡単な手続きが必要です。
- 利用品目により「貸出・返却」の場所が異なります。
(利用申請の際に貸出・返却場所の指示があります。)

貸出品目	利用手続/貸出・返却
トランシーバー	【物品借用願】 使用日の1週間前までに提出 【貸出期間】 通年 【貸出・返却】 常時
長机	
パイプ椅子	
組立てステージ	
イベント用テント	
プロジェクター	
メガホン	

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dotted lines.



Handwriting practice lines consisting of 5 horizontal dotted lines.



経済的支援 福利厚生施設

- ◎高等教育の修学支援新制度
（授業料等減免と給付型奨学金）
- ◎奨学金・授業料免除・入学料免除等
- ◎アルバイト・学生保険
- ◎大学会館・学生寄宿舍・
大学共同利用研修施設等

経済的支援・福利厚生施設 目次

I 経済的支援

1. 高等教育の修学支援新制度（授業料等減免と給付型奨学金）…………… 39
2. 奨学金…………… 39
3. 授業料の免除等 …………… 41
4. 入学料の免除等 …………… 41
5. 学術研究奨励金制度 …………… 42
6. アルバイトの斡旋…………… 42
7. 学生保険の案内 …………… 42

II 福利厚生施設

1. 大学会館…………… 43
（附）山梨大学大学会館使用細則
2. 学生寄宿舍 …………… 45
3. 厚生会館（山梨大学生生活協同組合）＜甲府キャンパス＞…………… 46
4. 福利厚生棟＜医学部キャンパス＞…………… 46
（附）山梨大学医学部キャンパス福利厚生施設使用細則
5. シミックプラザ＜医学部キャンパス＞…………… 48

I 経済的支援

窓口

甲府キャンパス：学生支援課

医学部キャンパス：医学域事務部学務課

1. 高等教育の修学支援新制度（授業料等減免と給付型奨学金）

大学等における修学支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、学部日本人学生等については、令和2年4月以降、一定の家計基準及び学力基準を満たすことにより、「授業料等の減免」、「日本学生支援機構の給付型奨学金の給付（原則返還が不要の奨学金）」の2つの支援を受けることができます。

給付型奨学金の奨学生に採用されるとその支援区分により、授業料・入学料（新入生のみ）の減免と給付奨学金を受けることができます。

授業料等の減免を希望する場合は、必ず給付型奨学金の申請をしてください。

令和7年4月より多子世帯に対する支援として、所得制限を設けずに授業料・入学料（新入生のみ）全額免除を受けることができます。

制度の概要や認定の要件等、詳細については、文部科学省やJASSOの以下のWebサイトでご確認ください。

○高等教育の修学支援新制度（文部科学省）

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/index.htm

○奨学金の制度（給付型）（JASSO）

<https://www.jassogo.jp/shogakukin/kyufu/index.html>

2. 奨学金

本学で扱っている奨学金には、「日本学生支援機構」及び「地方公共団体又は民間奨学団体」の奨学金があります。これらの奨学金は、いずれも学業、人物ともに優れ、かつ健康であり、経済的理由により就学困難な者が対象になります。

奨学金の情報は山梨大学Webサイト「キャンパスライフ」内に掲載していますので、併せてご確認ください。

なお、募集案内等はYINS-CNSに掲載します。

また、医学部学生向けの奨学金については、医学域事務部学務課で募集案内等が閲覧できます。

○奨学金（山梨大学）

<https://www.yamanashiac.jp/campuslife/76>



(1) 日本学生支援機構の奨学金

① 貸与奨学金 (※貸与月額、令和7年度の金額です。)

[学部学生・専攻科学生]

	第一種	第二種
自宅	2万、3万、4.5万円から選択	2万円～12万円までの間で1万円単位で選択
自宅外	2万、3万、4万、5.1万円から選択	

[大学院生]

	第一種	第一種 (授業料後払い制度)	第二種
修士課程 教職大学院の課程	5万円又は 8万円	授業料相当額※ + 生活費奨学金 (2万円、4万円から選択)	5万円、8万円、 10万円、13万円、 15万円 から選択
博士課程	8万円又は 12万2千円		

※ 実際にかかった授業料。免除等を受ける場合は免除適用後の授業料実質負担額。

○利息について

第一種 (授業料後払い制度も含む) : 無利息 第二種 : 年利3%が上限 (在学中は無利息)

○返還免除制度 (大学院のみ)

第一種奨学金貸与者には、特に優れた業績による返還免除制度があります。

また、博士課程では採用時、修士課程の一部専攻では進学予定者に対する返還免除内定候補者制度があります。

② 給付奨学金

[学部学生]

「日本学生支援機構」において審査し、世帯の所得金額に応じて支給金額が決定します。

支給額についてはJASSOの以下のWebサイトでご確認ください。

○給付月額 (JASSO Web サイト)

<https://www.jassogo.jp/shogakukin/about/kyufu/kingakuhtml>



③ 貸与奨学生の募集

採用の種類	募集時期	備 考
在学採用	4月	秋季募集については未定
緊急採用 (第一種)	随時	家計急変により、貸与の必要が生じた場合
応急採用 (第二種)		
予約採用	10月	本学大学院進学予定者で、大学院前期合格者を対象

④ 給付奨学生の募集

採用の種類	募集時期	備 考
在学採用	4月、9月	
家計急変採用	随時	原則、家計急変の事由発生後2か月以内に各窓口へ相談すること。

(2) 地方公共団体及び民間奨学団体の奨学金

これらの奨学金は、大学を通じて応募するものと、募集团体に直接応募するものがあります。

私費留学生を対象とした奨学金に関しては、グローバル推進課へお問い合わせください。

3. 授業料の免除等

〔 学部日本人学生等については、経済的、その他の理由により納入が困難になった場合は、授業料の免除等を願い出る制度があります。 〕

(1) 免除の対象者

- ① 高等教育の修学支援新制度の条件を満たす者（住民税非課税世帯・準する世帯・多子世帯）
- ② 授業料の各期の納期前6月以内（新入生前期分については1年以内）において、本人の学資を主として負担している者が死亡し、又は本人もしくは学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納入が著しく困難であると認められる者

(2) 免除額 前期、後期ごとの授業料の全額、3分の2の額、半額、3分の1の額等

(3) 申請方法 申請書の配付時期、配付方法等については、YINS-CNSにより通知

〔 大学院・専攻科生については、経済的、その他の理由により納入が困難になった場合は、授業料の免除等を願い出る制度があります。 〕

(1) 免除の対象者

- ① 経済的理由によって授業料の納入が困難であり、かつ学業優秀と認められる者
- ② 授業料の各期の納期前6月以内（新入生前期分については1年以内）において、本人の学資を主として負担している者が死亡し、又は本人もしくは学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納入が著しく困難であると認められる者
- ③ 中国政府が定める「国家建設高水平大学公派研究生項目」による大学院博士課程の学生

(2) 免除額 前期、後期ごとの授業料の全額又は半額

(3) 申請方法 申請書の配付時期、配付方法等については、YINS-CNSにより通知

〔 学業成績が特に優れ、かつ人物優秀であると認められる学生に対して授業料の免除をする制度があります。 〕

(1) 免除の対象者

各学部の最終学年に在籍する学生で、学業、人物ともに優秀な者

(2) 免除額 当該年度前期分授業料の全額

(3) 選考方法 各学部において選考し、各学部長が学長に推薦

4. 入学料の免除等

入学料には、免除又は徴収猶予の制度があり、学部・大学院ともに合格時に送付する「入学手続関係書類」の中で申請資格、申請方法等の詳細をお知らせします。

5. 学術研究奨励金制度

大学院（教育学研究科・医工農学総合教育部博士課程）に在学する学生に対し、経済的負担の軽減を図ることにより学業を奨励するための学術研究奨励金を給付する制度があります。

6. アルバイトの斡旋

○ 家庭教師求人票及びアルバイト求人票は、次の場所で閲覧できます。

- (甲府キャンパス) : キャリアセンター内掲示板
 (医学部キャンパス) : 医学域事務部学務課窓口

7. 学生保険の案内

授業中、課外活動等学生生活における万一の事故及びインターンシップ・教育実習・臨床実習等での不慮の事故により傷害及び賠償責任が発生した場合などに対応できる「学生保険」への全員加入を大学の方針としています。

以下は大学内で取り扱っている「学生保険」です。保険の特色、補償範囲、保険料等詳細については、それぞれの窓口が対応しますので、随時問い合わせてください。

※特にインターンシップ・教育実習・医学部（医学科・看護学科）における臨床実習においては、保険への加入は必須条件であり、未加入の場合には臨床実習等に参加することができませんので、必ず保険に加入してください。

保 険 名	対 応 窓 口
学生教育研究 災害傷害保険 + 学研災付帯 賠償責任保険 (略称「学研災」 + 「付帯賠償」)	「学研災」及び「付帯賠償」 甲府キャンパス学生支援課 (055-220-8053) 医学部キャンパス医学域事務部学務課 (055-273-9342)
学生教育研究 災害傷害保険 + 学研災付帯 学生生活総合保険 (略称「学研災」 + 「付帯学総」)	「付帯学総」 学生生活総合保険相談デスク (0120-811806)
学生総合補償制度(こども総合保険)	教備インシュアランス (0120-258-515)
学生総合共済 + 学生賠償責任保険	山梨大学生生活協同組合 (055-252-4757) (甲府キャンパス内厚生会館1階生協事務室)

※ 加入した保険については、その加入期間を確認し、有効期限に注意してください。
 特に大学院へ進学する場合や休学・留年等により、当初予定していた加入期間を超える場合などは、改めて加入する必要があります。

※ 甲府キャンパス学生支援課では、インターンシップ・教育実習等に参加する際に必要となる「学生保険加入証明書」（「学研災」及び「付帯賠償」のみ）を発行しています。加入証明書は、窓口にて証明書発行願を記載・提出した翌日以降にお渡しできます。

「学研災」、「付帯賠償」以外の保険については、保険会社から直接送付される「加入者証」の写しが「加入証明書」の代わりとなります。

Ⅱ 福利厚生施設

利用申請窓口

甲府キャンパス：学生支援課

医学部キャンパス：医学域事務部学務課

(いずれの施設も在学するキャンパスの窓口で利用申請ができます。)

1. 大学会館

(甲府キャンパス内)

大学会館は、単なる集会の場としてだけでなく、学生相互あるいは学生・教職員間の交流を深めること、課外活動を盛んにすること、学生・教職員の福利厚生に寄与することを目的として設置されました。

① 開館時間	午前9時～午後8時 (休館日：土曜、日曜、祝日、入学試験実施日、夏季一斉休業、年末年始の休日)	
② 施設内容	ラウンジ、多目的ホール、企画展示ロビー、セミナー室、ミーティングルーム、音楽室、和室、印刷室、留学生談話室、大学会館食堂	
③ 利用方法	ラウンジ	個人の自由利用スペースとして開放、飲食もでき、飲食物の持ち込みも自由です。 貸切利用する場合は、「使用願」の提出が必要です。
	多目的ホール 企画展示ロビー セミナー室 音楽室 和室 印刷室 留学生談話室	利用にあたっては、「使用願」の提出が必要です。
④ 利用手続	「使用願」は、学生支援課窓口、又は大学HPから取得し、必要事項を記入して、使用日の3日前までに学生支援課窓口へ提出してください。	
⑤ その他	利用は、原則として申請順となります。 利用にあたっては、「大学会館使用細則」を参照してください。	

◎「大学会館食堂」について

○ 通常営業時間 (昼) 11:30～13:30

○ 昼食の提供をしています。

A：カフェテリア&カレーレーン

B：ランチセット&どんぶりレーン

C：ヌードル(和麺・中華麺)レーン

店舗入り口の床導線に従って進み、商品受領後、レジにて会計となります。

(梨大パイ・梨大ミルクパスが最速です。混雑緩和にご協力下さい)

大学会館ラウンジも食堂商品の飲食にご利用いただけます。

(附) 山梨大学大学会館使用細則

平成25年3月19日 改正

(趣旨)

第1条 この細則は、山梨大学大学会館規程第6条の規定に基づき、山梨大学大学会館（以下「会館」という。）の使用に関し、必要な事項を定める。

(部屋)

第2条 会館に次の部屋を置く。

- (1) ラウンジ (2) 多目的ホール (3) 企画展示ロビー (4) セミナー室
(5) ミーティングルーム (6) 音楽室 (7) 和室 (8) 印刷室 (9) 留学生談話室 (10) 事務室

(使用者の範囲)

第3条 会館を使用できる者は、次のとおりとする。

- (1) 山梨大学（以下「本学」という。）の学生及び教職員
(2) 本学が行う諸事業の参加関係者
(3) その他理事（教学担当）が適当と認める者

(施設の保持)

第4条 会館の使用者は、建物、設備及び備品等（以下「施設」という。）を常に正常な状態に保全するとともに規律の保持に努めなければならない。

- 2 会館の使用者は、施設を滅失、損傷又は汚損したときは、速やかに理事（教学担当）に届け出なければならない。
3 会館の使用者は、施設の滅失、損傷又は汚損が、使用者の責めに帰すべき事由により生じたものであるときは、これを弁償しなければならない。

(開館時間及び休館日)

第5条 会館の開館時間及び休館日は、次のとおりとする。

- (1) 開館時間 午前9時から午後8時まで
(2) 休館日 土曜日、日曜日、国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日及び12月28日から翌年1月4日まで

2 理事（教学担当）が必要と認める場合には、前項の開館時間又は休館日を臨時に変更することができる。

(使用の手続)

第6条 会館を次に掲げる事項により使用しようとする場合は、使用責任者は、使用しようとする日の1ヵ月前から3日前までの間に使用願（別紙様式）を提出し、理事（教学担当）の許可を受けなければならない。ただし、理事（教学担当）が必要と認めた場合は、使用日の1ヵ月以上前であっても使用許可を受けることができる。

- (1) 全館を貸切使用する場合
(2) ラウンジを貸切使用する場合
(3) 多目的ホール、企画展示ロビーを使用する場合

- 2 会館の貸出備品類の使用については、前項の規定を準用する。
- 3 会館の使用許可は、原則として先着順とするが、必要に応じて調整するものとする。

第7条 使用責任者は、使用を中止する場合には、速やかにその旨を届け出なければならない。
(使用時間の厳守)

第8条 使用責任者は、使用開始時刻及び使用終了時刻を厳守しなければならない。
(目的外使用及び転貸の禁止)

第9条 使用責任者は、目的以外の用途に使用し、又は他に転貸してはならない。
(原状回復)

第10条 使用責任者は、室内の整理、整とん、清掃、火気の点検、窓の戸締まり及び消灯を行い、備品類は原状に復した上で、使用を終了しなければならない。
(鍵の保管)

第11条 会館の鍵は、教学支援部学生支援課で保管する。
(使用の制限)

第12条 理事(教学担当)は、会館の運営に支障が生じたとき又は生ずるおそれがあるときは、施設の使用を中止させることができる。

附 則

この細則は、平成25年4月1日から施行する。

2. 学生寄宿舍

本学学生の快適な生活と勉学の間として、充実した学生生活に資することを目的とし、男子寮及び女子寮を設置しています。

<男子学生寮(芙蓉寮)> (甲府キャンパス北東約1km、大学から徒歩約12分)

① 収容人員	60名 (全室個室)
② 経 費	寄宿料：月額 10,000円
	共益費：光熱水料(従量制)
③ その他	各個室に「エアコン、インターホン」備え付け 入寮期間：学部卒業までの4年間(医学部医学科は6年間)

<女子学生寮(紫遥館)> (甲府キャンパス北約300m、大学から徒歩約5分)

① 収容人員	20名 (全室個室)
② 経 費	寄宿料：月額 20,000円
	光熱水料：個人契約
③ その他	エアコン、洗濯機、冷蔵庫、テレビ、電子レンジ、等完備 入寮期間：入寮年度の3月20日まで

3. 厚生会館（山梨大学生協同組合）

（甲府キャンパス内）

厚生会館は、本学の学生と教職員を組合員とする「山梨大学生協同組合（生協）」によって運営されています。全員が利用しますので、必ず加入してください。

1階	購買 書籍部	<ul style="list-style-type: none"> ○パソコン各種相談・修理受付 ○教科書販売（期間限定）、各種専門書新刊、雑誌等 ○提携教習所 生協価格申し込み ○文具、日用品、白衣等実習教材等 ○切手、コピーカード等 ○家具家電、新生活用品等 ○お弁当、パン、おにぎり、飲料、菓子 ○旅行関係相談 ○宅配便の取次 ○TOEIC 申込み 	<p><営業時間></p> <p>平日 10:00~17:00</p> <p>短縮営業期間</p> <p>11:00~14:30</p>
	本部組合員 サービスセ ンター	<ul style="list-style-type: none"> ○CO・OP 学生総合共済 請求手続き ○各種保険相談（インターンシップ・実習等） ○提携不動産業者のご紹介 	<p><営業時間></p> <p>平日 10:30~16:30</p> <p>短縮期</p> <p>平日 11:30~14:00</p>
2階	Bakery& Coffee なしカフェ	<ul style="list-style-type: none"> ○焼きたてパン・挽きたてコーヒー販売) 店舗前ラウンジにて飲食可能です ○ラウンジは、営業時間中は飲食者優先としております。10~17時まで自由に利用可能です。 	<p><開放時間></p> <p>平日 10:00~17:00</p> <p><営業時間></p> <p>平日 11:30~15:00</p> <p>短縮期：休業</p>

※ 大学会館の食堂については、「大学会館」の項を参照してください。

4. 福利厚生棟

（医学部キャンパス内）

◎ 福利厚生棟 1

学生及び教職員の福利厚生施設で、主にサークルの部室等として利用されています。

1階	生協医学 部購買 書籍店	<ul style="list-style-type: none"> ○医学専門書、新刊、医学雑誌、女性誌 ○文具、日用雑貨 ○パソコンサプライ ○お弁当、パン、飲料、菓子 （焼きたてパン手づくりお弁当販売あり） ○医療器具、白衣 ○自動車教習所・引越しの斡旋 ○国試対策教材のご提案 ○電子書籍商品のご提案 	<p><営業時間></p> <p>平日 10:30~16:30</p> <p>短縮期</p> <p>平日 11:00~14:30</p>
	理容室	<ul style="list-style-type: none"> ○カットのみ 1,500円 ○カット&シャンプー 2,000円 ○調髪 2,500円 	<p>平日 9:00~18:00</p> <p>土曜 9:00~14:00</p>
音楽練習室・和室・倉庫等			
2階	集会室・共用室・音楽練習室・和室等		

※ 集会室・音楽練習室・和室等を使用したい場合は、福利厚生施設規程の使用区分に応じて、使用開始3日前までに医学域事務部学務課へ申請してください。

◎ 福利厚生棟 2

医学科2年次生~4年次生のロッカー室があります。

(附) 山梨大学医学部キャンパス福利厚生施設使用細則

制定 平成16年4月1日

改正 平成18年4月1日

(趣旨)

第1条 この細則は、山梨大学医学部キャンパス福利厚生施設規程第6条の規定に基づき、福利厚生施設の使用に関し必要な事項を定める。

(使用日)

第2条 福利厚生施設を使用することができる日は、次の各号に掲げる日以外の日とする。

- (1) 土曜日及び日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に定める休日
- (3) 年末年始(12月28日から翌年1月4日)
- (4) 医学部長が必要と認めた日

2 前項第1号から第3号に掲げる日においても、医学部長が特に必要と認めたときは、使用することができる。

(使用時間)

第3条 使用日における使用時間は、午前8時30分から午後8時までとする。

2 医学部長が必要と認めたときは、使用時間を変更することができる。

(使用許可)

第4条 福利厚生施設を使用しようとする者は、山梨大学医学部キャンパス福利厚生施設規程の別表の使用区分に応じて、使用開始3日前までに使用願を医学部長に提出し、その許可を受けなければならない。

(鍵の貸出及び返却)

第5条 福利厚生施設の鍵は、医学域学務課(以下「学務課」という。)で保管し、使用の都度貸し出しするものとする。

2 使用後の鍵は、施錠のうえ学務課に返却するものとする。

(遵守事項)

第6条 福利厚生施設を使用する者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 使用時間を厳守すること。
- (2) 許可された目的以外の使用及び転貸をしないこと。
- (3) 施設、設備、備品等を無断で改廃、新設、移動若しくは損傷及び汚損しないこと。
- (4) 使用を中止したときは、速やかに学務課に届け出ること。
- (5) 所定の場所以外で火気使用、喫煙をしないこと。
- (6) 使用中は、常に整理整頓に心掛け、飲酒、放吟等他人に迷惑をかける行為をしないこと。
- (7) 使用後は、清掃、整理整頓を行い、特に火気、消灯、戸締りの点検は必ず励行すること。
- (8) その他担当者の指示に従うこと。

(使用許可の変更等)

第7条 医学部長は、次の各号の一に該当するときは、使用許可を変更又は取消若しくは以後の使用を許可しないことができる。

- (1) 学校行事等のため福利厚生施設を使用する必要性が生じたとき。
- (2) 前条各号の規定に違反したとき。

(損害賠償)

第8条 使用者が故意又は過失により設備、備品等を破損又は滅失したときはその損害に相当する額を弁償しなければならない。

(雑則)

第9条 この細則に定めるもののほか、福利厚生施設の使用に関し必要な事項は、医学部長が定める。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から実施する。

附 則

この細則は、平成18年4月1日から実施する。

5. シミックプラザ

(医学部キャンパス内)

◎ シミックプラザ

1階は学生のための福利厚生施設で、主に自主学習、憩いの場として利用されています。

1階	シミックホール・グループラーニング室・談話室
2階	多目的室1・多目的室2 (2階は職員専用ですので、学生は使用できません。)

※ 1階のシミックホールを占有したい場合は、使用開始3日前までに医学域事務部学務課窓口申請書を提出して下さい。



LIFE GUIDANCE

2026



学生相談 学生生活の安全

- ◎保健管理センター
学生相談室等
- ◎交通事故防止・災害防止等

学生相談・学生生活の安全 目次

I 学生相談の案内

(学生相談の紹介)	51
○保健管理センター（心と体の健康に関する相談）	52
○学生相談室（修学・進路／生活安全／その他何でも相談）	53
○人権侵害についての相談員	54
○クラス担当教員等（学部別）	56
○外国人留学生のための相談	56
○カウンセリング・サポート室	57
○アクセシビリティ・コミュニケーション支援室	58

II 学生生活の安全

1. 交通事故の防止	59
2. 犯罪などからの防衛	59
3. 飲酒について	60
4. 災害の防止について	60

I 学生相談の案内



皆さんがこれからの学生生活において

自分の悩みを誰かに相談したいとき……

困りごとで助けを求めたいとき……

山梨大学では、様々な相談に応じられるよう
学生相談の体制を整えています。

その窓口を案内しますので、気軽に利用してください。

- 各相談窓口等では、プライバシーの保護に十分留意するとともに、必要に応じて連携し、より適切なアドバイス等が受けられるよう配慮しています。

全学的相談組織

保健管理センター

甲府キャンパス (055-220-8081)
医学部キャンパス (055-273-9312)

学生相談室

甲府キャンパス : 学生支援課 (055-220-8051)
医学部キャンパス : 医学域事務部学務課 (055-273-9346)

人権侵害についての相談員

相談員の氏名・連絡方法等は本学ホームページに掲載します。

キャリアセンター (キャリアアドバイザー)

キャリアセンター (055-220-8319)

カウンセリング・サポート室

カウンセリング・サポート室 (055-220-8565)

アクセシビリティ・コミュニケーション支援室

アクセシビリティ・コミュニケーション支援室 (055-220-8467)

所属学部クラス担任制

学部ごとに設置されています。

相談員の氏名・連絡方法等は YINS-CNS に掲載します。

外国人留学生のための相談

国際化推進センターに相談室を設けています。

相談員の氏名・連絡方法等は本学ホームページに掲載します。

保健管理センター



◆ 保健管理センター（甲府キャンパス・医学部キャンパス）	
相談方法	各センターの窓口または電話 甲府キャンパス（055-220-8081） 医学部キャンパス（055-273-9312）
相談内容	心身の健康相談
スタッフ	医師・保健師・看護師

学生相談室

山梨大学では、皆さんの学生生活における様々な悩み・相談に対応するため、「学生相談室」を設けています。学生相談室では、「学生相談員」が下表の相談に応じています。

学生相談員は、各学部にも各4名、学生支援課（甲府キャンパス）と医学域事務部学務課（医学部キャンパス）に各1名います。



学生相談員の氏名・連絡先電話番号等は、[CNS→リンク→クラス担任・学生相談等に掲載](#)してあります。

- ★ 学生相談員への相談は、上記の相談員名簿にある連絡先へ連絡するか、学生支援課・医学域事務部学務課窓口での申出により相談が可能です。
- ★ 生活安全に関する相談は、学生支援課・医学域事務部学務課の窓口にて申出てください。
（下記電話での相談も可）
- ・学生支援課 <055-220-8051>
（甲府キャンパス）
- ・医学域事務部学務課 <055-273-9346>
（医学部キャンパス）

「修学・進路等に関する相談」・・・各学部教員の相談員（各学部各4名）

- 修学全般に関すること
- 修学上の対人関係（教員や先輩など）に関すること
- 研究生生活に関すること
- 進路や将来に関すること

※ 進路（就職）に関してはキャリアセンターにご相談ください。

「生活安全に関する相談」・・・学生支援課と医学域事務部学務課の相談員（各1名）

- 身体的な安全（ストーカー・脅迫・暴行等の被害など）に関すること
- 経済的な被害（悪徳商法・不当請求・金銭貸借など）に関すること
- 学外者（アパート管理人等・アルバイト先など）とのトラブルに関すること
- その他生活安全等に関すること

人権侵害についての相談員

人権侵害

人権侵害とは、性別や社会的身分、人種、国籍、信条、年齢、職業、宗教、身体的特徴、障害の有無など、広く人格にかかわる事項等に関する言動や行為などによって、相手方の意図にかかわらず、受け手に不利益や不快感を与えることをいいます。

大学で起こりうる人権侵害

大学内で起こる可能性のある人権侵害として、ハラスメントがあります。

ハラスメントとは、いわゆるいやがらせやいじめのことをいい、大学においては、アカデミック・ハラスメント（アカハラ）、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）、パワー・ハラスメント（パワハラ）などが問題となります。

○アカデミック・ハラスメント

大学内において権力のある者や優越的地位にある者がその立場を利用して、受け手の大学における研究・教育上の環境を著しく悪化させることをいいます。具体的には、「教育・研究上の権力関係や上下関係に基づく嫌がらせや差別行為」を指します。学生や大学院生としては、暴言・暴力、指導放棄、不当な成績評価や学位の不認定、留年あるいは退学の強要、研究における服従の強制、データ捏造の強要などを受ける場合が含まれています。

○セクシュアル・ハラスメント

性的な言動によって人を傷つけ、受け手の大学における研究・教育・労働上の環境を悪化させることをいいます。具体的には、「あなたの意に反する性的な言動」により、屈辱や精神的苦痛・不快感または、不利益を受けることです。社会的・文化的に形成された男女の固定的な観念に依拠した言動が引き起こす性差別も該当します。

○パワー・ハラスメント

大学内において職務上の地位や人間関係など職場内で優位にある者が、その立場を利用して、受け手の大学における労働環境を著しく悪化させることをいいます。課外活動や出張等の学外においても、その力関係は維持されているものとみなされます。

もしあなたが被害にあってしまったら

☆ 人権侵害の被害にあった時には、一人で悩まずに、相談員に相談しましょう。相談を希望する方を保護し、誠意を持って相談に応じます。2人の相談員（相談を希望する方と同性の相談員を必ず含みます。）が相談を受け、相談したことで嫌な思いをしたり、被害がひどくなったりすることのないように、万全の注意を払います（二次被害の防止）。

相談員と連絡先については山梨大学のホームページに掲載されています。

https://intra.yamanashi.ac.jp/campus_harassment/

所属する学部、課程にかかわらず、あなたが最も相談しやすい相談員に連絡をとってください。

☆ 相談員に直接話すこと以外にも、電話、電子メール、手紙などで申し込むことができます。
また、本人からの相談だけでなく、第三者からの相談や匿名での相談も可能です。

☆ 相談を希望する方の意向により、

- (1) 相談員との話し合いだけに留める
- (2) 相手方との話し合い（直接・間接）へ
- (3) 調査委員会等を設けて調停・調査へ

などの過程や措置がとられます。相談を希望する方の同意を得ることなく調停や調査に進むことはありませんので、安心してご相談ください。

ハラスメントの発生を知ったら

☆ 自分の周囲でハラスメントにあっている人がいたら、勇気を出して助けてあげましょう。
被害の証人になってあげたり、相談員のところに同行してあげたり、また場合によっては被害にあっている人の代わりに相談員に相談してあげてもかまいません。

クラス担当教員等（学部別）

相 談 方 法	<p>各クラス担当教員等に直接連絡を取ることができます。</p> <p>● 担当教員等の氏名及び連絡方法は、年度ごとに本学ホームページ（在学生の方→修学案内：CNS(ログイン)→リンク→クラス担任・学生相談等）でお知らせします。</p>
相 談 内 容	<p>学生の修学上の問題並びに生活全般について、相談、指導、助言等を行います。</p>
ス タ ッ フ	<p>○教育学部 各コース・系において、学年毎にクラス担当教員を置いています。</p>
	<p>○医学部 各学科において、スモールクラス制を実施しています。 医学科については、1年次生から6年次生まで各学年2～3名ずつの縦割りクラスに、また、看護学科については、学年毎に複数のクラスに分けており、それぞれのクラスに指導教員を置いています。</p>
	<p>○工学部 学年毎にクラス・コース担当教員を置いています。</p>
	<p>○生命環境学部 各学科において、学年毎にクラス担当教員を置いています。</p>

外国人留学生のための相談

相 談 内 容	<p>留学生の修学及び生活上の問題</p>
連 絡 方 法	<p>メールアドレス: takaei@yamanashi.ac.jp 電話：055-220-8753 （不在・緊急の場合には、グローバル推進課（055-220-8047・8703）にご連絡ください。）</p>
ス タ ッ フ	<p>国際化推進センター教員</p>



カウンセリング・サポート室

学生生活を送る上で悩んだり、困ったときは

学生の皆さんが学生生活を送る中、学業のこと、対人関係のこと、自分の性格のこと、将来のことなど、さまざまなことで悩んだり、困ったときにはご相談ください。皆さんの相談にカウンセラー（公認心理師・臨床心理士）が応じます。

*相談は無料です。秘密も守られます。

申込方法

相談は事前予約制ですので、相談申込フォームか電話で申し込みを行ってください。初めての相談の場合は、最初にインターカー（公認心理師・臨床心理士）と面談を行った後、相談日時を調整します。どのようなことでも、まずはお話をおうかがいします。安心して連絡をしてください。

【相談申込フォーム】 <https://www.sp-needs.yamanashi.ac.jp/about/961>

【電話】 055-220-8565

*電話に出られない時がありますので、その場合はメールをご利用ください。

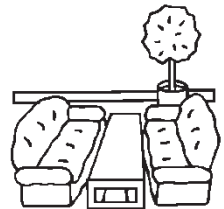
【e-mail】 soudanyoyaku@yamanashi.ac.jp

*件名に「相談申し込み」という文言を必ず入れてください。

*氏名・学籍番号・連絡可能な連絡先（例：携帯電話番号）のみを記載してください。

*予約のみの受付アドレスです。

メール文に相談内容などは記載しないようにお願いします。



【開室時間】 平日 9:00~17:00（土・日・祝祭日はお休み）

*夏季休業中や年末年始の一定期間は閉室します。

その他、大学行事等で開室できない日があります。

【場所】 甲府東キャンパス B1号館

208A 待合室兼事務室

305A 305B 306AB 相談室



☆悩んだり、困ったときは、是非ご連絡ください。
解決に向けて一緒に考えていきましょう。

アクセシビリティ・コミュニケーション支援室

アクセシビリティ・コミュニケーション支援室（AC 室）は、関連する部署と連携しながら、障害により修学や大学生生活に困難を抱える学生への支援を行っています。

よりよい学生生活を送るために、学生からだけではなく家族、教職員からの相談にも応じています。いつでもお気軽にご相談ください。

支援を希望する学生へ

支援を希望する学生は、総合窓口にご越しいただくか、相談フォーム、またはメール電話でお問い合わせください。

プライバシーは厳守することをお約束します。安心してご相談ください。

【連絡先】

学生サポートセンター 総合窓口

場 所：甲府東キャンパス B1 号館 208A

電 話：055-220-8565（平日 9:00～17:00）

メール：soudanyoyaku@yamanashi.ac.jp



相談予約フォーム

支援活動に興味がある学生へ

AC 室では、障害のある学生を支援するための学生サポーターを養成しています。サポーター養成講習会では、障害に関する知識・理解・実践を通して学んでいきます。パソコンテイク、アクセシビリティマップの作成等の活動があります。興味・関心のある方はご連絡ください。障害がある学生と障害がない学生が同じように学ぶためにみなさんの力が必要です。



パソコンテイク講習会の様子

【連絡先】

アクセシビリティ・コミュニケーション支援室 事務室

場 所：甲府東キャンパス B1 号館 208B

電 話：055-220-8467（平日 9:00～17:00）

メール：sp-needs@yamanashi.ac.jp



ホームページ

Ⅱ 学生生活の安全

◎ 学生生活の安全に関する注意事項等（「安全な学生生活を送るために!」）が、**本学ホームページ**（キャンパスライフ→学生生活）に掲載してありますので必ず御覧ください。

<https://www.yamanashi.ac.jp/campuslife>

1. 交通事故の防止

近年、自転車・バイク等による交通事故が多発しています。

あなたが交通事故に遭遇した場合、連絡を受けた家族は、大きな不安を抱えて遠路であろうと夜間であろうと病院へ駆けつけてきます。また、あなたの交通違反や不注意が自身や家族の将来に重大な影響を与えてしまうことがあることを忘れずに生活してください。

自転車・バイク等に乗る際は、事前に任意保険に加入し、細心の注意を払い「ゆとりある運転」や「ゆずりあい」の気持ちを持ち、より安全に運転するよう心がけてください。

また、山梨県では自転車利用者は自転車損害賠償責任保険等への加入が義務化されました。

なお、万一事故に遭遇した場合は、救急車を呼ぶ・警察に通報する・大学へ報告する・保険会社に連絡するなどの措置をとってください。

学生に事故・病気などによる緊急事態が発生した場合、大学では家族への連絡を行います。

家族の住所や電話番号に変更が生じた場合は、速やかに教学支援部教務企画課又は医学域学務課に届出をし、万一の際に家族への連絡が取れない事態が発生しないよう留意してください。

2. 犯罪などからの防衛

学生が事件やトラブルの当事者（被害者）になるケースは年々増加しています。

盗難等の被害にあった場合は、警察へ通報するとともに速やかに大学へ連絡してください。

また、被害は、心身に関する被害であったり、金銭に関する被害であったりと様々ですが、次のようなケースに遭遇したときは、まず学生支援課の「学生相談窓口」に相談してください。

警察など関連機関と連携のうえ、解決を図ることができます。

- ストーカー行為をうけている・何らかの理由で脅迫されている場合
- 反社会的カルト宗教団体等からの勧誘等で苦慮している場合
- 詐欺商法などによる被害や携帯電話での不当請求などがあった場合

（ その他、学生の直面する様々な問題については、学生相談の組織が用意されていますので、まず相談してください。 <https://www.yamanashi.ac.jp/campuslife/2455> ）

3. 飲酒について

未成年の飲酒は法律で禁止されており、誰かに勧められてもきちんと断ることが大切です。また、飲酒は適量を超えるとからだにさまざまな障害を与えます。飲酒する際には、「イッキのみは絶対しない・させない」・「飲めない人にはすすめない」・「飲酒運転は絶対にしない」などのことを厳守してください。

なお、特に短時間に大量のアルコールを摂取すると脳の働きが麻痺する危険性があり、急性アルコール中毒により心肺機能に異常をきたし、死に至ることもありますので十分注意してください。

4. 災害の防止について

1. 火災の予防

大学構内は、禁煙です。また、構内での焚き火などはしないようお互いに注意しましょう。

2. 地震への対応

山梨県は、近い将来起こるであろうと予想されている、東海地震に係る地震対策強化地域に指定されていますので、常日頃から地震に対する心構えが必要です。大学や地域で実施される防災訓練などにも積極的に参加し、避難場所の確認なども行っておきましょう。

☆日頃の地震対策

(1) 家具の転倒・落下防止

タンスや食器戸棚が倒れてケガをすることのないよう、家具類はしっかりと固定しておきましょう。

(2) 出火防止

・地震が起こったらまず火を消しましょう。

・日頃から火を使うところの近くには、必ず消火器を置いておくようにしましょう。

(火が天井まで広がったら一人では消すことが出来ません。天井まで燃えひろがるまでの3分～5分が自分で消火できるチャンスです。)

(3) 食料・飲料水の備蓄

非常食料・飲料水は3日以上用意しておきましょう。

(4) 非常持ち出し品の用意

ヘルメット・ラジオ・懐中電灯・救急薬品など常に用意しておきましょう。

(5) 連絡

下宿等で一人暮らしをしている人が、旅行等に出掛ける際には、必ず家族には連絡しておきましょう。

(6) 地震が起きたときの心得 10カ条

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| ① まず、わが身の安全を！ | ⑥ 山崩れ、崖崩れ、津波、浸水に注意！ |
| ② すばやく火の始末！ | ⑦ 避難は徒歩で、持物は少なく！ |
| ③ 火が出たらまず消火！ | ⑧ 協力しあって応急救護！ |
| ④ あわてて外に飛び出すな！ | ⑨ 正しい情報をつかみデマにまどわされるな！ |
| ⑤ 狭い路地、へいぎわ、がけや川べりに近寄るな！ | ⑩ 秩序を守り衛生に注意！ |

(7) 警戒宣言が発令された場合

気象庁からの地震予知情報の報告を受けた場合において、地震応急対策を実施する緊急の必要があると認められた場合、総理大臣から警戒宣言が発せられますので、次の点に注意し冷静に行動してください。

ー 大学構内の場合 ー

- ① 授業及び課外活動を直ちに中止し、教員等の指示に基づいて避難してください。
- ② 実験・実習等を行っている場合は、直ちに火気を消すなどの安全措置を講じたうえで、避難してください。

ー 学外の場合 ー

- ① 広報に注意し、山梨県や市町村が実施する地震防災対策の指示に従ってください。
- ② 運転中の車は、ゆっくり走り警察官等の指示に従ってください。

(8) 大規模地震が発生した場合

ー大学構内にいたときー

その場で、自らの安全を確保して、(6)の「地震が起きたときの心得10カ条」を念頭に、教員等の指示のもとに、あわてず冷静に対処してください。

ー学外にいたときー

学外にいたときも、まずは、その場で身の安全を図り、その後「地震が起きたときの心得10カ条」に従って、あわてず冷静に対処してください。

(9) 安否確認について

安否確認のため、山梨県における大規模災害発生(地震情報(震度5強以上)及び気象特別警報(大雨・暴風雪等))の際、事前に登録された携帯メールアドレス等へ本学から安否確認メール等を送信します。受信した安否確認メール等の文面の指示に従い、大学へ安否状況を回答してください。安否確認メール等は、「携帯メールアドレス等」と「学籍番号@yamanashi.ac.jp」アドレスの両方に送信されますので、何れか一つのアドレスから回答してください。携帯メールアドレス等を登録されていない方は、「学籍番号@yamanashi.ac.jp」のみに送信)

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dotted lines.



Handwriting practice lines consisting of 4 horizontal dotted lines.



LIFE GUIDANCE

2026



進路支援 国際交流

- ◎進路支援事業
キャリアセンター
- ◎交流協定・海外留学等

進路支援・国際交流 目次

I 進路支援

1. 進路支援事業	65
2. 進路支援体制	65
3. キャリアセンターの利用案内	66
4. 進路資料室（看護学科）の利用案内	66
5. アルバイト掲示について	66
6. 障害のある方の支援について	66

II 国際交流

1. 交流協定の締結状況	67
(1) 大学間交流協定	
(2) 学部間交流協定	
2. 海外留学	67
(1) 交換留学制度	
(2) 春季・夏季海外研修	
(3) 大学の世界展開力強化事業	
(4) 留学支援制度	
3. 外国人留学生の受入れ	70
(1) 在籍の状況	
(2) 外国人留学生へのサポート	
4. 国際化推進センター	72

I 進路支援

窓口

甲府キャンパス：キャリアセンター、各学部学科（専攻）等就職担当教員
医学部キャンパス（看護学科）：医学域事務部学務課、スモールクラス担任

キャリアセンターでは、学生一人ひとりが、特性、適性を見出し、目的意識を持って自分にあった将来設計が出来るよう、キャリア教育を入学後早い時期より実施するとともに、「自分らしい」将来設計ができるように様々な面から支援しています。進路決定や就職に関する疑問や不安は、キャリア相談（原則予約制）をご利用ください。

1. 進路支援事業


入学時から卒業（修了）まで、段階に応じた4つの支援（進路支援、インターンシップ、キャリア教育、キャリア相談）を提供しています。

事業内容		具体的な内容（時期はR7年度実施）
進路支援	セミナー	公務員試験対策ガイダンス（4、5月） 全学合同企業研究会（11月） 官公庁（行政機関）等合同セミナー（1月）
	各種講座	マナー講座（インターンシップ参加者向け5～8月、就活向け11月、12月）、就活対策講座（8月、12月）、メイク講座（10月）、アントレプレナーシップ講座（10月）ほか
	その他	ナビ会社、ハローワークによる各種講座（面接対策、エントリーシート対策、グループディスカッション対策、公務員集団討論対策など）
		求人情報、企業情報、大学院情報などの進路情報の提供 自己分析（職務適性テスト）の実施
インターンシップ	専任のキャリア・ディレクターによるインターンシップに関する相談全般。単位取得型インターンシップの受付。インターンシップガイダンス（4月）、インターンシップ相談会（5月）、成果報告会（単位取得希望者のみ）の実施。	
キャリア教育	「ライフデザイン科目（R7年度より初年次全学必修科目）」	
キャリア相談	国家資格キャリアコンサルタントを有する本学キャリア・アドバイザーによる相談のほか、甲府新卒応援ハローワークのキャリアカウンセラーによる相談（毎週月曜午後）、ジョブカフェやまなしのジョブサポーターによる相談（毎週金曜午後）。原則予約制。対面のほか、オンラインでも相談可。相談予約はキャリアセンターホームページからオンラインで受付。	

2. 進路支援体制

各学部には、コース（系）・学科毎に就職（進路）担当教員を配置し、進路相談にあたっています。就職活動に際し、「学校推薦」については、就職担当教員にご相談ください。

3. キャリアセンターの利用案内

利用時間	平日 8時30分～12時、13時～17時15分 ※夏休み・冬休み期間中も開室しています。
利用設備・資料	詳細は、「附属施設等」内「教育統括機構キャリアセンター」をご覧ください。
各種イベントの案内および申込み	<ul style="list-style-type: none"> ・CNS(キャンパス・ネットワーキング・サービス)のトピックスに掲示 ・キャリアセンターホームページ (https://www.career.yamanashi.ac.jp/) → 「在校生の方へ(学内専用)」 → 「ガイダンス情報等」
	キャリアセンターホームページはこちらから→ 

4. 進路資料室(看護学科)の利用案内

医学部看護学科教育研究棟 6階に、看護学科学生のための進路資料室があります。資料室は就職に関する資料(都道府県別求人票、先輩の進学・就職試験報告書、就職活動関係図書など)が配架されています。

応募書類の添削や、進路相談などは、キャリア相談(甲府キャンパスキャリアセンターもしくは、オンライン)をご利用ください。

5. アルバイト掲示について

キャリアセンターに入っすぐのところに、アルバイトの求人情報が掲示されています。山梨県最低賃金などを確認したうえで掲示していますが、申込みは学生本人が直接行うこととなっています。賃金不払いなどの労働問題については、甲府労働基準監督署(代表 055-224-5616)にご相談ください。また、最近では、「闇バイト」が大きな社会問題となっています。おかしいと思ったら、キャリアセンター、学生支援課、学生サポートセンターなどにご相談ください。

6. 障害のある方の支援について

障害のある方の進路選択・就職活動においては、一人で抱え込まず、学内外の機関を利用しながら進めていくことをお勧めします。

障害者雇用・一般雇用の違いや、障害をオープンにして就職活動をするのかなど、障害のある方の就職活動では様々な形態があります。発達障害、またその傾向があると思われる方にとっては、卒論(修論)と就職活動の両立ができないことや、社会人とのコミュニケーションに難しさを感じる場面も少なくありません。

キャリアセンターでは、アクセシビリティ・コミュニケーション支援室や学外機関と連携してサポートを行っています。ぜひ、ご相談ください。

II 国際交流

窓口

甲府キャンパス：グローバル推進課
医学部キャンパス：医学域事務部学務課

山梨大学では、交換留学制度や多彩な留学プログラムを通して、世界に目を向けた学びの機会を提供しています。また、日本人学生だけでなく、外国から来た留学生に対しても、さまざまなサポート・支援体制を整えています。

1. 交流協定の締結状況

本学では、世界各地の大学・研究機関と交流協定を結び、交換留学や海外研修などの国際交流を行っており、24 国・地域、83 の大学・機関と協定を締結しています。

協定校等の詳細については、本学ホームページをご確認ください。



協定校一覧・国際交流情報はこちらから→

2. 海外留学

(1) 交換留学制度

本学では、海外の交流協定校と交換留学を行っています。交換留学とは、本学と協定を結んでいる大学の間で学生を相互に受け入れ・派遣する制度で、留学期間が在学期間として認められ、留学先大学での検定料・入学金・授業料が免除されるなどの経済的な支援も受けられます。

交換留学に応募するには、TOEFL や IELTS などの外国語試験のスコアが必要です。留学を希望する学生は、早めに目標を立て、学内で実施される TOEFL などを積極的に受験しましょう。

留学に関する手続きや相談は、グローバル推進課までお問い合わせください。

問い合わせ先 グローバル推進課 e-mail: yu-study-abroad@ml.yamanashi.ac.jp

電話: 055-220-8047

交流協定校 (国・地域名)	留学時期	期間	申請時期	募集 人数	令和 7年度 派遣 実績	語学力の目安
イースタン・ ケンタッキー大学 (米国)	8月～5月	10ヶ月	2026年 3月1日	5名 以内		TOEFL-IBT 71 以上 (いずれのセクションも 16 未 満でないこと) または TOEFL-ITP(学内 TOEFL) 530 以上、TOEFL-CBT195 以上、IELTS 60 以上 (各スキル 50 以上)、英検準 1 級以上、Duolingo 95 以上 等
	8月～12月	5ヶ月				
	1月～12月	12ヶ月	2026年 9月1日			
	1月～5月	5ヶ月				
シドニー工科大学 (オーストラ リア)	7月～6月	12ヶ月	2026年 2月13日	10 名 以内 /one sem ester		応募時の GPA: 2.5 以上 Australian Language & Culture コース： TOEFL-IBT 60-78 以上 または IELTS 6.0 以上 (全て 6.0 以上) 学部コース： 英語基準は学部によって異なるため、要確認。
	7月～11月	5ヶ月				
	2月～11月	10ヶ月	2026年 9月1日			
	2月～6月	5ヶ月				
ドレスデン工科大 学 (ドイツ)	10月～8月	11ヶ月	2026年 3月1日	2名 以内		ドイツ語能力：CEFR B1 レベル以上の語学力を証 明するもの 英語能力：CEFR B1/B2 以上
	10月～3月	6ヶ月				
	4月～3月	12ヶ月	2026年 9月1日			
	4月～8月	5ヶ月				

オックスフォード・ブルックス大学 (英国)	9月～5月	9ヶ月	2026年 3月1日	2名 以内		学部コース：IELTS for UKVI 6.0以上 (Reading, Writing 6.0以上, Speaking, Listening 5.5以上) 語学研修コース+学部コース：IELTS for UKVI 5.5以上 (Reading, Writing, Speaking, Listening 5.0以上) 両コースとも応募時のGPA: 2.8以上
リヨン第三大学 (フランス) ※	8月～6月	10ヶ月	2026年 3月1日	3名 以内		フランス語で行われる授業のコース： 原則として、B1以上(基準は学部により異なるので要確認) 英語で行われる授業のコース： TOEFL-IBT 80以上(全て20以上)、IELTS 6.5以上(全て6.0以上)等
	8月～10月	3ヶ月				
	1月～6月	6ヶ月	2026年 9月1日			
コンケン大学 (タイ)	8月～5月	10ヶ月	2026年 3月30日	2名 以内		タイ語又は英語で意思疎通する能力があること。 TOEFL-IBT 61以上、TOEFL-ITP (学内TOEFL) 460以上、IELTS 5.0以上(全て5.0以上) (基準は学部により異なるので要確認)
	8月～12月	5ヶ月				
	1月～12月	12ヶ月	2026年 9月1日			
	1月～5月	5ヶ月				
杭州電子科技大学 (中国) ※	9月～2月	6ヶ月	2026年 3月1日	2名 以内		中国語検定 (HSK) 4級以上、または TOEFL-IBT 80点以上、IELTS 5.5以上 (基準は専門分野により異なるので要確認)
	9月～8月	12ヶ月				
	3月～8月	6ヶ月	2026年 9月1日			
	3月～2月	12ヶ月				
リュブリャナ大学 (スロベニア)	10月～7月	10ヶ月	2026年 3月1日	2名 以内	2名	英語またはスロベニア語 CEFR B2 以上
	2月～7月	6ヶ月	2026年 9月1日			
外交学院 (中国)	9月～8月	12ヶ月	2026年 3月1日	3名 以内		中国語能力試験HSK4級以上、又は、同等レベルの中国語能力保持者。英語で授業を受けることが可能な英語能力保持者 詳細はグローバル推進課にお問い合わせください。
	9月～2月	6ヶ月				
	3月～2月	12ヶ月	2026年 9月1日			
	3月～8月	6ヶ月				
西南交通大学 (中国) ※	9月～7月	11ヶ月	2026年 3月1日	6名 以内		語学力に関する要件は特に無し。学部授業のほとんどは中国語で開講されています。修士課程では、英語で開講されている授業も多くあります。学部3年生または4年生の交換留学生は、適切な前提条件を満たしていれば、英語による修士課程コースを選択することができます。
	9月～1月	5ヶ月				
	3月～1月	11ヶ月	2026年 9月1日			
	3月～7月	5ヶ月				
国立陽明交通大学 (台湾)	9月～6月	10ヶ月	2026年 3月1日	2名 以内		学部学科によって異なります。 詳細はグローバル推進課にお問い合わせください。
	9月～12月	4ヶ月				
	2月～6月	5ヶ月	2026年 9月1日			
ゲオルグ・シモン・オーム工科大学ニュールンベルク (ドイツ)	10月～3月	5ヶ月	2026年 3月1日	4名 以内		ドイツ語能力：CEFR B2レベル以上の語学力を証明するもの 英語能力：TOEFL-IBT 80以上 (選者により異なるため、グローバル推進課にお問い合わせください。)
	3月～7月	5ヶ月	2026年 9月1日			

※印のある大学については、前年度の実施内容を参考に留学時期等を記載しており、今後、変更となる場合があります。内容が確定しましたら、学内掲示板 CNS 等で案内します。

(2) 春季・夏季海外研修

本学では、夏季及び春季休業中に語学研修や文化研修を実施しています。

まずは、語学力を伸ばしたい、異文化を体験したい、交換留学の前段階として「留学」を体験してみたいという方におすすめのプログラムです。

詳細については、募集時に学内掲示板 CNS 等でお知らせし、あわせて説明会を開催します。

交流協定先 (国・地域名)	実施時期	実施期間	申請時期	備考
ケンタッキー大学英語・文化研修 (米国)	2月上旬 ～3月上旬	4週間 ～5週間	11月上旬	約4～5週間の英語・文化研修に参加します。現地の学生との交流活動も含まれ、渡航前・後にもオンラインにて交流を行います。
プリティッシュ・コロンビア大学 イグ リット・ラガ ー・イ スィフト英語・文化研 修 (カナダ)	2月中旬 ～3月中旬	4週間	11月上旬	英会話力の向上、国際感覚の醸成とカナダ市民社会理解を目的とした学習と、ホームステイでの実践を行うプログラムです。
レスター大学 英国・文化研修 (英国)	8月上旬 ～8月下旬	3週間 ～4週間	5月上旬	①英語・文化プログラム、②医学系学生向けプログラム、③人文系英語プログラムのいずれかのプログラムに参加し、英語力とコミュニケーション・スキルの向上や英国文化体験を行います
ノーザン・アイオワ 大学英語・文化研修 (米国)	8月中旬 ～9月中旬	4週間 ～5週間	5月上旬	The Culture and Intensive English Program(CIEP) における英語研修に加え、文化体験やホームステイをし、現地の方とも交流します。
	2月中旬 ～3月中旬		11月上旬	
カンボジアフィール ドワーク研修 (カンボジア)	8月中旬 ～9月上旬	2週間 ～3週間	5月上旬	保健・医療の範囲に限らず、水資源、栄養、食糧、農業、教育、インフラ整備等、健康に影響を与える暮らしの中の様々なグローバルヘルスにかかわる課題の中で、関心があるテーマを選定し、事前に作成した計画をもとに、現地にてフィールドワークを実施します。

(3) 大学の世界展開力強化事業

本学では、2021年度及び2025年度の文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択されました。2021年度に採択されたアジア実問題解決駆動AI教育プログラムでは、中国・韓国・マレーシアの大学と連携し、中長期留学(デュアルディグリー・プログラム)や短期研修などの学生交流を実施しています。

○中長期留学(デュアルディグリー・プログラム)

交流協定校 (国・地域名)	実施時期	期間	申請時期	備考
杭州電子科技大学 (中国)	9月～1月	1学期 (4～5か月)	4～5月頃	工学専攻の学生を対象に修士及び博士のデュアル・ディグリープログラムを提供しています。
国立釜慶大学校 (韓国)	9月～12月			
国立ペルリス大学 (マレーシア)	年間を通じて申請を受け付けます。			

※デュアル・ディグリープログラムに参加すると、協定校で取得した単位の一部を在籍大学の単位として認定することができ、2つの大学の学位を取得することができます。

※留学先で学位を取得するためには、留学先大学の卒業要件を満たす必要があります。

※中長期プログラムに参加する場合、留学先の協定大学へ授業料等を納める必要はありません。(本学の授業料は納める必要があります。)

※参加するには、所定の応募資格を満たす必要があります。詳細については、募集時に公開する募集要項をご確認ください。

○短期研修

交流協定校 (国・地域名)	実施時期	期間	申請時期	備 考
杭州電子科技大学 (中国)	夏季休業 期間中	2 週間	4~5 月 頃	本プログラムは、各言語の学習経験がない学生も参加可能です。語学・文化に関する講義のほか、現地学生との交流や文化体験を通じて、異文化コミュニケーション能力の向上を図ります。
国立釜慶大学校 (韓国)				
国立ペルリス大学 (マレーシア)				

また、2025 年度に採択された事業（サブサハラ諸国の SWGs 実現を牽引する共創デザイナー育成プログラム）では、北里大学やガーナ大学と連携した学生交流プログラムを予定しており、現在、プログラムの構築を進めています。

事業の詳細や最新情報については、2026 年 3 月末頃に本学ホームページで公開する予定です。

(4) 留学支援制度

本学では、交換留学や本学が認めた海外研修プログラムに参加し、海外での学びに意欲的に取り組む学生を、経済的に支援しています。

① 山梨大学海外留学応援プログラム

この制度は、8 日以上 の期間で、海外の本学協定大学等において学習又は研究することを目的とする学生の派遣支援を行います。6 ヶ月以上の留学等を行う学生 1 人につき 10 万円、6 月末満の留学を行う学生については 5 万円～7 万円を支給します。

② 山梨大学秋山勝彦グローバル人材育成奨学支援金

この制度は、学術・研究のグローバル化を見据え、医学部、工学部及び大学院医工農学総合教育部（工学域及び医学域）の学生並びに大学院総合研究部（工学域及び医学域）の若手研究者（医学部附属病院の若手医師を含む）の研究活動及び人材育成の支援を行います。

3. 外国人留学生の受入れ

(1) 在籍の状況 在籍者数 289 名：26 カ国・地域（令和 7（2025）年 11 月 1 日現在）

本学では、世界の各国から外国人留学生を受け入れています。

留学生の出身国・地域は、次のとおりです。

中国、マレーシア、インドネシア、ベトナム、タイ、バングラデシュ、韓国、カンボジア、フィリピン、ガーナ、インド、ウクライナ、セネガル、ドイツ、モンゴル、エジプト、ザンビア、ナイジェリア、パキスタン、パナマ、ブラジル、ルーマニア、台湾、南スーダン、レソト、ケニア

(2) 外国人留学生へのサポート

本学では、外国人留学生に対して次のような支援を行っています。

① チューター制度

チューター制度は、入学後 1 年目の研究生の留学生や交換留学生、及び勉学に不安のある学部生の留学生を対象とした制度です。

指導教員やクラス担任教員の指導の下で、上級生や同学年の学生がチューターとして、主に研究や勉学、日常生活における個別の相談に応じます。当該留学生とその指導教員、またはクラス担任教員が必要と認めた場合に、チューター学生を選定することができます。

② サポーター制度

サポーター制度は、入学後1年目の大学院生の留学生を対象とした制度です。

指導教員や当該留学生からの要望と大学からの指示に基づき、来日当初の諸手続きの補助や情報提供を行います。当該留学生とその指導教員が必要と認めた場合に、サポーター学生を選定することができます。

③ 交流パートナー制度

交流パートナー制度は、学部1年生の留学生を対象とした制度です。

留学生と同学年・同学科の学生が自薦・他薦で交流パートナーとして登録し、基本的には1年間、留学生と勉学や交流を行います。新年度に交流パートナーとして登録した後、活動実績が自発的教養科目（ボランティア活動）としての要件を満たせば、単位の取得も可能です。この単位を取得するためには、教養教育科目の「ボランティア理論」、または「ボランティアとサービスラーニング」の単位取得が別途必要です。

④ 留学生への奨学金給付

学業、人物ともに優れ、かつ、経済的理由により修学が困難である私費外国人留学生に対して奨学金給付制度があります。

⑤ 留学生のための居住施設

本学には、留学生、外国人研究者の居住用に寄宿舍が設置されています。寄宿舍名及び居室数は、次のとおりです。

寄 宿 舎 名	居 室 数
甲府国際交流会館	単身室36室、夫婦室2室、家族室2室
甲府国際交流会館 甲斐路分館	単身室 8室
甲府国際交流会館 アネックス	単身室 57室
玉穂国際交流会館	単身室 12室、夫婦室 6室、家族室 5室

⑥ 民間アパートへ入居する際の支援

・連帯保証人の機関保障

留学生が、民間のアパート等に入居するため賃貸借契約を結ぶ際に連帯保証人が必要な場合、学生所属の学部長、研究科長又は専攻長が連帯保証人になります。ただし、留学生住宅総合補償制度に加入するなどの条件があります。

・アパートを借りた場合の補助金の支給

留学生本人がアパートの賃貸借契約をした場合は、入学年度の1回に限り住宅補助金が支給されます。ただし、申請書及び必要書類の提出が必要になります。

なお、応募者多数の場合には、選考を行います。

⑦ 留学生後援会による経済支援

・金銭的支援

留学生が不測の事態等により、経済的負担が大きく、生活維持が極めて困難となったとき、その留学生を支援するために見舞金を支給、または一時金を貸与します。

・保険への加入

本学の留学生は全員、留学生後援会からの支援により学生教育研究災害傷害保険及び付帯賠償責任保険に加入します。大学が手続きを行うため、留学生が自分で手続きする必要はありません。

国内外における正課中、学校行事中、課外活動中、通学中の事故により身体に障害等を被った場合、本保険給付により補償されます。

4. 国際化推進センター

国際化推進センターは、外国人留学生・日本語が母語でない学生のための日本語教育、及び修学・生活上の指導・相談、本学の国際交流推進への寄与、交流協定校への海外留学に関する指導・支援、またこれらの分野における調査・研究などを行っています（国際化推進センターに関する詳細は98ページをご覧ください）。

国際化推進センターには、留学生相談室も設置されています。困ったことがあったら、気軽に相談してください。

問い合わせ先 国際化推進センター e-mail: takaei@yamanashi.ac.jp

電話: 055-220-8753（担当：伊藤）

また、海外留学についての相談は、以下の問い合わせ先で受け付けています。

問い合わせ先 国際化推進センター e-mail: tnunomura@yamanashi.ac.jp

電話: 055-220-8152（担当：布村）



LIFE GUIDANCE

2026



環境宣言 構内規制 情報倫理

◎山梨大学環境宣言
構内規制

◎情報セキュリティポリシーの順守

環境宣言・構内規制・情報倫理 目次

I 山梨大学環境宣言	75
II 構内規制	
1. 構内交通規制について	76
甲府キャンパス構内交通規制図	78
医学部キャンパス構内交通規制図	79
2. 構内禁煙について	80
III 情報セキュリティポリシーの遵守	81

I 山梨大学環境宣言

山梨大学環境宣言

基本理念

人類が21世紀をより良く生きるためには、人間の社会的行動によって起こる地球環境への負荷を軽減し、物質循環を基本とするゼロエミッションの社会を構築する必要があります。このような持続性のある循環型社会を構築し、維持していくことは私たちの責務であり、これらに向けた取り組みは必要不可欠であります。

本学では、よりよい環境を目指して、教育及び学術研究の面から地球環境の向上に貢献するための環境活動を実施するものであります。

基本方針

本学は、基本理念を実現するために、職員及び学生など、本学に関わる全ての人々の協力のもとに、それぞれの立場で「個人として」、「組織として」、自発的・積極的に環境活動に取り組みます。

- (1) 地球環境の保全・改善活動を推進するために、教育及び学術研究活動を通じて、循環型社会を担う21世紀に必要な人材を育成するとともに、教育啓発活動を積極的に展開します。
- (2) 環境目的及び目標を設定し、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
- (3) 循環型社会の実現を目指し、廃棄物の減量化、再利用、リサイクルなどにより、省資源・省エネルギーに取り組み、環境維持・改善と汚染予防につとめます。
- (4) 適用される環境関連の法規、規制、協定、自主基準などを遵守します。
- (5) 山梨県における環境活動に積極的に参画し、地域環境の保全・改善活動を支援します。
- (6) この環境宣言は文書化し、大学ホームページなどを通じて、職員・学生など、本学に関わる全ての人々に周知するとともに、地域社会へも公開し、また、環境活動への取り組みを公表します。

2002年10月1日

山 梨 大 学 長

Ⅱ 構内規制

1. 構内交通規制

甲府キャンパス

甲府キャンパスでは、教育・研究の場にふさわしいより静かで安全な環境を保つため、下記のように構内交通規制を実施しています。学生の皆さんの理解と協力をお願いします。

記

(1) 入構について

- ① 通学のための自動車の入構は原則として禁止しています。
- ② 入構できる自動車は、駐車場の使用許可を受けた者の自動車、公用車及び緊急車両等とします。
- ③ 二輪車の入構については、特に許可を必要としませんが、近距離通学の場合は、できるだけご遠慮願います。
- ④ 各校門において入構できる車両は、次のとおりとします。

	甲府西キャンパス					甲府東キャンパス				
	正門	西北門	中央西門	西門	駐輪場通用口	中央東門	東門	南門	東南門	駐輪場通用口
自転車	—	○	○	○	○	○	○	—	○	○
原動機付自転車	○	○	—	○	○	○	○	—	○	○
自動二輪車	○	○	—	○	○	○	○	—	○	○
自動車	○	—	—	—	—	—	—	○	—	—

(2) 構内における駐車・駐輪について

- ① 所定の駐車場・駐輪場以外の場所への駐車・駐輪を禁止します。
- ② 駐車場・駐輪場等の位置は、甲府キャンパス構内交通規制図に示すとおりとします。
(なお、構内の駐輪場は、いずれも多くの利用があるため、なるべく奥の方から整然と駐輪し、満車状態の場合は他の駐輪場へ回るなど、相互に快適な利用ができるよう留意してください。)

【二輪車（原付、自転車含む）によるキャンパス構内での走行禁止について】

キャンパス構内の二輪車での走行は、歩行者の安全並びに接触事故等の防止のため、全面禁止となっています。キャンパス所定の駐輪場への駐輪の際には、最寄りの校門から入構をお願いします。

(3) その他

教育研究上又は身体上の理由等により、自動車で甲府キャンパスに入構したい場合または構内駐車場を利用したい場合は、指導教員等の了解のもと下記窓口にて所定の手続きを行い、許可を受けてください。

なお、平日の17:00から22:00、および土曜、日曜、祝祭日の8:30から22:00の間については、課外活動等への利便性を考慮して、学生の自動車での入構を一時的に許可しています。入構を希望する際は、総合案内所にて所定の手続きを行ってください。(年末年始の休業期間・入試実施時等を除く。)

(窓口：財務部会計課資産管理グループ (本部管理棟2階))

医学部キャンパス

医学部キャンパスでは、下記のように構内交通規制を実施しています。
学生の皆さんの理解と協力をお願いします。

記

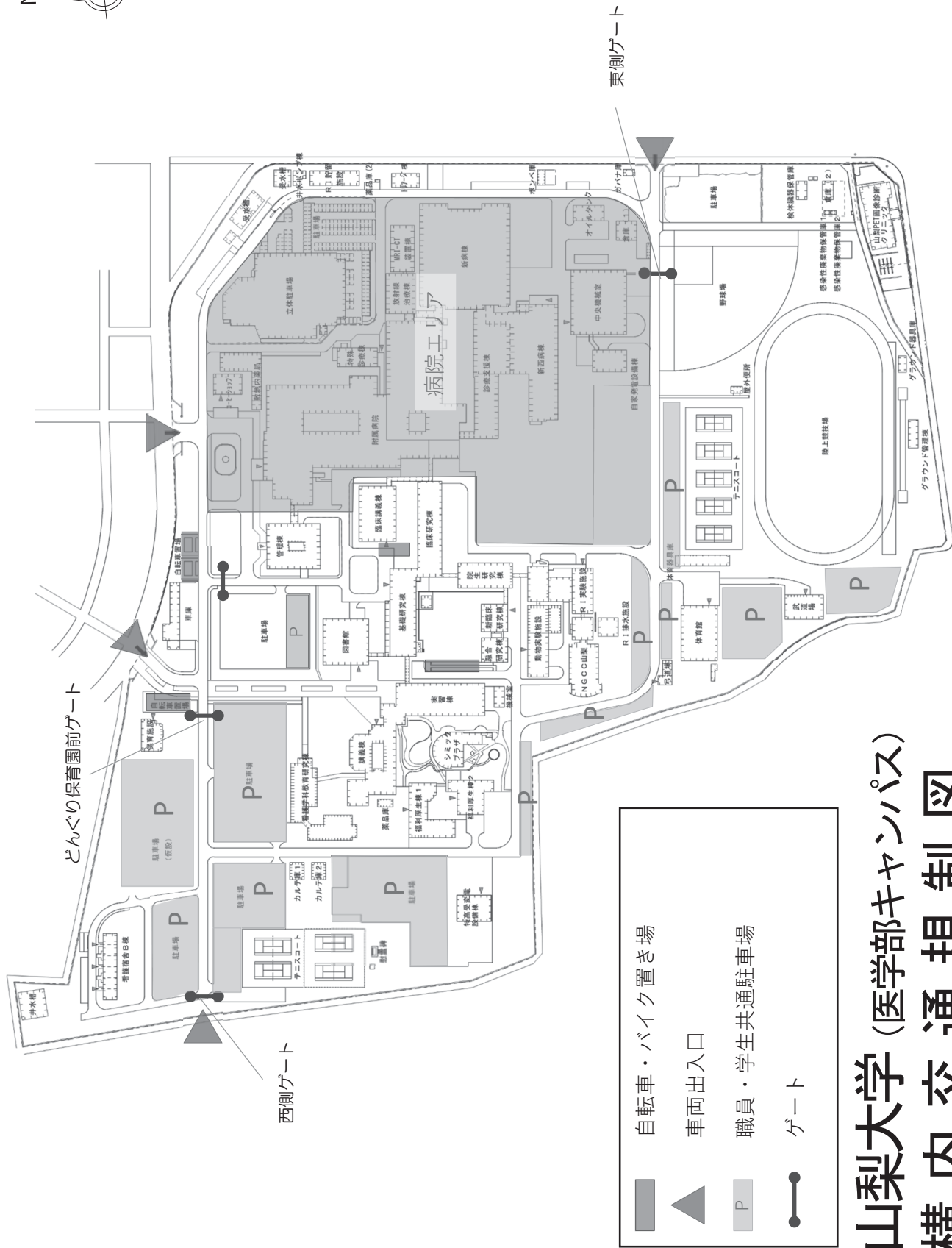
- 乗用車での通学については、学生会の許可を得てください。詳細については、学生会からの掲示によりお知らせします。
- 二輪車での通学については、必ず所定の駐輪場に駐車してください。
- 駐車場・駐輪場等の位置は、医学部キャンパス構内交通規制図に示すとおりとします。乗用車は東口一般ゲートから入構してください。
- 所定の駐車場・駐輪場以外の場所への駐車・駐輪を禁止します。

両キャンパスの交通規制図は、次ページに掲載してあります。

山梨大学 (甲府キャンパス) 構内交通規制図



- G : 外来者の自動車、荷物車進入ゲート
- : 自動車、原動機付自転車、自動二輪車 進入可能範囲及び駐輪場
- : 原動機付自転車、自動二輪車 進入可能範囲及び駐輪場
- P : 外来者の自動車、荷物車用駐輪場
- : 車両進入禁止線



	自転車・バイク置き場
	車両出入口
	職員・学生共通駐車場
	ゲート

山梨大学 (医学部キャンパス) 構内交通規制図

構内交通規制等
説明

2. 構内禁煙について

全キャンパス敷地内禁煙について

平成 30 年 7 月 25 日付けで健康増進法の一部を改正する法律が公布され、望まない受動喫煙をなくすため、学校・病院及び行政機関等である本学では、全キャンパスにおいて、加熱式たばこ・電子たばこを含め敷地内全面禁煙を実施しております。

本学は、20 歳未満の学生・児童等や医学部附属病院を受診される方など受動喫煙による健康への影響が大きい利用者が多い施設であること並びに公共性の高い教育研究機関であることを踏まえ、学生、教職員及び学内外関係者の受動喫煙による健康被害を防止し、安心・安全で快適な教育研究環境の確保に取り組みます。

学生の皆さんには、敷地内禁煙についてご理解いただくとともに、本学各キャンパス周辺の路上や店舗等においても、周辺への迷惑となる喫煙を行わない様に受動喫煙防止に配慮いただくようお願いします。

Ⅲ 情報セキュリティポリシーの遵守

総合情報戦略機構長

学生の皆さんへ

あなたがコンピュータ犯罪者にならないように気をつけて！

山梨大学では、大学内の大切な情報資産を守り、個人情報保護法や不正アクセス禁止法等に抵触することが無いように、「情報セキュリティポリシー」を定めています。皆さんは山梨大学の構成員として、これらの規則を守らなければなりません。

皆さんに関係する代表的な違反事例は次のとおりです。これらは個人情報保護法や著作権法、不正アクセス禁止法に違反する、または違反につながるおそれのある行為になりますので、絶対に行ってはなりません。情報化社会では「いたずら」ではすまされないと認識しましょう。

- 学内から名簿情報や成績一覧ファイルなどの個人情報を持ち出すこと
- 著作権のある音楽、映画、書籍や雑誌、ゲームソフト、パソコンソフトなどを法律で認められている私的使用の範囲を越えて複製（コピー）し、配布（販売）または利用すること
- ファイル共有ソフト（BitTorrent などの総称して「P2P」ソフトと呼ばれているソフトウェア）を利用すること
- tor ブラウザ、匿名 VPN サービス、オープンプロキシなどの匿名通信を利用すること
- 学内外の掲示板や SNS に、他人を誹謗中傷する事項や、他人の個人情報を書き込むこと
- 他人のシステムパスワードを盗み（許可無く知り得た場合も含む）、他人になりすますこと

これらを含めて、皆さんにお守りいただきたいことを「PC/インターネット利用ガイドライン」にまとめてありますので、必ず目を通しておいてください。

- 「PC/インターネット利用ガイドライン」
<https://sojo.yamanashi.ac.jp/facilities/freshman/>

情報セキュリティに関する法律や規則の情報は、下記にありますので、参考にしてください。

- 「個人情報保護法」に関する情報：
<https://www.yamanashi.ac.jp/about/138>
- 「情報セキュリティポリシー」に関する情報：
<https://www.yamanashi.ac.jp/about/131>

ウイルス対策を行っていないパソコン及び OS (Windows11 等) やアプリケーションソフトのアップデートをしていないパソコンを学内ネットワークに接続してはいけません。

必ず、アンチウイルスソフトをインストールし、普段から OS やアプリケーションソフトのアップデートをすることを心がけてください。

自分自身とパソコンを守る為に必須の行為です!!

個人情報を保存したパソコン（USB メモリ等も含む）が紛失、盗難に遭った場合やウイルスに感染した場合は、直ちに下記へ連絡してください。

- 紛失や違反等の報告先：所属学部の学科・講座、研究室の教員（担任等）
- 技術的な問題：総合情報戦略部情報システム課
（電話：055-220-8085, E-mail：ipc@yamanashi.ac.jp）



個人情報の保護、情報セキュリティを確保するため、 このようなことに心がけましょう

総合情報戦略機構

①パスワードの管理は徹底して

パスワードの正しい管理は、情報システムを利用する上で必要不可欠なことです。以下のことに心がけましょう。

- 安全なパスワードの作成
 - 名前などの個人情報からは推測されないようにする。
 - 英単語などをそのまま使用しない。
 - アルファベット、数字、記号等を混在させる。
 - 適切な長さの文字列にする（8文字以上が望ましい）。
- パスワードの管理
 - パスワードは、友人などにも教えないで秘密にする。
 - パスワードのメモを作ったり、ディスプレイなどにそのメモを貼ったりしない。
 - パスワードをWebブラウザなどのソフトウェアに記憶させない。
 - パスワードは定期的に変更する。
 - パスワードを入力する場合は、他人に見られないようにする。



⑥被害に遭ったとき



被害を最小限に食い止めるためには迅速な対応が必要です。

不正侵入、データ改ざん、データ流出等の被害が発生した場合は、直ちに所属部局における情報セキュリティの責任者又は担当者に連絡して指示を仰いでください。

⑦あやしい電子メールは開かない

日常やり取りしているメールにウイルスが添付されている場合があります。

ウイルス付きのメールの場合、変な表題だったり、添付ファイルの拡張がおかしかったりします。

ウイルスには、添付ファイルを開いた時点で感染するものや、メールの本文を開いただけでも感染するものがあります。また、大学からのお知らせと名乗り、偽サイトでパスワードを入力させるフィッシングメールが届く場合があります。

送信者のメールアドレスやサイトのURLが、大学のアドレスではなかったりします。

おかしかったメールは開かずに捨てましょう。その際、捨てたゴミ箱の中も空にしましょう。



②コンピュータを使用中のまま席を空けない



コンピュータを使用中のまま席を空けると、第三者に悪用され大きなトラブルに巻き込まれる可能性があります。また、自分自身ばかりでなく他人のプライバシーが危機に瀕するばかりか、他のユーザーやネットワーク組織に重大な問題を引き起こしてしまってからでは取り返しがつきません。

席を空けるような場合は、コンピュータの電源を切る、またはスクリーンセーバーのパスワードロック等の処理を行います。

③情報管理は徹底して

ゴミとして捨てられたプリントアウトなどから情報が漏れるなど、意外なところから情報が漏れることがあります。また、外部記憶装置（媒体）などは容易に悪意のある第三者に持ち去られてしまいます。以下のことに心がけましょう。

- 書類での重要な情報や個人情報を処分する場合には、シュレッダー等により絶対に復元できないようにする。
- 重要な情報や個人情報が記録された書類やUSBメモリ等の記憶媒体をむやみに外に持ち出したり、机の上に放置したままにしない。また、記憶媒体をやむなく外部に持ち出す場合や機密性の高い情報はデータを暗号化して、万一の紛失・盗難等の事故に備える。
- 内外から持ち込んだディスクドライブ等の外部記憶装置（媒体）を安易に自分のパソコンに接続しない。（事前のウイルスチェック等を行う）また、これらは保管場所や装置（媒体）自体の施錠などで物理的盗難を予防する。



⑧安易なダウンロードをしない



ホームページから無償でダウンロードできるフリーソフトなどがありますが、安易なダウンロードによって、ウイルスの感染のほか、ハードディスクの情報が盗まれたり、破壊されたりなどの深刻な被害を受けることがあります。被害を防ぐため、信頼できるサイト以外からはプログラムのダウンロードを避けるようにしましょう。

⑨ホームページに注意

ホームページの中には個人情報の取得を目的としたものや、ウイルスが潜んでいるものもあります。

あまり健全でないものや、甘い甘い印象を受けるホームページは避けましょう。

また、突然データの送信を要求してくるようなサイトも危険ですので、その場合はデータ送信を拒否してください。

さらに、パソコンがウイルスに感染したような広告が表示されることがあります。記載されている連絡先に連絡をすることはやめて、閉じてください。



⑩ウイルス対策ソフトは常に最新

ウイルス対策ソフトでは、コンピュータウイルスを検出し駆除することができます。

しかし、ウイルス対策ソフトをインストールすれば万全というわけではありません。それが対応していない新種のウイルスであれば感染してしまいます。

ウイルスの感染を極力防止するためには、ウイルス対策ソフトを常に最新の状態にすることが重要です。



④バックアップ



何時どのようなときにコンピュータのデータが使用できなくなるかわかりません。

不慮の事故等に備え、重要なデータは定期的にバックアップし、大切に保管しておきましょう。

⑤コンピュータの廃棄や譲渡等は適切に

不要になったコンピュータのデータを削除し、ゴミ箱を空にしただけではデータは完全に削除されません。

実は、復活ソフトを使うと、ごみ箱から削除しただけでは、データを簡単に元通りにすることが可能です。ごみ箱だけではなく、ハードディスクのフォーマットでも同様のことが言えます。

データ消去ソフトを使ってデータを消去するか、信用できる専門業者にハードディスク内のデータを抹消してくれるよう依頼しましょう。



⑪ウイルスに感染した場合

ウイルスに感染した場合は、そのままシステムを使用し続けると感染拡大の恐れがありますので、速やかにパソコンのLANケーブルを抜きネットワークから切り離してください。

その後、所属部局における情報セキュリティの責任者又は担当者に連絡し、指示を仰いでください。



⑫セキュリティレベル

全体ではどんなにセキュリティレベルが高くても、部分的（個人的）に低いところがあれば、そこから侵入されます。

そのため、最もセキュリティレベルの低い部分が組織全体のセキュリティレベルとなります。一人ひとりが責任をもって情報セキュリティに取り組みましょう。



Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dotted lines.



Handwriting practice lines consisting of 4 horizontal dotted lines.



LIFE GUIDANCE

2026



学内附属施設等 学内共同教育研究施設

- ◎附属図書館
- ◎保健管理センター
- ◎教育統括機構
 - アドミッションセンター
 - 大学教育・DX推進センター
 - 全学共通教育センター
 - 国際化推進センター
 - キャリアセンター
 - 学生サポートセンター
- ◎機器分析センター
- ◎総合情報戦略機構
- ◎クリーンエネルギー研究センター
- ◎総合分析実験センター
- ◎水素・燃料電池ナノ材料研究センター
- ◎発生工学研究センター
- ◎地域未来人材育成センター
- ◎男女共同参画推進室

学内附属施設等
学内共同教育研究施設 目次

附属図書館	
趣旨・目的	87
利用心得	87
電子図書館サービス	87
1. 本館（甲府キャンパス）	88
2. 医学分館（医学部キャンパス）	91
保健管理センター	93
教育統括機構	94
アドミッションセンター	95
大学教育・DX推進センター	96
全学共通教育センター	97
国際化推進センター	98
キャリアセンター	99
学生サポートセンター	101
機器分析センター	102
総合情報戦略機構	103
クリーンエネルギー研究センター	105
総合分析実験センター	107
水素・燃料電池ナノ材料研究センター	108
発生工学研究センター	111
地域未来人材育成センター	113
男女共同参画推進室	114

附属図書館

趣旨・目的

図書館は、図書や学術雑誌その他必要な資料を収集・整理・保存・提供し、併せて学術情報システム提供の場として機能することにより、山梨大学における教育・研究を支援するとともに、地域社会の知的情報基盤としての役割を果たすことを目的としています。

利用心得

- ① 図書館内での飲食・携帯電話の利用については各館のルールに従ってください。
- ② ラーニングcommons・医学分館学習室以外の場所では静かにしましょう。
- ③ 他の利用者の迷惑になるような行為はやめてください。
- ④ 図書館所蔵の資料は、丁寧に取り扱い、書き込み等行わないでください。
- ⑤ 悪天候や諸般の事情により、開館時間の変更、利用制限を行うことがあります。図書館からのお知らせや掲示等で確認してください。

電子図書館サービス



※ 附属図書館ホームページ <https://lib.yamanashi.ac.jp/>

インターネットを經由して、図書館の電子サービスを利用することができます（③-⑥は学内LAN 経由のみ、*甲府キャンパス限定、#医学部キャンパス限定、◆図書館内特定のパソコン限定）。

- ① MyLibrary 貸出や予約状況の確認、貸出資料の期間延長、学外文献複写・図書貸借、学内他館図書取り寄せの依頼が可能です。
- ② OPAC（オンライン蔵書目録） 山梨大学所蔵の図書・雑誌・電子ブックの検索ができます。
- ③ 情報検索データベース（*英語） 新聞記事や論文の検索等が可能です。
新聞記事：朝日新聞クロスサーチ、毎索、山梨日日新聞
全分野：CiNii Research、MAGAZINEPLUS
自然科学：*Web of Science
医学・看護：医中誌 Web、メディカルオンライン、*MEDLINE、*CINAHL、EBMR、#最新看護索引 Web、#今日の臨床サポート、##UpToDate
教育：*ERIC
雑誌評価（Impact Factor 等）：*Journal Citation Reports
法律：Westlaw Japan（法律情報総合オンラインサービス）

④ 電子ジャーナル インターネット上で公開され、閲覧・プリントアウトなどが可能な学術雑誌です。本学の契約により多数の論文を利用することができます。

⑤ 辞書

- ジャパンナレッジ：『日本大百科全書』、『ランダムハウス英和大辞典』、『字通』、『国史大辞典』、『会社四季報』等の各種辞事典類を総合的に検索できます。また、『東洋文庫』などを画面上で閲覧することができます。
- KOD（研究社オンライン・ディクショナリー）：『リーダーズ英和辞典』をはじめ、研究社が発行する多彩な辞書をインターネット上で検索できます。

⑥ 電子ブック

- *化学書資料館：国内出版の化学書を収録
- 理科年表プレミアム：理科年表のインターネット版（1925年～最新版）
- #McGraw Hill Access Medicine（医学分野の教科書等、洋書 160冊集録）
- 今日の診療 WEB 版：医学系書籍、和書 16冊を集録
- KinoDen
- Maruzen eBook Library
- ProQuest Ebook Central
- EBSCOhost eBook Collection
- イーブックスライブラリー
- 都道府県統計書データベース 中部：明治 6(1873)年-昭和 47(1972)年
- 大来佐武郎関係文書データベース：大来佐武郎の未刊行の日記・手帳・ノート
- 通算政策史資料（一部利用可）：通商産業政策史に関わる資料群
- 地方自治関係資料 1974-2015：地方自治総合研究所の成果物
- **国立国会図書館デジタルコレクション

このほか多数のタイトルを学内外から利用できます。図書館ホームページの電子資料または OPAC から検索をしてアクセスしてください。

1. 本館（甲府キャンパス）

（1）開館時間と休館日

- ① 開館時間 通常：平日 8：45～21：00（休日授業日を含む）
土・日曜日（10：00～13：00）13：00～17：00
（ ）内の時間は、カードによる入館

各季休業期間 平日 8：45～17：00

② 休館日（休日授業日を除く）

国民の祝日および振替休日

甲府キャンパス夏季一斉休業日 年末年始（12月27日～翌年1月4日）

入学試験日等

③ 特別利用（上記①の開館時間以外および休館日における館内閲覧、文献複写および情報検索） ただし、開館準備等で利用できない時間帯があります。

対象： 本学大学院生、当該年度に卒論を提出予定の学部生、教職員

※利用には申請が必要です。

- 学内行事や授業実施日、また悪天候や諸般の事情に対応して、臨時に開館・閉館・時間変更をする場合があります。その場合は、ホームページ等で通知します。

(2) 貸出・返却

図書の館外貸出は学生証を用意の上、自動貸出返却装置・1階図書館事務室カウンターで手続きを行ってください。手続きをしていない資料を持ち出そうとすると、出口がロックされます。なお、転貸は禁止します。

返却は自動貸出返却装置・図書館事務室カウンターで手続きを行ってください。休館・閉館時には、玄関にあるブックポストに返却してください。

- ① 貸出冊数と期間 10冊 3週間
- ② 借りられない資料 雑誌、開架参考図書（2Fは一時貸出可）、AV資料等
- ③ 貸出期間の延長

貸出期間内に MyLibrary・自動貸出返却装置で延長処理をするか、図書館事務室カウンターに申し出てください。予約者がいなければ、延長処理日から7日間の延長ができます（2回まで）。

- ④ 予約

既に貸出されている図書を利用したい場合は、予約をすることができます。

- ⑤ 延滞・罰則

借りた図書は必ず期限内に返却してください。1冊でも延滞している資料がある場合は、新たに借りることはできません。また、遅れて返却した場合は、超過日数だけ貸出停止となります。貸出停止中は、医学分館でも貸出ができません。

- ⑥ 紛失・汚損・破損

借りた資料を紛失・汚損・破損した場合は図書館事務室カウンターに申し出てください。弁償していただきます。

(3) 図書館所蔵資料の探し方

- ① 書架で探す

2階の図書のほとんどはNDC（日本十進分類法）の分類記号順に並んでいます。特定の図書ではなくある分野の図書全体を見たい場合は、分類記号から探すことができます。NDCは、2階閲覧室に掲示してあります。

- ② OPAC（オンライン蔵書目録）で探す

山梨大学附属図書館で所蔵する資料（図書・雑誌等）は、各階のOPACで所蔵検索ができます。また、インターネットに接続していれば、どこからでも検索ができますので、図書館のホームページからご利用ください。

(4) 資料の配置と館内施設

- ① 図書は次のとおりに並んでいます。

・一般図書、参考図書…NDC(日本十進分類法)順

- ② 雑誌は配架番号順に並んでいます。（配架番号はOPACのコメント欄に記載）

③ 館内の施設（配置）

3階	雑誌書架・閲覧室	和文誌、欧文誌、大学研究報告、白書、J I S等
	新聞閲覧室	主要日刊紙・英字新聞のバックナンバー
	ワーキングエリア	複合機（コピー・プリント）
	視聴覚室	AV資料（CD、DVD等）
	YINS 端末室	PC
2階	開架図書書架・閲覧室	一般図書、参考図書、コピー機等
	ラーニングcommons	サイレントエリア、グループミーティングエリア、グループ研究室エリア
1階	ラーニングcommons <small>リモートバージョンラーニングcommons</small>	ライティングサポートエリア、グループミーティングエリア、プレゼンエリア、多目的エリア、新聞・雑誌閲覧エリア
	自販機コーナー	飲料水販売機
	閉架図書書架	一般図書
地階	閉架図書書架	一般図書、参考図書、製本雑誌

(5) 各種サービス

① 文献複写

図書館の資料は、著作権法の範囲内で複写することができます。2階及び3階に設置されているカード式のコピー機を利用してください。

② レファレンス・サービス

研究、調査及び学習等に必要な資料の紹介、文献の調査及び資料の所在調査の援助など種々の問合せに対して1階図書館事務室カウンターで職員が相談に応じます。

③ 相互利用

・他大学図書館の利用

他大学図書館の利用を希望する場合は、紹介状を発行します。

・学内にない資料の利用

他機関から文献複写物や図書を取り寄せることができます。（有料）

※ 図書は館内利用に限ります。

※ 本館・医学分館の複写物取り寄せも可能です。（有料）

※ 山梨県立大学の資料の相互利用は送料が無料です。（複写料金は実費）

④ 学内他館図書取り寄せ

本館の図書を医学分館へ、医学分館の図書を本館へ取り寄せて借りることができます。OPAC 検索結果から、申し込んでください。

2. 医学分館（医学部キャンパス）

（1）開館時間と休館日

- ① 開館時間 平日 9：00～20：00
土曜日 9：00～13：00

* ただし、毎週月曜日（休日の場合は週の最初の平日開館日）の
9：00～10：00は清掃のため完全休館します。（特別利用も不可。）

- ② 休館日 日曜日 国民の祝日および振替休日
年末年始（12月27日～翌年1月4日）
- ③ 特別利用（上記①の開館時間以外および休館日における館内閲覧、文献複写および情報検索）

対象： 本学医学部学部生、大学院生、教職員
利用には申請およびガイダンスの受講が必要です。

- 学内行事や授業実施日、また悪天候や諸般の事情に対応して、臨時に開館・閉館・時間変更をする場合があります。その場合は、ホームページ等で通知します。

（2）貸出・返却

図書の館外貸出にあたっては、希望する資料と学生証を提示してください。手続きをしていない資料を持ち出そうとすると、出口がロックされます。なお、転貸は禁止します。

休館・閉館時には、図書館玄関および基礎研究棟に続く渡り廊下側の図書館入口にあるブックポストに返却してください（AV資料は不可）。

① 貸出冊数と期間

一般図書	5冊 2週間
AV資料	1本 2週間
参考図書・雑誌	5冊 一時貸出：2時間以内 (閉館2時間前から翌朝10時まで)

② 貸出期間の延長

貸出期間内に MyLibrary で延長処理をするか、カウンターに申し出てください。予約者がいなければ、延長処理日から7日間の延長ができます（1回限り）。

③ 予約

既に貸出されている図書を利用したい場合は、予約をすることができます。

④ 延滞・罰則

借りた図書は必ず期限内に返却してください。1冊でも延滞している資料がある場合は、新たに借りることはできません。また、遅れて返却した場合は、超過日数だけ貸出停止となります。貸出停止中は、本館でも貸出ができません。

⑤ 紛失・汚損・破損

借りた資料を紛失・汚損・破損した場合はカウンターに申し出てください。弁償していただきます。

(3) 図書館所蔵資料の探し方

① 書架で探す

特定の図書ではなくある分野の図書全体を見たい場合は、分類記号から探すことが出来ます。「(4) 資料の配置」を参考にしてください。

② OPAC（オンライン蔵書目録）で探す

山梨大学附属図書館で所蔵する資料（図書・雑誌等）は、各階の OPAC で所蔵検索ができます。本館と共通の OPAC です。

(4) 資料の配置

① 図書

医学および関連領域の図書は、2階第三閲覧室に NLMC（米国国立医学図書館分類法）の分類記号順にならべてあります。一般の図書は、2階第二閲覧室に NDC（日本十進分類法）の分類記号順にならべてあります。また、2階中央に「生と死のコーナー」があります。このコーナーには生と死や終末期医療、生命倫理などについて書かれた図書等が配架されています。

② 雑誌

雑誌は、下表のように所在が分かれています。欧文誌は誌名の ABC 順、和雑誌は誌名の五十音順に並んでいます。

	医学・関連領域	総合・一般
1階第一閲覧室	バックナンバー	
1階ラウンジ	新着雑誌*、カレント誌	新着雑誌*、カレント誌

* 雑誌の最新号は新着資料として展示された後、1階カレント誌の書架に配架されます。

(5) 館内施設 : 利用の際は、カウンターで申し込んでください。

① 学習室 1・2・3・大学習室

図書館資料を用いて、グループ学習するときに利用できます。大学習室では、DVD等を利用した学習も可能です。事前に予約が必要です。

② 視聴覚室

視聴覚資料（語学・医学・その他分野の DVD 等）が視聴覚室で利用できます。また、情報検索およびレポート作成のための PC も設置されています。

③ 情報検索コーナー・コピーコーナー

情報検索コーナーには PC が設置されており、情報検索、学習等のために使用できます。コピーコーナーでは資料の複写や PC・USB メモリからの印刷が可能です。

※ 各種サービスについては、医学分館も本館と同様のサービスを行っています。

保健管理センター

1. 趣旨・目的

保健管理センターは、皆さんの心身の健康の保持促進を目的として業務を行っています。

○ 保健管理センター（甲府キャンパス）

TEL：055-220-8081

FAX：055-220-8075

○ 医学部保健管理センター（医学部キャンパス）

TEL：055-273-9312

FAX：055-273-9289

e-mail：health@yamanashi.ac.jp

ホームページ：https://health.yamanashi.ac.jp/

2. 保健管理センターの業務案内

センターを利用できる時間	8時30分～17時15分（土日・祝日を除く）
--------------	------------------------

○保健管理センターの利用は無料です。

（1）診察・応急処置・相談活動

体の不調やけが、健康に関する相談は、医師・保健師が対応します。

○プライバシーは厳守します。お気軽にお越しください。

○当センターで対応できない場合には、専門の医療機関を紹介します。

（2）各種健康診断・感染症予防事業

定期健康診断や医学部学生への予防接種や抗体検査を行っています。

日程など必要事項は「イントラネット学生掲示板」等で案内します。

（3）健康診断証明書の発行

卒業年次生で所見のない学生：証明書発行機

卒業年次生以外の学生および有所見者：保健管理センター窓口

○窓口でのお申し込みは、時間に余裕を持ってお願いします。

教育統括機構

1. 趣旨・目的

教育統括機構は、教育の質保証及び学生生活のサポート、キャリア形成に資する全学的な施策の推進及び支援を通じて人材の育成に寄与することを目的に、6つのセンター（アドミッションセンター、大学教育・DX推進センター、全学共通教育センター、国際化推進センター、キャリアセンター、学生サポートセンター）及び関係の室、委員会から構成される組織です。世界標準の教育の質保証の仕組みを取り入れ、海外からの留学生と日本人学生が共に学び、しっかりとした基礎と専門を身につけるとともに、学生生活におけるサポートや学生の進路決定を円滑に推進し、社会に貢献できる学生を送り出すため、きめ細かい支援を行っています。



1. 趣旨・目的

アドミッションセンターは、山梨大学における、アドミッション・ポリシーに合致した入学者の確保やそのための方策の調査・分析、企画立案・提言、実施することを目的としています。

2. センターの活動内容

- (1) 入学者選抜方法の調査、研究及び開発に関すること。
- (2) 入試広報の企画立案及び実施に関すること。
- (3) 高大接続の調査、研究及び推進に関すること。 等

3. センターの取組み

(1) 情報分析に基づく高大接続・入試広報の実施

DX 推進を通じた高大接続事業の高度化を目指して、入試情報システムに蓄積されたビッグデータを分析し、その結果を活用した重点的な入試広報と高大接続事業を実施しています。

(2) 学生参画型高大接続プログラムの実施

高大接続プログラム（UY-Navi）やオープンキャンパスなどの事業に在学生が企画段階から参画し運営する体制を構築しています。

(3) 入学前教育とプレイスメントテストの実施

入学者選抜において人物を重視すると同時に大学の授業に対応できる学力も必要です。大学教育の質の保証のためにプレイスメントテストの実施や学部と協力した入学前教育などを行っています。

(4) 高大接続に関する研究会（高大研）の実施推進

平成 28 年度に山梨県教育委員会と山梨大学が連携をして、高大接続に関する研究会（高大研）を発足させ、高大接続に関する様々なテーマを取り上げた研究会を毎年開催しています。

1. 趣旨・目的

大学教育・DX 推進センターは、教育全般の改善や教育の質保証、教学データの収集・分析・可視化（教学 IR）を通して、学生一人ひとりに最適な学びの環境を提供することを目指しています。本センターの業務には、人工知能（AI）を含む教育用情報システムを活用した教育の質的向上と効率化（教学 DX）、全学的な教育改善に向けた研修の企画・実施が含まれます。

2. センターの活動内容

- (1) 教育の質保証及び教育評価に関すること。
- (2) 教学システム全般の企画・運用・改善に関すること。
- (3) 教育用情報システムを活用した教育改革（教学 DX）に関すること。
- (4) 教育に関する全学的な教員研修の企画・実施・評価に関すること。
- (5) 教学 IR の企画・実施に関すること。

3. センターの取組み

教学 DX や全学的なカリキュラム体系化等を一元的に推進するため、センター内に2つの室（教育改革推進室、教学 IR・DX 推進室）を設置し業務を行っています。

- (1) 内部質保証
大学が自律的な組織として、その使命や目的を実現するために、自らが行う教育及び研究、組織及び運営、ならびに施設及び設備の状況について継続的に点検・評価し、質の保証を行うとともに、絶えず改善・向上に取り組んでいます。
- (2) 教学 DX・AI 活用・教学 IR
生成 AI 等の活用を含む教学 DX 推進、全学的な授業評価アンケートや学修・生活実態調査等の実施と教学関係各種データの把握・分析に取り組んでいます。
- (3) 全学教育 FD
個々の教員の授業能力や、学部や学科といった組織としての教育力の改善向上に資する各種講演会・講習会などの教員研修を企画・運営を行っています。
- (4) 数理・データサイエンス・AI リテラシー教育強化・普及
数理・データサイエンス・AI 教育の全学共通教育における強化や全学への普及を進めるための教育内容の改良や教育用教材の改良および学内共有に取り組んでいます。
- (5) アクティブラーニング、e-ラーニング
反転学習やオンライン授業などへの活用及び効果的な授業方法の開発、ポートフォリオシステムの利用などに取り組んでいます。

1. 趣旨・目的

全学共通教育センターは、全学共通教育を通じて、生涯にわたって主体的に学び続ける力や共創・協働による問題解決能力を、学生一人ひとりが身につけることを目指しています。その実現のために、本センターは山梨大学における全学共通教育の企画・実施・評価を行います。また、全学共通教育に携わる教職員等への支援も行っています。

2. センターの活動内容

- (1) 全学共通教育の企画・実施・評価に関すること。
- (2) 大学アライアンスやまなしを通じた連携開設科目の企画・実施・評価に関すること。
- (3) 教育統括機構内の他のセンター・室と連携した取組に関すること。
- (4) 全学共通教育に関わる教員、TA及びSAへのFDの企画・実施等、教育支援に関すること。
- (5) その他全学共通教育改革等を推進するために必要な事項。等

3. センターの取組み

全学共通教育の企画・実施・評価を推進するため、センター内に3つの室（全学共通教育企画室、全学共通教育推進室、全学共通教育評価室）を設置し業務を行っています。

(1) 全学共通教育の企画と改善

学生が必要な力を身に付けるために、全学共通教育に関する継続的な企画や改善に取り組んでいます。また、創発 PBL 科目の教育プログラム開発と改善、大学アライアンスやまなしを通じた連携開設科目の企画など、全学共通教育の発展に取り組んでいます。

(2) 全学共通教育の実施

授業科目の設定、時間割の作成、教室の割り振り、大学アライアンスやまなしを通じた連携開設科目の実施など全学共通教育の実施に関することを行います。また、全学共通教育に関わる教員やTA及びSAへのFDなどの教育支援に取り組んでいます。

(3) 全学共通教育の質保証

全学共通教育や大学アライアンスやまなしを通じた連携開設科目の継続的な点検・評価に取り組んでいます。

1. 趣旨・目的

国際化推進センターは、2003年4月に発足した留学生センター、2014年4月に改組した国際交流センターを前身とした学内共同教育研究施設であり、より時代の要請に応えるため2023年1月に改組・設置されました。外国人留学生・日本語が母語でない学生のための日本語教育、及び修学・生活上の指導・相談、学生の海外留学の促進を含む本学の国際交流の推進への寄与、また、これらの分野での調査・研究の促進を目的としています。

2. 取組み

国際化推進センターは、以下のような業務を行っています。

■日本語科目・日本事情等共修科目の開講

学部留学生・日本語が母語でない学部生を対象とする日本語の授業を前期・後期ともに4レベル6科目開設しています。また、日本語を母語とする学生と留学生が共に学ぶ、日本事情科目のほか、英語による共修科目も開講しています。さらに、本学に在籍する日本語力が十分でない大学院生や研究生を対象に、初級から中級レベルの日本語のクラスを補講として開講しています。

■留学生指導相談

指導相談担当教員による留学生相談室が開室されており、留学生に対する修学・生活面での指導、助言を行っています。様々な相談に応じるため、各教員がオフィスアワーも設けています。グローバル推進課スタッフと連携して留学生の大学生活や留学生寮での生活支援・相談に応じています。

問い合わせ先：国際化推進センター takaei@yamanashi.ac.jp

■日本語 Intensive コース

本学大学院在籍生・入学希望者（研究生等）・入学予定者を対象に、入門レベル（2コース）と初級レベル（1コース）の日本語集中授業を前期・後期に行っています。交換留学生の受講も可能です。

■海外留学に関する指導・サポート

海外留学を希望する学生に、交流協定大学への交換留学、語学を中心に学ぶ数々の短期研修プログラムを紹介し、留学準備段階から帰国後までの指導・サポートを行っています。

問い合わせ先：グローバル推進課 055-220-8703

yu-study-abroad@ml.yamanashi.ac.jp

■G-フィロス（グローバル共創学習室 B-1号館2階221室）の管理・運営

語学学習や異文化理解を通じて学生が互いに学び合う、国際的な学習環境を提供しています。また、TOEIC®対策講座などを開講し、英語学習支援をしています。

詳細は、国際化推進センターホームページ（<https://www.ciee.yamanashi.ac.jp>）をご覧ください。


1. 趣旨・目的

キャリアセンターは、学生一人ひとりが自己の特徴や適性を見出し、確かな目的を持って自分にあった将来設計ができるように様々な支援を行う「進路・就職」の支援窓口です。山梨大学の理念「豊かな人間性と倫理性を備え、広い知識と深い専門性を有して、地域社会・国際社会に貢献できる人材を養成する教育・研究を行う」に基づき、自己理解を深めるためのキャリア教育を早期から実施するとともに、仕事理解のための「インターンシップ」参加のためのサポートや、就職活動や社会に出る前の心構えをサポートする様々なセミナー・講座を開講しています。また専任のキャリア・アドバイザーによるきめ細かいキャリア相談は、年間 1,800 件もの利用実績があります。

2. 業務内容

(1) キャリア相談

国家資格キャリアコンサルタントを有するキャリア・アドバイザーによる進路や就職に関する相談が受けられます。「自分が何に向いているのかわからない」といった漠然とした不安から、就職活動に関する具体的な相談（応募書類の添削や面接対策など）まで幅広い相談に対応しています。学内の専任アドバイザーのほか、学外（甲府新卒応援ハローワークおよびジョブカフェやまなし）の相談員も出張対応しています。

相談員		曜日	相談時間		面談方法	その他
本学専任 キャリア・アドバイザー	女性 および 男性	月～金	9時～17時	1回 40分	対面・ オンライン	原則予約制 ※空きがある場合は、予約無しでも対応
甲府新卒応援 ハローワーク 相談員	女性 および 男性	月	13時～16時 10分（予定）		対面のみ	
ジョブカフェやまなし 相談員	女性	金	13時～17時			
【予約方法】 キャリアセンターホームページからお申込みください。 ※予約状況によっては、予約無しでも対応可能な場合があります。 ※原則 1日1回のみ予約受付可						
【相談場所】 対面の場合は、甲府西キャンパスキャリアセンター内相談室 オンラインの場合は、Microsoft Teams を使用						

(2) インターンシップ

本学では、単位取得型インターンシップ（学部3年生以上が対象）を開講しています。キャリアセンターでは、専任のキャリア・ディレクターがインターンシップに関する相談に応じています。詳細は、4月に開催予定のインターンシップガイダンスにご参加ください。例年5月には、インターンシップ相談会も開催しています。なお、インターンシップ参加にあたっては、適用となる保険の加入が必要となりますので、ご不安な方は事前にご相談ください。

(3) 求人検索システム

様々な企業・団体などから、本学に送付・提出された求人票は、求人検索システムI BAC（アイバック）を通じて提供しています。詳細は、キャリアセンターホームページをご覧ください。

(4) 企業説明会・各種ガイダンスなど

キャリアセンターでは、様々なガイダンス、セミナー、講座を開講しています。開催2週間前をめぐりに、CNSを通じて案内するほか、キャリアセンターホームページに、スケジュールや内容についての詳細を掲載しています。

開催時期	主催・講師	具体的な内容（時期はR7年度実施）
前期	公務員予備校	公務員試験対策ガイダンス（4月、5月）
	非常勤講師	マナー講座 （インターンシップ参加者向け、5～8月に複数回）
夏休み期間	非常勤講師	就活対策講座（8月）
後期	非常勤講師	アントレプレナーシップ講座（10月）
	非常勤講師	メイク講座（10月）
	非常勤講師	面接マナー講座（11月、12月）
	キャリアセンター	全学合同企業研究会（11月）
	非常勤講師	就活対策講座（12月）
	キャリアセンター	官公庁（行政機関）等合同セミナー（1月）
未定	ナビ会社・ハローワーク	面接対策講座、エントリーシート作成講座、公務員集団討論体験講座など
	本学キャリア・アドバイザー	就活ワークショップ（面接対策、エントリーシート対策などの少人数向けセミナー）
令和8年度開講予定	非常勤講師	【予定】男子学生向けメイク講座（前期）

(5) キャリア教育

令和7年度よりキャリア形成科目として、「ライフデザイン」科目が1学年次生を対象に、全学必修科目として設置されました。キャリア形成の重要性を学ぶことで、学生生活を主体的に捉え、自らの活動領域を広げて能動的に行動できることを目的としています。

1. 趣旨・目的

学生サポートセンターでは、学生が安心して、充実したキャンパスライフを送れるように、一人一人の視点にたった丁寧なサポートを行っています。当センターには、『カウンセリング・サポート室』と『アクセシビリティ・コミュニケーション支援室』があります。前者は、学生の様々な困りごとや悩みごとについてカウンセリングを行い、心の健康の保持増進を図っています。後者では、障害のある学生に対して情報保障や授業の調整といった必要な配慮を行い、修学環境の充実を図っています。

2. センターの活動内容

カウンセリング・サポート室

- (1) 学生のカウンセリング及び支援に関すること。
- (2) 学生の心理適応を促進するための諸活動に関すること。等

アクセシビリティ・コミュニケーション支援室

- (1) 障害がある等の理由により修学上の悩みを抱える学生等の相談対応に関すること。
- (2) 学内外の関係部署との調整に関すること。等

3. センターの取組み

カウンセリング・サポート室

- (1) 個別のカウンセリングによる支援や発達促進・予防的教育の実施

目の前の学生一人ひとりの声に耳を傾け、カウンセリング活動を中心に、学生が抱えるさまざまな悩み（修学や進路、心理性格、対人関係、心身の健康、学生生活、その他）に寄り添いながら、人間的な成長をサポートしています。

- (2) 発達促進・予防的教育の実施

すべての学生が教育や人生の目標を達成するために必要な知識やスキルを身につけられるよう、授業や研修会、ヨガ教室、箱庭療法体験会、ピアサポート活動など、多岐にわたる取り組みを通じて、学生のメンタルヘルスの維持と向上を支援しています。

アクセシビリティ・コミュニケーション支援室

- (1) 合理的配慮の提供、教育的支援の実施

本人からの申請、面談、協議を経て支援を開始します。合理的配慮願の発行など、個人にとって必要な調整を行っています。また、利用学生への支援機器の貸し出しや学習室の提供などの教育的支援を行っています。

- (2) 学生サポーターの養成、派遣の実施

講義・講演などを通して各障害について理解を深め、現役サポーターが中心となり、学生サポーター養成講座を開設しています。学生サポーターは、パソコンテイクやアクセシビリティ・マップ作成などの活動を支援しています。

機器分析センター

1. 趣旨・目的

機器分析センターは、平成 7 年 4 月に設置された共同利用施設です。最先端の高度な分析・計測機器を設置、管理しています。これらの装置は、学内外の研究、教育のために提供されており、所定の手続きを経ることにより利用できます。

2. 設置機器

2025 年 12 月現在、設置されている機器は次のとおりです。

核磁気共鳴装置	ホール測定装置	DLTS 測定装置
強誘電体特性測定装置	LCRメータ	電子スピン共鳴装置 (2台)
ハンドヘルド蛍光X線分析装置	Heリークディテクター	電界増倍電子プローブマイクロアナライザー
電界放射型走査電子顕微鏡	クロスセクションポリリッシャ	真空蒸着装置 (3台)
X線光電子分光装置	分光エリブソメータ (2台)	触針式表面形状測定装置
蛍光X線分析装置	ICP 発光分析装置	顕微紫外可視近赤外分光光度計
フーリエ変換赤外分光光度計	多目的画像解析装置	PCR 装置
熱量示差熱分析装置	示差走査熱量分析装置	試料包埋機
電解研磨装置	機械研磨装置	ソフトプラズマエッチング装置
イオンエッチング装置	三次元座標測定機	三次元粗さ測定機
円柱形状測定機	ワンショット 3D 形状測定装置	多目的X線回折装置
小型万能試験機	歪測定器	電界放射型透過電子顕微鏡
集束イオンビーム加工装置	走査透過電子顕微鏡	プラズマクリーナ
液体クロマトグラフ質量分析装置	ガスクロマトグラフ質量分析装置	密着強度測定装置
光学顕微鏡 (複数台)	走査プローブ顕微鏡	ナノインデンタ
レーザーラマン分光光度計	粒子径・ゼータ電位・分子量測定装置	有機微量元素分析装置
オスミウムコータ	イオンパッタ装置	カラーレーザー顕微鏡
マニピュレータ	試料トリミング装置	ウルトラクライオミクロトーム
低角イオンミリング	試料研磨システム	ミクロトーム
ディンプルグラインダー	硬質材料用研磨装置	マイクロソー
蛍光寿命分光光度計		

上記設置機器のほかに、学内で使用される液体窒素の供給も行っています。

3. 利用方法

センターの機器を利用するには卒業論文や大学院の指導教員の承認が必要となります。使用を希望する機器について指導教員の承認を受けてセンターに利用者登録の申請を行います。必要な実習などを受けた後センターに利用者登録されるので、予約をとって使用します。操作方法やマナーを守り、研究に活用してください。

登録や利用についての詳細は、センター事務室に相談してください。

総合情報戦略機構

1. 総合情報戦略機構の業務

総合情報戦略機構は、情報システムの管理・運用や、情報セキュリティの順守の促進等の業務を行っており、甲府・医学部の両キャンパスに事務室を置いています。両キャンパスには、ギガビットネットワークをベースにした基幹ネットワークが敷設され、甲府キャンパスと医学部キャンパス間もギガビットネットワークで接続されています。また、両キャンパスとも無線LAN環境が構築されており、学内の多くのエリアをカバーしています。

皆さんが授業で利用する情報処理教室は6教室あり、空き時間には自習等でも利用することができます。その他、随時利用できる端末として、両キャンパスにオープン端末が整備されています。

端末利用のルールやマナーを守り、自学自習に活用してください。

2. 利用案内


(1) 端末の利用方法

端末を利用するには、アカウント（ログインID、パスワード）が必要です。

新入生には学生証と一緒に配付されるので、パスワード変更の指示があるまで大切に保管してください。



また、情報メディア館等の情報処理教室及びオープン端末室に入室するには、学生証が必要になります。アカウントは、卒業するまで使用します。

(2) 端末の種類・設置場所および利用時間について

マークのある教室・端末室への入室には、学生証が必要な時間帯（◎は常時必要）があります。必ず、学生証を携帯してください。

情報処理教室

(甲府キャンパス)

設置場所	台数	利用時間
情報メディア館 	2階 第1実習室	84台
	2階 第2実習室	31台
	2階 第3実習室	61台
	3階 第4実習室	71台
J号館3階 J321教室 ◎ 	51台	平日8:30~17:00 (土日・祝日利用不可)

(医学部キャンパス)


設置場所	台数	利用時間
看護学科棟2階 情報処理教室	76台	※授業のみ

オープン端末

(甲府キャンパス)

設置場所	台数	利用時間
総合研究棟 1階 24時間オープン端末室 ◎ 	40台	24時間利用可能 (構内閉鎖日を除く)
附属図書館 3階	YNS 端末室	附属図書館の利用時間に準ずる
	視聴覚室	

(医学部キャンパス)

設置場所	台数	利用時間
講義棟 2階 学生自習室 ◎ 	12台	24時間利用可能 (構内閉鎖日を除く)
講義棟 1階 ロビー	7台	
看護学科棟 1階 ロビー	8台	
看護学科棟 2階 ロビー	4台	
臨床講堂 1階 廊下	8台	
附属図書館医学分館 1階 ロビー	8台	附属図書館医学分館の利用時間に準ずる
附属図書館医学分館 2階 視聴覚室	5台	

3. 各種サービス

利用者の皆様へのサービスとして、CNS、電子シラバス、Web-mail、Web 履修申告等の学生 Web システム、商用教材を含む各種の e-Learning システム、附属図書館の蔵書検索システム、無線 LAN 接続、学外からの VPN 接続など多数提供しています。

4. 組織

甲府キャンパス

(情報メディア館 1階)

情報システム課 総務グループ
管理運用グループ
システム企画室

TEL 055-220-8085

FAX 055-220-8792

医学部キャンパス

(管理棟 3階)

情報システム課 総務グループ
管理運用グループ

TEL 055-273-9634

FAX 055-273-9436

詳細は、総合情報戦略各機構のホームページ (<https://sojo.yamanashi.ac.jp>) を参照してください。

クリーンエネルギー研究センター

<https://www.clean.yamanashi.ac.jp>

1. 趣旨・目的

本研究センターは、国内外で唯一燃料電池研究を目的に昭和 53 年に設置された「燃料電池実験施設」を発展させたものです。燃料電池や太陽電池などのクリーンエネルギーに関する研究を推進し、省エネルギー、地球環境問題の解決に貢献することを目的に、本センターは大学直属の施設として、平成 13 年 4 月に新設されました。現在、研究 3 部門（燃料電池、太陽エネルギー変換、エネルギー計測；教授 7 名、准教授 3 名、助教 2 名）から構成されています。尚、本センターは大学直属の施設である特色を活かして、工学部の学部生、工学専攻大学院生の教育・研究指導に直接携わり、研究活動と活力・能力溢れる当該分野の人材育成とを両立させています。その強化の一環として、5 年間一貫の文部科学省博士教育リーディングプログラム「グリーンエネルギー変換工学特別教育プログラム」（平成 23～29 年度）に引き続き、平成 30 年 10 月に卓越大学院プログラム「パワー・エネルギー・プロフェッショナル育成プログラム」に採択され、早稲田大学など 12 大学と連携して、新しい大学院教育を開始しています。なお、本研究センターは兄弟センターである「水素・燃料電池ナノ材料研究センター」、令和 7 年 6 月新設の「ゼロエミッションみらい研究センター」とも密接に協力しながら、クリーンエネルギーの世界的拠点として教育研究活動を推進しています。

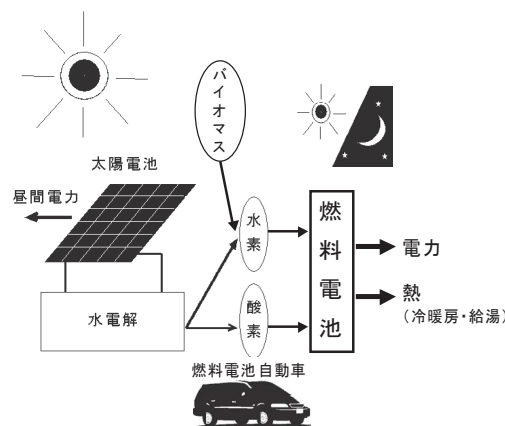
2. センターの役割

- ① 工学部および大学院工学専攻の教育を分担し、クリーンエネルギー分野の技術者・研究者を養成します。
- ② クリーンエネルギーに関する先端的基礎研究の実施、および情報交換・発信を行います。
- ③ 大学、国立研究所等の研究者の受け入れ、あるいは共同研究や共同利用の実施を通して、我が国の基礎研究レベルの全体的向上と、他大学、研究所における人材育成者のすそ野を可及的に広げます。
- ④ 企業派遣研究者の育成と、共同研究による技術開発の支援を行います。
- ⑤ 諸外国、わけてもアジア諸国との将来の協力を見据え、留学生や共同研究者を受入れます。

3. 研究内容

① 燃料電池研究部門

燃料電池自動車、家庭用に応用可能な固体高分子形燃料電池及び構成材料の開発、またそれらの解析に関する研究を行っています。燃料電池を逆作動させた水電解による高効率水素製造の研究も進めています。文部科学省や新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）などの受託研究および関連企業との共同研究を獲得して研究を実施しています。



② 太陽エネルギー変換研究部門

カーボンニュートラル実現に貢献すべく、自然界の光合成を模倣し、太陽エネルギーを利用して水の分解や二酸化炭素の還元によって水素や一酸化炭素、メタンなどの有用化学物質を光触媒によって合成する人工光合成の研究を行っています。同様に光触媒を利用して、水素キャリア、二酸化炭素を排出しない燃料として注目されているアンモニアを窒素還元によって合成する研究も始めています。また、身の回りの未利用熱を電気に変換する熱電変換反応に太陽エネルギーを付与してその効率を高める光熱電効果を利用した環境ハーベスティング技術の研究も行っています。これらの研究は、科学研究費補助金、その他に財団や他大学、企業の研究費を獲得して研究を推進しています。

③ エネルギー計測研究部門

化石燃料に代わるクリーンエネルギーの開発と利用は今世紀の大きな課題ですが、そのために必要となる材料の解析や機能発現中のデバイス内部の様子を観測することで、より高性能な材料の開発や高い機能と耐久性を持つ新規デバイスの開発に活用しています。また質量分析における効率的なイオン化法や新しいイオンビームの創成などイオンに焦点をあてた研究を行って、医療や社会生活で有効に利用するための技術開発を進めています。これらの研究を文部科学省科学研究費や各種財団の研究助成を受けて進めるとともに、企業との共同研究も積極的に行っています。

4. 研究室の見学等

学生諸君にとって、本センターの研究内容、世界トップレベルの研究設備を備えた研究室見学は、大変興味深いものと思われます。また、研究内容を分かり易く紹介したセンターホームページ (<https://www.clean.yamanashi.ac.jp>) も是非ご覧下さい。さらに、興味のある人は、そこに紹介されている各教員にメールでコンタクトして下さい。温かく対応します。

総合分析実験センター

1. 目的・組織

総合分析実験センターは、今後社会が直面する地球環境、老齢化及び高度情報化に関する問題の解決に不可欠な研究試料の作出と解析について、学際的、総合的に教育、研究できる環境を大学共同利用機関として提供し、それらを融合した新しい科学の創出に寄与することを目的としています。

この目的を達成するための組織として、センター長の下に、機能解析分野、資源開発分野、放射線分野があります。

2. 利用について

センターは、医学部キャンパスにあり、山梨大学における医工農学総合大学院や各学部講座・教室の医学・生命科学領域における教育・実験研究のために、24時間常に利用可能な状態に維持管理されています。

学部学生の皆さんで特に希望する場合には、講座・教員の指導の下に利用が可能です。利用を希望する場合には、関係講座教員を通して、または直接、下記分野のセンター教員宛に申し込んでください。

① 機能解析分野

生体機能解析のための実験室が、基礎研究棟 1 階をはじめ、医学部キャンパス各所にあります。現在、電子顕微鏡、組織培養、分析機器、細胞工学、遺伝子工学、画像解析、核酸実験、試料調整、工作室の各実験室があります。遺伝子工学室には、DNA組換え実験施設 (P2・P3)が含まれます。

また、遺伝子解析や顕微鏡標本作製などの研究支援業務も行なっています。

② 資源開発分野

遺伝子組換え動物を含め、ヒトの疾患に対応した多様な実験動物が 3000 m²、3階建の施設内に飼育され、先端的な動物実験が科学のおよび倫理的に進められています。

③ 放射線分野

医学、生物学の研究のためのラジオアイソトープ (RI) を有効かつ安全に使用するための研究実験施設です。施設の中では 30 核種のアイソトープが使用でき、遺伝子レベルから動物を使用した実験まで行われています。

水素・燃料電池ナノ材料研究センター

1. 趣旨・目的

地球温暖化対応のため、脱炭素が世界的な取り組みテーマとなっており、わが国でも2050年にカーボンニュートラル（CN）を実現することが宣言されました。このCNの実現には、再生可能エネルギーの変動分や余剰分から作るグリーン水素を最大限活用することが必要です。そのために最も注目を集めているキー技術の一つがグリーン水素を作る水電解装置と、グリーン水素で発電する燃料電池です。グリーン水素により、産業界においてボイラーなどの熱源に用いて脱炭素を実現し、燃料電池に用いて発電することでクルマなどの移動体の脱炭素が実現できます。水電解装置や燃料電池の本格的普及には、コストの低減や耐久性及び信頼性の向上という多様な要素を満たす革新的なブレークスルー材料の創生が各方面から期待されています。そのためには、サイエンスに立ち戻った研究開発を行うことが大変重要になっています。

水素・燃料電池ナノ材料研究センターは、水電解や燃料電池にかかわる反応や劣化メカニズムに関する知見とナノテクノロジーの先端技術の融合により、水電解装置や燃料電池を構成する触媒・電解質膜・膜電極接合体等の材料研究を行う、世界トップレベルの研究拠点です。高性能・高耐久・低コストを同時に実現できる基礎技術を確立することで、燃料電池の本格普及に寄与することを目的として2008年4月に設立されました。以来、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）より、多くのプロジェクトを受託し、高度な研究と産業界への貢献を両立してきました。それら研究成果による電極触媒や電解質の分野の特許と論文数は、国内大学トップを誇ります。また、市販されている家庭用燃料電池（エネファーム）や燃料電池自動車（FCV）にも研究成果が活かされており、自動車会社を始め関連する産業界へもこの分野の専門家として卒業生が多く就職するなど、大きな貢献をしてきました。

さらには、水から安く水素を作る水電解装置を広く世界に普及するための、触媒の貴金属の使用量低減や、将来の主力と期待される、低コストの新しいタイプの水電解装置を実現するアニオン交換型電解質材料やそれに用いる非貴金属触媒の研究開発にも取り組んでいます。

なお、本学クリーンエネルギー研究センターとは強い連携のもとで運営しています。2024年度からクリーンエネルギー化学コースが開設され、最新のカリキュラムでカーボンニュートラル実現のために必要となる様々な勉強をしますが、学部4年時には、本学大学院生と同じく、国内外の研究者、多くの社会人ドクターと共に、世界トップレベルの先端設備環境で水素・燃料電池研究を開始します。また、水素・燃料電池の研究開発を加速し早期の普及拡大につなげることを目的として、約3年ごとに主催している「国際燃料電池ワークショップ（International Fuel Cell Workshop：IFCW）」は、めったに会えない国内外の第一線の研究者・技術者を招聘し、最新の研究成果の発表・議論をすべて英語で行っています。学部学生のポスター展示参加や、参加者との意見交換などが、貴重な勉強の場となっています。さらに、これまでの「卓越大学院プロ

グラム」で実施してきた国内外へのインターンシップなどの充実した教育の機会の提供も継続します。このように、産学官連携強化や、水素社会実現に向けたクリーンエネルギー分野を牽引する研究者・技術者の理想的な育成の場となっています。

水素・燃料電池ナノ材料研究センター HP

<https://fc-nano.yamanashi.ac.jp/>



クリーンエネルギー研究センター HP

<http://www.clean.yamanashi.ac.jp/>



2. センターの役割

- ① 水素・燃料電池に関するサイエンスに立ち戻った研究、
多くの企業（材料、部品、自動車などのシステム）との連携による成果の技術展開
- ② 水素・燃料電池の本格的な普及を担うことのできる人材の育成
- ③ 国内外との幅広い交流による水素・燃料電池を中心とした情報の交換・発信

3. 研究内容

NEDO 委託事業である以下のプロジェクトで、最先端の水電解装置・燃料電池を構成する材料の創出に関する研究開発を実施しています。

“PEFC 用セラミックス系カソード触媒（層）プロジェクト”

2035 年以降の大型・商用モビリティ向けの更なる燃料電池システムの低コスト、高性能、高耐久を実現するための、セラミックス系カソードの担体、触媒触媒層の研究をしています。

“自動実験を用いた燃料電池用次世代触媒・触媒層の研究開発プロジェクト”

最先端材料合成・処理機器及び計測機器を統合して、材料合成から評価解析までを自動化します。他の機関と連携して燃料電池の性能予測までを一気通貫に評価するシステムを構築し、国内唯一の触媒の自動実験拠点として、オープンデータの取得に対応した運営をします。

“次世代燃料電池のポーラスリブ GDL / MPL に関する要素技術の研究開発プロジェクト”

フラットなセパレータに、流路を形成した多孔質のガス拡散層（GDL）を一体化した、全く新しいコンセプトの GDL 一体セパレータの研究をしています。

“次世代燃料電池の革新的な生産技術に資する静電スプレー法に関する要素技術の研究開発プロジェクト”

従来の塗布後の乾燥工程が不要な、新しいインク塗工生産プロセスの研究をしています。

“高性能・高耐久・低コストを実現するプロトン交換膜型水電解装置用革新的低貴金属担持アノード触媒・MEAの研究開発プロジェクト”

高性能に水から水素を作る PEM 水電解で、世界的にも大きな課題となっている貴金属触媒の少量化を実現する高性能触媒とその合成方法の研究をしています。

“広温湿域にて作動可能な高プロトン伝導性電解質膜の研究開発プロジェクト”

将来の燃料電池に想定される高温低加湿運転領域においても、高いプロトン伝導性を有する電解質膜を研究しています。

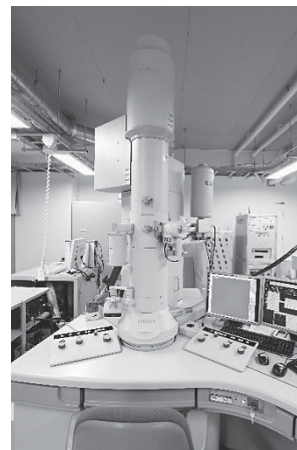
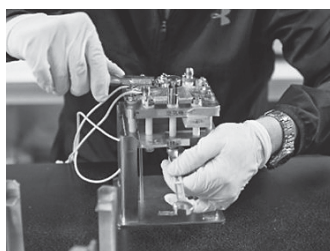
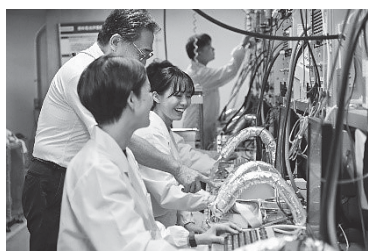
“アニオン膜型水電解セルの高性能化・高耐久化とスタック技術の開発プロジェクト”

将来の大規模な社会実装が期待されるアニオン膜型水電解セルの根幹をなす、PFAS 対応アニオン膜・イオノマー、非貴金属電極触媒の研究・開発、および水電解セルの高性能、高耐久化に取り組んでいます。

今後も、将来の脱炭素の実現手段として社会から求められるより高性能、高耐久、低コストな水電解装置・燃料電池の実現を目指していきます。

4. 研究室の見学など

本センターの研究内容や実験施設などの詳細は、ホームページをご覧ください。また、強い連携のもとで運営しているクリーンエネルギー研究センターのホームページでも水素・燃料電池関係の研究について紹介しています。研究設備の見学などをご希望の方は、各教官宛にご連絡をお願いいたします。



発生工学研究センター

<https://abc.yamanashi.ac.jp/LSHP/index.html> (センターHP)

<http://www.ccn.yamanashi.ac.jp/~twakayama/LSHP/Wakayama%20lab/index.html>

(若山研究室HP)

1. 趣旨・目的

本センターは発生工学という分野に特化し、サイエンスフィクション (SF) のようなテーマを本気でやっている世界でも珍しい研究施設です。たとえばクローンという技術を用いた研究では、絶滅動物の復活や絶滅危惧種の救済を目指しています。凍結乾燥した精子から子供を作る研究では、非常食やインスタントコーヒーのように水を加えるだけで使用できるインスタント精子の開発を行っています。これが開発できれば、災害時でも安全に長期間、地球の貴重な遺伝子資源を保存出来るようになります。一方、将来人類が宇宙で繁栄する時代が来たときのために、国際宇宙ステーションを実際に利用した研究も行っています。宇宙空間は無重力で強い宇宙放射線が降り注ぐ過酷な環境です。果たして哺乳類はこのような環境で正常な子孫を残せるのでしょうか。

本センターはこれらの研究を行うために、フル装備のマイクロマニピュレーター (卵子や精子、体細胞の核を顕微鏡下で操作する道具) を 17 セット配備しています。1セット約1千万円もする装置で、これだけの数を有する施設は世界でもここだけです。またマイクロマニピュレーターの操作は非常に繊細で難しいのですが、本センターにはこれを自由自在に操れるトップレベルの研究者がそろっています。つまり本センターが行っている研究は、本センターしか挑戦することが出来ないほど設備的、技術的に難しいテーマなのです。

本センターは生命環境学部の生命工学科および高度生殖補助技術センターの先生たちと連携し、学部学生および大学院生の研究指導に直接携わり、世界で活躍できる研究者の育成にも力を入れています。また、これらの研究で学生の皆さんは高度な技術を習得でき、ヒトの不妊治療クリニックにおいて胚培養士として活躍してもらうことも目指しています。国際共同研究も積極的に行い、海外から研究者を受け入れて一緒に技術指導を行うことで、学生の皆さんは国際感覚も身につけることができます。

2. センターの役割

- ① 発生工学技術を駆使して世界初、あるいは夢のある研究を行い、研究の楽しさを世界に発信する。
- ② 研究指導およびマイクロマニピュレーターの技術指導を行い、世界で活躍する研究者を育成する。
- ③ 不妊治療クリニックにおいて即戦力として活躍できる人材を育成する。
- ④ 国内外の研究機関と共同研究を行い、当センターの技術を必要とする研究をサポートする。
- ⑤ 留学生や共同研究者を受入れ、技術指導を行う。

3. 研究内容

① クローン技術について

- 成功率の改善：家畜などへの応用を目指し、成功率の改善を試みている。
- 絶滅動物の復活：凍結死体のダメージを受けた核の修復技術の開発を試みている。
- 絶滅危惧種の救済：糞や尿に含まれている細胞からのクローン作出を試みている。

② 卵子や精子の室温保存技術について

- 精子の凍結乾燥保存：精子をフリーズドライにして長期間の室温保存を可能にする。
- 精子の極限環境耐性：精子の耐熱性や耐放射線、真空耐性などを明らかにする。
- 卵子および受精卵の凍結乾燥保存：世界初の成功を目指している。
- 体細胞の凍結乾燥保存：クローン技術と組み合わせ産仔の作出を目指す。

③ 国際宇宙ステーションを利用した哺乳類の生殖研究について

- Space Pup プロジェクト：宇宙で長期保存した精子 DNA の正常性について。
- Space Embryo プロジェクト：無重力で胚が正常に発生するか調べる。
- フラグシップミッションに採択され、Reproduction in Space を実施中。

④ 国内外との共同研究

国内外の大学、研究所と共同研究を行い、技術サポートや技術指導を行っている。

4. 研究室の見学等

本センターの売りであるマイクロマニピュレーターは、実際に見て体験してみないとその面白さ、難しさ、そして凄さを理解できません。ぜひ体験してもらいたと思います。ただしマイクロマニピュレーターの準備や指導は大変なので、本当に興味のある人だけにしか案内しません。すごく体験してみたい、という人は、自分で教員のメールアドレスを調べてメールでコンタクトしてください。我々も、そうまでして連絡してきてくれた学生さんに対しては、喜んで詳しく案内し、指導いたします。

地域未来人材育成センター

1. 趣旨・目的

地域未来人材育成センターは、地域や大学間の連携を推進し、地域志向型教育や各種のリカレント教育事業を網羅した「地域創生推進事業」を積極的に展開することで、地域創生・活性化を担う人材養成の中核を担います。「大学等連携推進法人」や「地域連携プラットフォーム」の取組みなどの「地域連携事業」を企画・実施しています。

本センターは、「地域人材養成センター」を発展的に改組して令和8年（2026年）4月に設立されました。

2. センターの取組み

連携開設科目 ⇨ 幅広い分野を学ぶ

当センターが運営に携わっている大学アライアンスやまなしでは、山梨県立大学と様々な分野において連携事業を展開しており、教育分野では、教養教育分野を中心に「連携開設科目」を開講しています。連携開設科目は山梨県立大学の科目でも山梨大学の科目とみなすことが可能となり、連携開設科目で修得した単位を学士課程では30単位を上限に卒業単位に含めることができるため、山梨県立大学の特色ある科目、幅広い分野の科目を履修することができます。



キックオフの様子

全学共通教育科目「フューチャーサーチ」⇨ 共に創る、生み出す

企業・団体、自治体からプロジェクトを募集し、県内の大学生が協働して取り組む実践的科目「フューチャーサーチ」の運営の支援を行っています。学生は、イベントの企画・運営、新商品の開発、まちづくりなど様々なプロジェクトの中からマッチングしたプロジェクトに参加し、他大学・他学部の学生と連携しながら課題解決や社会貢献に取り組んでいます。在学中から社会や地域とのつながりを築き、実践的スキルを身につけることでキャリア形成にも役立っています。

県内企業と学生の交流イベント ⇨ 業界を知る、働き方を考える

学生と企業の交流イベント「BeReal Meeting」を開催しています。このイベントの特徴は「小規模でフランク」なことです。大規模な合同企業説明会よりもフランクに、実際の業務内容だけでなく、働くことや自分自身の将来について気軽にお話を聞くことができます。実際にこのイベントで出会った企業に内定が決まった学生もあり、一味違った交流体験ができます。



BeReal Meeting



フューチャーEVO

世代を超えた合同発表会 ⇨ 地域を知る、自分を知る

山梨で活動する小中学生・高校生・大学生・社会人・起業家の発表会「フューチャーEVO」を開催しています。学生と企業・団体が協働する授業科目「フューチャーサーチ」の成果、高校生の探究活動、地域で活動する小中学生や社会人・起業家の発表があり、世代を超えた交流で新しいアイデアや共創が生まれています。

男女共同参画推進室

1. 趣旨・目的

男女共同参画推進室は、本学が展開する男女共同参画の活動を中心となって進めています。男女問わず、優れた人材を育成し社会に送り出し続けるため、本学に集うすべての人が、その個性と能力を十分に発揮できる大学を創ることを目的としています。

2. 推進室の役割

本学に在籍するすべての人にとって、修学や就業と充実した生活の両立ができる環境を整備し、個人の個性や能力を十分に発揮できる機会の確保や、講演会やセミナー等を通じた意識啓発を行います。また、将来を担う研究者の育成に積極的に貢献するとともに、志願者の裾野を広げる活動に取り組んでいます。

3. 取組内容

- 産後の特別休暇および育児休暇から職場復帰した研究者に対する、研究助成金の支援。
- ライフイベント中の研究者に対する、学生サポーター（キャリアアシスタント）による研究補助の実施。
- 男女共同参画やワーク・ライフ・バランス等に関する講演会やセミナーを通じた意識啓発や学生・教職員のスキルアップ。
- 研究者・学生同士の情報交換や交流、ライフイベントに関する情報の収集と交換の場として利用可能な、交流室の設置。
- 体調がすぐれない等の理由で一時的に休養が必要な方のために、交流室の一角に女性専用の休憩スペースを設置。
- 男女共同参画に関する調査の実施。
- 男女共同参画の更なる展開のための、他大学、行政機関、企業等との連携。
- 優れた研究成果を挙げた女性研究者の表彰。
- 大学院博士課程に在籍する優秀な女子学生に対し、研究専念支援金及び研究費を支給するC○の花フェローシップの実施。
- 経済的な理由で生理用品が購入できず困窮する学生に対し、生理用品を配布するC○の花支援の実施。
- 女子中高生を対象にした、理工系分野への興味・関心を高め、理系進路選択を応援するイベントの実施。

【男女共同参画推進室ホームページ】 <https://danjo.yamanashi.ac.jp/>



LIFE GUIDANCE

2026



教員名簿

- ◎教育学部
- ◎医学部
- ◎工学部
- ◎生命環境学部
- ◎学内共同教育研究施設等

教員名簿 目次

教員名簿

教育学部・教育学研究科（教職大学院）	117
医学部	120
工学部	123
生命環境学部	127
学内共同教育研究施設	129
保健管理センター／学生サポートセンター	131
カウンセリング・サポート室／アクセシビリティ・コミュニケーション支援室 男女共同参画推進室	

教員名簿

教育学部

所 属	系	職 名	氏 名	内線番号	大学院教育学研究科 所属専攻（兼担）
学部長（研究科長）		教 授	長谷川 千 秋	8173	
幼児教育コース		教 授	秋 山 麻 実	8268	教育実践創成専攻
		准教授	岩 井 哲 雄	8249	教育実践創成専攻
		准教授	塚 越 奈 美	8267	教育実践創成専攻
障害児教育コース		教 授	古 屋 義 博	8236	教育実践創成専攻
		教 授	吉 井 勘 人	8232	教育実践創成専攻
		准教授	川 池 順 也	8239	教育実践創成専攻
		准教授	永 田 真 吾	8233	教育実践創成専攻
		准教授	内 藤 千 尋	8237	教育実践創成専攻
		准教授	松 下 浩 之	8238	教育実践創成専攻
言語教育コース	国語教育	教 授	齋 藤 知 也	8179	教育実践創成専攻
		准教授	清 水 文 博	8273	教育実践創成専攻
	英語教育	教 授	磯 部 美 和	8119	教育実践創成専攻
		教 授	田 中 武 夫	8128	教育実践創成専攻
		准教授	奥 村 直 史	8155	教育実践創成専攻
		准教授	久 保 佑 輔	8117	教育実践創成専攻
生活社会教育コース	社会科教育	教 授	大 隅 清 陽	8148	教育実践創成専攻
		教 授	服 部 一 秀	8274	教育実践創成専攻
		准教授	相 澤 康 隆	8154	教育実践創成専攻
		准教授	渡 邊 瑛 季	8158	教育実践創成専攻

所 属	系	職 名	氏 名	内線番号	大学院教育学研究科 所属専攻（兼任）
生活社会教育コース	家政教育	教 授	神 山 久 美	8184	教育実践創成専攻
		教 授	志 村 結 美	8323	教育実践創成専攻
		准教授	今 井 千 裕	8221	教育実践創成専攻
		准教授	岡 松 恵	8224	教育実践創成専攻
科学教育コース	数学教育	教 授	小 池 健 二	8138	教育実践創成専攻
		教 授	清 水 宏 幸	8164	教育実践創成専攻
		准教授	吉 田 夏 海	8121	教育実践創成専攻
		講 師	西 森 康 人	8136	教育実践創成専攻
	理科教育	教 授	芹 澤 如 比 古	8212	教育実践創成専攻
		教 授	佃 俊 明	8235	教育実践創成専攻
		教 授	福 地 龍 郎	8219	教育実践創成専攻
		教 授	山 下 和 之	8160	教育実践創成専攻
		教 授	長 島 礼 人	8180	教育実践創成専攻
		准教授	佐々木 智 謙	8262	教育実践創成専攻
	技術教育	教 授	林 丈 晴	8161	教育実践創成専攻
		准教授	山 際 基	8223	教育実践創成専攻
	芸術身体教育コース	音楽教育	教 授	小 島 千 か	8336
准教授			池 山 洋 子	8252	教育実践創成専攻
准教授			河 野 久 寿	8334	教育実践創成専攻
美術教育		教 授	井 坂 健 一 郎	8256	教育実践創成専攻
		准教授	武 末 裕 子	8255	教育実践創成専攻
保健体育		教 授	木 島 章 文	8198	教育実践創成専攻
		教 授	関 口 浩 文	8208	教育実践創成専攻
		教 授	安 藤 大 輔	8202	教育実践創成専攻
		准教授	加 藤 朋 之	8203	教育実践創成専攻
		准教授	堀 口 文	8206	教育実践創成専攻
山梨県小学校教員養成 特別教育プログラム	教 授	大 野 步	8266	教育実践創成専攻	
	教 授	尾 見 康 博	8242	教育実践創成専攻	
	教 授	若 本 純 子	8244	教育実践創成専攻	
	准教授	小 野 田 亮 介	8243	教育実践創成専攻	
	准教授	田 中 健 史 朗	8241	教育実践創成専攻	
	特任教授	小 林 智	8166	教育実践創成専攻	
	特任教授	望 月 陵	8227	教育実践創成専攻	

所 属	系	職 名	氏 名	内線番号	大学院教育学研究科 所属専攻（兼任）
教育実践総合センター		准教授	稲垣俊介	8335	教育実践創成専攻
		准教授	三井一希	8099	教育実践創成専攻
		准教授	渡部雪子	8315	教育実践創成専攻
	教員育成推進部門・附属学校共同研究部門	特任教授	中込司	8163	
	教職支援室	特任教授	望月主税	8788	

教育学研究科

所 属	職 名	氏 名	内線番号	教育学部 所属コース(系)等
研究科長	教授	長谷川千秋	8173	
教育実践創成専攻 (教職大学院)	教授	大内邦靖	8253	芸術身体教育コース(音楽教育)
	教授	梶原郁郎	8246	
	教授	茅野政徳	8176	
	教授	東海林麗香	8229	
	教授	高橋英児	8245	幼児教育コース
	教授	田中勝	8226	生活社会教育コース(家政教育)
	教授	中村拓司	8135	科学教育コース(数学教育)
	教授	萩原佳子	8112	
	教授	新野貴則	8333	芸術身体教育コース(美術教育)
	教授	早川健	8118	
	教授	平野千枝子	8327	芸術身体教育コース(美術教育)
	教授	望月公		
	教授	森長久豊	8196	科学教育コース(理科教育)
	教授	渡邊昭二郎	8126	
	准教授	宇多賢治郎	8169	生活社会教育コース(社会科教育)
	准教授	笠井さゆり	8123	
	准教授	加藤千晶	8377	言語教育コース(英語教育)
	准教授	金澤翔一	8199	芸術身体教育コース(保健体育)
	准教授	後藤賢次郎	8259	生活社会教育コース(社会科教育)
	准教授	小宮山公仁	8317	
准教授	杉山雅俊	8231	科学教育コース(理科教育)	
准教授	鈴木健一	8247	芸術身体教育コース(保健体育)	
准教授	渡邊志織	8248	幼児教育コース	
准教授	蕨知英	8127	言語教育コース(英語教育)	

医 学 部

所 属	職 名	氏 名	内線番号
学部長	教 授	小 泉 修 一	2260
病院長	理 事	木 内 博 之	2353
医学科長	教 授	桐 戸 敬 太	2415
看護学科長	教 授	小 林 康 江	2737

医学部（附属病院）

所 属	職 名	氏 名	内線番号
解剖学講座 構造生物学教室	教 授	小 田 賢 幸	2230
	講 師	久 保 智 広	2230
解剖学講座 細胞システム生物学教室	教 授	篠 原 良 章	2237
	講 師	高 垣 堅 太 郎	2237
生理学講座 統合生理学教室	教 授	宇 賀 貴 紀	2242
生理学講座 神経生理学教室	教 授	喜 多 村 和 郎	2247
	准教授	眞 仁 田 聡	2247
生化学講座第1教室	教 授	大 塚 稔 久	2251
	准教授	森 靖 典	2251
生化学講座第2教室			2257
薬理学講座	教 授	小 泉 修 一	2260
脳神経システム科学講座	教 授	梅 田 達 也	2267
微生物学講座	教 授	森 石 恆 司	2277
	准教授	田 中 智 久	2277
免疫学講座	教 授	中 尾 篤 人	2282
	准教授	中 村 勇 規	2282
法医学講座	教 授	安 達 登	2292
	准教授	猩 々 英 紀	2292
社会医学講座	准教授	大 岡 忠 生	2300
疫学講座	教 授	横 道 洋 司	2287
	准教授	三 宅 邦 夫	2287
先端応用医学講座	准教授	姚 建	2439
	講 師	岩 野 智 彦	3178
内科学講座 消化器内科学教室 （消化器内科）	教 授	土 屋 淳 紀	2308
	准教授	高 野 伸 一	2308
	講 師	小 林 祥 司	2308
	講 師	吉 田 貴 史	2308
	特任講師	佐 藤 光 明	2308
	特任講師	鈴 木 雄 一 朗	2308
内科学講座 循環器内科学教室 （循環器内科）	教 授	佐 藤 明	2310
	准教授	中 村 貴 光	2310
	講 師	黒 木 健 志	2310
内科学講座 呼吸器内科学教室 （呼吸器内科）	教 授	副 島 研 造	2311
内科学講座 糖尿病・内分泌内科学教室 （糖尿病・内分泌科）	教 授	土 屋 恭 一 郎	2667
内科学講座 腎臓内科学教室 （腎臓内科）	教 授	中 島 步	2661
	講 師	高 橋 和 也	2661
内科学講座 リウマチ膠原病内科学教室 （リウマチ膠原病内科）	准教授	中 込 大 樹	2665
内科学講座 神経内科学教室 （神経内科）	教 授	上 野 祐 司	3421
	准教授	新 藤 和 雅	3421
血液・腫瘍内科学講座（血液・腫瘍内科）	教 授	桐 戸 敬 太	2415
	准教授	川 島 一 郎	2415
小児科学講座 （小児科）	教 授	犬 飼 岳 史	2322
	講 師	加 賀 佳 美	2322
	講 師	合 井 久 美 子	2322

所 属	職 名	氏 名	内線番号
精神神経医学講座 (精神科)	教授	鈴木 健文	2328
	准教授	岩田 祐輔	2328
	講師	平田 卓志	2328
	講師	安田 和幸	2328
皮膚科学講座 (皮膚科)	教授	川村 龍吉	2332
	講師	三井 広	2332
	講師	小川 陽一	2332
	講師	岡本 崇	2332
形成外科学講座 (形成外科)	准教授	大河内 裕美	2607
外科学講座第1教室 (消化器外科, 乳腺・内分泌外科)	教授	市川 大輔	2337
	講師	雨宮 秀武	2337
	准教授	河口 賀彦	2337
外科学講座第2教室 (心臓血管外科, 呼吸器外科, 小児外科)	教授	中島 博之	2343
	准教授	松原 寛知	2343
	講師	榊原 賢士	2343
	講師	内田 巖	2343
整形外科科学講座 (整形外科)	教授	波呂 浩孝	2348
	准教授	大場 哲郎	2348
脳神経外科学講座 (脳神経外科)	教授	吉岡 秀幸	2353
	講師	埴原 光人	2353
	講師	舘岡 達	2353
麻酔科学講座 (麻酔科)	教授	小川 覚	2359
	准教授	小口 健史	2359
	講師	飯嶋 哲也	2359
	講師	古藤田 眞和	2359
産婦人科学講座 (産婦人科) (生殖医療学・周産期医療学講座)	教授	吉野 修	2362
	准教授	福田 友彦	2362
	講師	多賀谷 光	2362
	特任准教授	奥田 靖彦	2362
泌尿器科学講座 (泌尿器科)	教授	三井 貴彦	2367
	准教授	澤田 智史	2367
	講師	吉良 聡	2367
	講師	望月 孝規	2367
眼科学講座 (眼科)	教授	柏木 賢治	2372
	准教授	櫻田 庸一	2372
	講師	菊島 渉	2372
	講師	米山 征吾	2372
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 (頭頸部・耳鼻咽喉科)	教授	櫻井 大樹	2377
	准教授	松岡 伴和	2377
	講師	石井 裕貴	2377
放射線治療学講座 (放射線治療科)	教授	大西 洋	2382
	准教授	小宮山 貴史	2382
放射線診断学講座 (放射線診断科)	教授	市川 新太郎	2382
	准教授	森阪 裕之	2382
歯科口腔外科学講座 (歯科口腔外科)	教授	上木 耕一郎	2387
	准教授	吉澤 邦夫	2387
	講師	諸井 明德	2387
救急集中治療医学講座	教授	森口 武史	5014
臨床検査医学講座	教授	井上 克枝	2578
	准教授	佐々木 知幸	2578
	講師	築地 長治	2578
人体病理学講座 (病理診断科)	教授	近藤 哲夫	2272
	准教授	大石 直輝	2272
地域医療学・総合診療学講座	教授	針井 則一	2224
	特任講師	中村 和人	2224
医学教育学講座	特任教授	川端 健一	2217
	特任教授	鈴木 章司	2217
臨床研究支援講座	教授	望月 修一	2399
臨床遺伝学講座(遺伝子疾患診療科)	特任教授	石黒 浩毅	2465
医療安全学講座(医療の質・安全管理部)	教授	荒神 裕之	3525

所 属	職 名	氏 名	内線番号
看護学講座（人間科学）	特任教授	田 辺 文 憲	2718
看護学講座（基礎看護学領域）	教 授	山 田 章 子	2705
	講 師	倉 本 直 樹	2702
看護学講座（成人看護学領域）	准教授	川 端 愛	2708
看護学講座（高齢者看護学領域）	教 授	谷 口 珠 実	2701
	准教授	牧 野 公美子	2717
看護学講座（在宅看護学領域）	准教授	池 上 千賀子	2718
看護学講座（公衆衛生看護学領域）	教 授	神 崎 由 紀	2707
	准教授	霜 越 多麻美	2711
看護学講座（精神看護学領域）	教 授	坂 井 郁 恵	2710
看護学講座（保健学領域）	教 授	宮 村 季 浩	2728
看護学講座（母性看護・助産学領域）	教 授	小 林 康 江	2737
	講 師	眞 嶋 ゆ か	2703
	講 師	佐 々 木 美 果	2703
看護学講座（小児看護学領域）	講 師	安 藤 晴 美	2736
総合医科学センター	教 授	中 本 和 典	2765
	教 授	齋 藤 正 夫	2210
	教 授	川 原 敦 雄	2214
	准教授	西 郷 達 彦	2207
	准教授	池 添 貢 司	2206
	講 師	吉 村 健太郎	2218
	講 師	秋 葉 峻 介	2200

医学部附属病院

所 属	職 名	氏 名	内線番号
リハビリテーション科	講 師	谷 口 直 史	3160
手術部	講 師	池 本 剛 大	5070
放射線診断部	准教授	荒 木 拓 次	3130
輸血細胞治療部	講 師	高 野 勝 弘	3173
救急部	特任講師	辰 野 力 人	5014
集中治療部	講 師	後 藤 順 子	5014
新生児集中治療部	講 師	小 鹿 学	2322
	講 師	赤 羽 弘 資	2322
病理部	准教授	望 月 邦 夫	5102
臨床研究連携推進部	特任准教授	小 林 基 博	2222
	特任准教授	伊 藤 久 裕	2222
病院経営管理部	特任教授	小 林 美 亜	3217
感染制御部	特任教授	井 上 修	3524
	特任准教授	鈴 木 哲 也	3524
薬剤部	教 授	鈴 木 貴 明	3195
肝疾患センター	特任教授	前 川 伸 哉	2308
臨床研修センター	特任教授	矢 ヶ 崎 英 晃	2017
シミュレーションセンター	特任教授	加 賀 重 亜 喜	2017
医療スタッフ研修センター	特任教授	川 井 田 博 充	2017
入退院支援センター	特任准教授	市 川 二 郎	2362
山梨県地域医療支援センター	特任講師	橋 本 幸 治	2227
循環器救急センター	特任講師	小 林 剛	2310

出生コホート研究センター

所 属	職 名	氏 名	内線番号
出生コホート研究センター	特任教授	山 縣 然太朗	2300
	特任教授	篠 原 亮 次	2300
	特任講師	小 田 和 早 苗	2300

工 学 部

コース名等	職 名	氏 名	内線番号	大学院医工農学総合教育部 修士課程・所属(専攻・コース)
工 学 部	長	郷 健太郎	8632	工学専攻・コンピュータ理工学コース
クリーンエネルギー 化学コース (化学系クラス)	教 授	犬 飼 潤 治	8185	工学専攻・応用化学コース
	教 授	入 江 寛	8092	工学専攻・応用化学コース
	教 授	内 田 誠	1407	工学専攻・応用化学コース
	教 授	柿 沼 克 良	1430	工学専攻・応用化学コース
	教 授	*近 藤 英 一	8472	工学専攻・先端材料理工学コース
	教 授	武 井 貴 弘	8616	工学専攻・応用化学コース
	教 授	宮 尾 敏 広	1426	工学専攻・応用化学コース
	教 授	宮 武 健 治	8707	工学専攻・応用化学コース
	教 授	綿 打 敏 司	8656	工学専攻・応用化学コース
	教 授	和 田 智 志	8555	工学専攻・応用化学コース
	准教授	井 上 久 美		工学専攻・応用化学コース
	准教授	葛 目 陽 義	8187	工学専攻・応用化学コース
	准教授	齋 藤 典 生	8723	工学専攻・応用化学コース
	准教授	高 嶋 敏 宏	8094	工学専攻・応用化学コース
	准教授	山 中 淳 二	8655	工学専攻・先端材料理工学コース
	助 教	佐 藤 智 子		
助 教	山 田 伊 織	8625		
応用化学コース (化学系クラス)	教 授	奥 崎 秀 典	8554	工学専攻・応用化学コース
	教 授	小 幡 誠	8549	工学専攻・応用化学コース
	教 授	桑 原 哲 夫	8548	工学専攻・応用化学コース
	教 授	柳 博	8559	工学専攻・応用化学コース
	教 授	米 山 直 樹	8568	工学専攻・応用化学コース
	准教授	植 田 郁 生	8552	工学専攻・応用化学コース
	准教授	上 野 慎太郎	8545	工学専攻・応用化学コース
	准教授	阪 根 英 人	8551	工学専攻・応用化学コース
	准教授	佐 藤 哲 也	8627	工学専攻・先端材料理工学コース
	准教授	長 尾 雅 則	8610	工学専攻・先端材料理工学コース
	准教授	藤 井 一 郎	8647	工学専攻・応用化学コース
	准教授	米 崎 功 記	8617	工学専攻・応用化学コース
	助 教	小 俣 香 織	8557	工学専攻・応用化学コース
	助 教	西 村 涼		工学専攻・応用化学コース
	助 教	福 井 慧 賀	8561	工学専攻・応用化学コース
	助 教	丸 山 祐 樹	8506	工学専攻・先端材料理工学コース
助 教	山 本 結 生	8576	工学専攻・応用化学コース	
土木環境工学コース (土木環境系クラス)	教 授	齋 藤 成 彦	8529	工学専攻・土木環境工学コース
	教 授	遠 山 忠	8346	工学専攻・土木環境工学コース
	教 授	原 本 英 司	8725	工学専攻・土木環境工学コース
	教 授	*武 藤 慎 一	8599	工学専攻・土木環境工学コース
	教 授	森 一 博	8594	工学専攻・土木環境工学コース
	教 授	吉 田 純 司	8521	工学専攻・土木環境工学コース
	准教授	大 槻 順 朗	8522	工学専攻・土木環境工学コース
	准教授	梶 山 慎太郎	8528	工学専攻・土木環境工学コース
	准教授	佐 藤 賢之介	8530	工学専攻・土木環境工学コース
	准教授	相 馬 一 義	8345	工学専攻・土木環境工学コース
	准教授	竹 谷 晃 一	8524	工学専攻・土木環境工学コース
	准教授	中 村 高 志	8727	工学専攻・土木環境工学コース
	准教授	八重樫 咲 子	8596	工学専攻・土木環境工学コース
	助 教	五 三 裕 太		
	助 教	佐 藤 史 弥	8519	工学専攻・土木環境工学コース
	助 教	松 浦 拓 哉	8523	工学専攻・土木環境工学コース
助 教	米 田 一 路	8601	工学専攻・土木環境工学コース	
助 教	劉 星 委	8526	工学専攻・土木環境工学コース	
助 教	阮 坤 林			

コース名等	職 名	氏 名	内線番号	大学院医工農学総合教育部 修士課程・所属(専攻・コース)
コンピュータ理工学 コース (情報系クラス)	教 授	小 澤 賢 司	8586	工学専攻・コンピュータ理工学コース
	教 授	郷 健太郎	8632	工学専攻・コンピュータ理工学コース
	教 授	高 橋 正 和	8585	工学専攻・コンピュータ理工学コース
	教 授	豊 浦 正 広	8494	工学専攻・コンピュータ理工学コース
	教 授	鍋 島 英 知	8767	工学専攻・コンピュータ理工学コース
	教 授	服 部 元 信	8766	工学専攻・コンピュータ理工学コース
	教 授	渡 辺 喜 道	8651	工学専攻・コンピュータ理工学コース
	准教授	飯 野 孝 浩	8763	工学専攻・コンピュータ理工学コース
	准教授	井 上 武	8654	工学専攻・コンピュータ理工学コース
	准教授	小 俣 昌 樹	8510	工学専攻・コンピュータ理工学コース
	准教授	竹 中 栄 晶		工学専攻・コンピュータ理工学コース
	准教授	古 屋 貴 彦	8485	工学専攻・コンピュータ理工学コース
	特任准教授	クップル ドミニク	8497	工学専攻・コンピュータ理工学コース
	助 教	朱 臻 陽	8569	工学専攻・コンピュータ理工学コース
	助 教	鳥 谷 輝 樹	8630	工学専攻・コンピュータ理工学コース
	助 教	ノヴァコフスキ カロル ピオトル	8648	工学専攻・コンピュータ理工学コース
	助 教	吉 川 雅 修	8491	工学専攻・コンピュータ理工学コース
	特任助教	張 江 洋次朗	8653	工学専攻・コンピュータ理工学コース
	特任助教	矢 島 英 明		工学専攻・コンピュータ理工学コース
特任助教	陸 可 鏡	8761	工学専攻・コンピュータ理工学コース	
機械工学コース (機械電気系クラス)	教 授	伊 藤 安 海	8673	工学専攻・機械工学コース
	教 授	岡 澤 重 信	8441	工学専攻・機械工学コース
	教 授	中 山 栄 浩	8424	工学専攻・機械工学コース
	教 授	野 田 善 之	8440	工学専攻・機械工学コース
	教 授	張 本 鉄 雄	8360	工学専攻・先端材料理工学コース
	准教授	青 柳 潤一郎	8574	工学専攻・機械工学コース
	准教授	秋 月 拓 磨	8674	工学専攻・機械工学コース
	准教授	*大 原 伸 介	8432	工学専攻・機械工学コース
	准教授	鍵 山 善 之	8575	工学専攻・機械工学コース
	准教授	*猿 渡 直 洋	8095	工学専攻・機械工学コース
	准教授	鳥 山 孝 司	8471	工学専攻・機械工学コース
	准教授	孕 石 泰 丈	8446	工学専攻・機械工学コース
	准教授	舩 谷 俊 平	8434	工学専攻・機械工学コース
	准教授	山 本 義 暢	8435	工学専攻・機械工学コース
	助 教	伊 藤 竜 大		工学専攻・機械工学コース
	助 教	杉 山 裕 文	8457	工学専攻・機械工学コース
	助 教	田 中 一 眞		工学専攻・機械工学コース
	助 教	塚 本 祐 作		工学専攻・機械工学コース
	助 教	深 澤 薫	8436	工学専攻・機械工学コース
助 教	山 田 隆 一	8091	工学専攻・機械工学コース	
メカトロニクスコース (機械電気系クラス)	教 授	石 井 孝 明	8419	工学専攻・メカトロニクス工学コース
	教 授	金 蓮 花	8448	工学専攻・メカトロニクス工学コース
	教 授	小 谷 信 司	8469	工学専攻・メカトロニクス工学コース
	教 授	鈴 木 良 弥	8484	工学専攻・メカトロニクス工学コース
	教 授	寺 田 英 嗣	8452	工学専攻・メカトロニクス工学コース
	教 授	西 崎 博 光	8361	工学専攻・メカトロニクス工学コース
	教 授	牧 野 浩 二	8423	工学専攻・メカトロニクス工学コース
	教 授	森 澤 正 之	8665	工学専攻・メカトロニクス工学コース
	准教授	石 田 和 義	8442	工学専攻・メカトロニクス工学コース
	准教授	北 村 敏 也	8455	工学専攻・メカトロニクス工学コース
	准教授	丹 沢 勉	8490	工学専攻・メカトロニクス工学コース
	准教授	平 晋一郎	8417	工学専攻・メカトロニクス工学コース
	准教授	渡 邊 寛 望	8502	工学専攻・メカトロニクス工学コース
	助 教	北 野 雄 大	8564	工学専攻・メカトロニクス工学コース
	助 教	孫 瀟	8451	工学専攻・メカトロニクス工学コース
	助 教	原 田 裕 生	8466	工学専攻・メカトロニクス工学コース
	助 教	レオ チー シャン	8583	工学専攻・メカトロニクス工学コース

コース名等	職 名	氏 名	内線番号	大学院医工農学総合教育部 修士課程・所属(専攻・コース)
電気電子工学コース (機械電気系クラス)	教 授	有 元 圭 介	8609	工学専攻・先端材料理工学コース
	教 授	内 山 智香子	8578	工学専攻・電気電子工学コース
	教 授	垣 尾 省 司	8514	工学専攻・電気電子工学コース
	教 授	佐 藤 隆 英	8504	工学専攻・電気電子工学コース
	教 授	關 谷 尚 人	8393	工学専攻・電気電子工学コース
	教 授	鍋 谷 暢 一	8458	工学専攻・電気電子工学コース
	教 授	二 宮 啓	8073	工学専攻・電気電子工学コース
	教 授	埴 雅 典	8683	工学専攻・電気電子工学コース
	教 授	矢 野 浩 司	8474	工学専攻・電気電子工学コース
	准教授	居 島 薫	8433	工学専攻・先端材料理工学コース
	准教授	内 山 和 治	8680	工学専攻・先端材料理工学コース
	准教授	宇 野 和 行	8508	工学専攻・電気電子工学コース
	准教授	小 川 覚 美	8261	工学専攻・電気電子工学コース
	准教授	小野島 紀 夫	8503	工学専攻・電気電子工学コース
	准教授	白 木 一 郎	8463	工学専攻・電気電子工学コース
	准教授	鈴 木 雅 視	8170	工学専攻・電気電子工学コース
	准教授	チェン リー チュイン	8072	工学専攻・電気電子工学コース
	准教授	橋 本 一 成	8620	工学専攻・電気電子工学コース
	准教授	本 間 聡	8412	工学専攻・電気電子工学コース
	准教授	山 本 真 幸	8192	工学専攻・電気電子工学コース
助 教	伊 藤 宙 陸	8650	工学専攻・電気電子工学コース	
助 教	作 間 啓 太	8686	工学専攻・電気電子工学コース	
総合工学クラス	教 授	近 藤 英 一	8472	工学専攻・先端材料理工学コース
	教 授	武 藤 慎 一	8599	工学専攻・土木環境工学コース
	助 教	*小 俣 香 織	8557	工学専攻・応用化学コース

*兼務

基礎教育センター

職名	氏名	内線番号
教授	安藤英俊	8363
教授	石川陽	8349
教授	小須田雅	8141
教授	酒井優	8347
教授	清水毅	8445
教授	鈴木智博	8492
教授	野原慎士	8287
教授	星野歩	8488
教授	宮嶋尚哉	8571
教授	村中司	8476
准教授	小松堯	8511
准教授	東海林篤	8348
准教授	中村一彦	8462
准教授	山浦浩太	8444
助教	入江佑樹	8447
助教	則竹史哉	8362
助教	坂野斎	8687

クリスタル科学研究センター

職名	氏名	内線番号
教授	有元圭介	8609
教授	武井貴弘	8616
教授	綿打敏司	8656
准教授	齋藤典生	8723
准教授	長尾雅則	8610
准教授	山中淳二	8655
准教授	米崎功記	8617
助教	丸山祐樹	8506
助教	山田伊織	8625

ものづくり教育実践センター

職名	氏名	内線番号
准教授	猿渡直洋	8095

生命環境学部

学 科 名	職 名	氏 名	内線番号
学 部 長	教 授	岸 上 哲 士	8800
生 命 工 学 科	教 授	大 山 拓 次	8828
	教 授	岸 上 哲 士	8705
	教 授	幸 田 尚	8537
	教 授	鈴 木 堅 太 郎	8789
	教 授	永 松 剛	8536
	教 授	山 村 英 樹	8546
	准教授	石 内 崇 士	8539
	准教授	大 槻 隆 司	8646
	准教授	笠 井 慎 也	8750
	准教授	志 浦 寛 相	8821
	准教授	新 森 英 之	8566
	准教授	中 川 洋 史	8544
	准教授	松 丸 尊 紀	—
	助 教	小 久 保 晋	8507
	助 教	武 晃	—
	助 教	福 田 溪	—
	(特任)助教	古 里 咲 綺 乃	8542
地 域 食 物 科 学 科	教 授	乙 黒 美 彩	8831
	教 授	鈴 木 俊 二	8394
	教 授	村 松 昇	8823
	教 授	望 月 和 樹	8829
	(特任)教授	柳 田 藤 寿	8605
	准教授	片 岡 良 太	8830
	准教授	岸 本 宗 和	8606
	准教授	関 洋 子	8468
	准教授	久 本 雅 嗣	8658
	准教授	三 木 健 夫	8659
	准教授	両 角 佑 一	8278
	助 教	青 木 是 直	8820
	助 教	石 山 詩 織	8832
	助 教	斉 藤 史 恵	8824
	助 教	水 津 光 昭	—
(特任)助教	井 上 絵 梨	8640	
環 境 科 学 科	教 授	石 平 博	8602
	教 授	岩 田 智 也	8339
	教 授	島 弘 幸	8834
	教 授	田 中 靖 浩	8833
	教 授	西 田 繼	8593
	教 授	松 本 潔	8172
	准教授	亀 井 樹	8213
	准教授	黄 瀬 佳 之	8579
	准教授	小 林 拓	8341
	准教授	後 藤 裕 子	8835
	准教授	馬 籠 純	8728
	助 教	呼 日 查	8839
	助 教	向 井 真 那	8193

学 科 名	職 名	氏 名	内線番号
地域社会システム学科	教 授	石 塚 迅	8153
	教 授	稲 田 和 也	8840
	教 授	島 崎 洋 一	8340
	教 授	田 中 敦	8167
	教 授	平 井 寛	8395
	准教授	井 上 智 紀	8151
	准教授	大 橋 麻里子	8598
	准教授	門 野 圭 司	8342
	准教授	菊 地 淑 人	8691
	准教授	金 基 成	8343
	准教授	黒 川 哲 治	8837
	准教授	小 松 志 朗	8171
	准教授	佐々木 博 之	8825
	准教授	成 川 旦 人	8512
	准教授	藤 原 真 史	8190
	准教授	宮 川 雅 至	8338
	助 教	若 生 直 志	8838
	(特任) 助教	齊 藤 太 郎	—
(特任) 助教	松 原 可南子	—	

学内共同教育研究施設

クリーンエネルギー研究センター

内線番号

センター長（専任）	教授	宮 武 健 治	8707
専任教員	教授	犬 飼 潤 治	8185
専任教員	教授	入 江 寛	8092
専任教員	教授	柿 沼 克 良	1430
専任教員	教授	二 宮 啓	8073
専任教員	教授	宮 尾 敏 広	1426
専任教員	准教授	井 上 久 美	8147
専任教員	准教授	葛 目 陽 義	8187
専任教員	准教授	高 嶋 敏 宏	8094
専任教員	助教	佐 藤 智 子	
(特任)専任教員	助教	依 田 正 臣	

機器分析センター

センター長（兼任）	教授	近 藤 英 一	8472
専任教員	准教授	藤 井 一 郎	8647

総合分析実験センター

センター長（兼任）	教授	森 石 恆 司	2275
専任教員	准教授	北 間 敏 弘	2611
専任教員	准教授	兼 平 雅 彦	2161
専任教員	講師	長 友 啓 明	2161
専任教員	講師	瀬 川 高 弘	2614

キャリアセンター

センター長（兼任）	教授	張 本 鉄 雄	8360
(特任)専任教員	教授	山 本 和 美	8318

水素・燃料電池ナノ材料研究センター

(特任)センター長（専任）	教授	飯 山 明 裕	1414
部門長（専任）	教授	内 田 誠	1407
(特任)部門長（専任）	教授	浦 田 隆 行	1408
(特任)専任教員	教授	吉 積 潔	1419
(特任)専任教員	助教	史 国 玉	1428

大学教育・DX推進センター

センター長(兼任)	教授	埴 雅 典	8683
副センター長(専任)	准教授	山 本 真 幸	8192
専任教員	教授	日 永 龍 彦	8279
専任教員	准教授	鈴 木 一 克	8204
(特任)専任教員	教授	坂 田 信 裕	8286
(特任)専任教員	准教授	岡 村 康 弘	8321
(特任)専任教員	助教	赤 池 美 紀	8207

全学共通教育センター

センター長、評価室長(兼任)	教授	森 澤 正 之	8665
副センター長、推進室長(兼任)	准教授	安 藤 大 輔	8202
企画室長(兼任)	准教授	大 槻 隆 司	8646
専任教員	教授	仲 本 康 一 郎	8272
専任教員	准教授	寺 田 雄 介	8750
専任教員	准教授	久 保 佑 輔	8117
外国語特任教員	准教授	グレアム・フィリップ	8276
外国語特任教員	准教授	パンディ・アルップ	8331
外国語特任教員	准教授	リード・ゴードン	8277

国際化推進センター

センター長(兼任)	教授	西 崎 博 光	8361
専任教員	教授	伊 藤 孝 恵	8753
専任教員	教授	江 崎 哲 也	8752
専任教員	教授	宮 本 和 子	8595
専任教員	助教	布 村 猛	8152

発生工学研究センター

センター長(専任)	教授	若 山 照 彦	8826
専任教員	准教授	若 山 清 香	8826

アドミッションセンター

センター長(兼任)	教授	幸 田 尚	8537
(特任)専任教員	助教	吉 田 翔 太 郎	8265

地域未来人材育成センター

センター長(兼任)	教授	渡 辺 喜 道	8453
副センター長	教授	田 中 靖 浩	8833

国際流域環境研究センター

センター長(兼任)	教授	石 平 博	8602
副センター長(兼任)	教授	西 田 継	8593
研究推進担当教員	教授	原 本 英 司	8725
研究推進担当教員	教授	遠 山 忠	8346
研究推進担当教員	准教授	相 馬 一 義	8345
研究推進担当教員	准教授	中 村 高 志	8727
研究推進担当教員	准教授	馬 籠 純	8728
研究推進担当教員	助教	亀 井 樹	8213

山梨GLIAセンター

センター長(兼任)	教授	小泉 修一	2260
専任教員	教授	繁富 英治	2260

保健管理センター/学生サポートセンター カウンセリング・サポート室/アクセシビリティ・コミュニケーション支援室 男女共同参画推進室

保健管理センター

内線番号

センター長(兼任)	理事(医療担当)	木内 博之	
副センター長(兼任)	理事(教学担当)	奥田 徹	
副センター長(兼任)	理事(労務担当)	高見 太也	
専任教員	教授	高山 一郎	2103
専任教員	病院教授	篠原 学	8083

学生サポートセンター

センター長(兼任)	教授	吉井 勘人	8232
-----------	----	-------	------

カウンセリング・サポート室

室長(兼任)	教授	吉井 勘人	8232
専任教員	講師	正木 啓子	8024
(特任)専任教員	助教	西谷 晋二	8664

アクセシビリティ・コミュニケーション支援室

室長(兼任)	准教授	永田 真吾	8233
(特任)専任教員	助教	坂田 侑奈	8467
(特任)専任教員	助教	藤本 夏美	8467

男女共同参画推進室

室長(兼任)	教授	志村 結美	8323
(特任)専任教員	助教	山村 裕美	8350

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dotted lines.



Handwriting practice lines consisting of 4 horizontal dotted lines.



リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。